

## 大正十一年度豫算解説

大正十一年度豫算編成に當りても従前の通り節約方針を踏襲した然れども逐年市勢の發展に伴ひ事務繁劇益々其度を加ふるを以て物件費に於ては峻厳なる査定を加へ大體に於て前年度より減少する方針を採りたれども従來の施設の充實を要するもの及新規設備完成に伴ひて要する經營費の爲増加せるものあり又人件費に於ては大正九年度の當初に於て一般に増俸を爲したる以後既に滿二ヶ年を経過し其間増俸を實行せざりしを以て今回は慎重究査の結果多少給與を厚くするの方針を採つた隨て一般事務費に於ては幾分増加の趨勢を示した而も市民負擔も亦未だ加重すべからざるの實狀に存するを以て既定計畫に屬する新事業の外は緊切急迫の經費のみを計上し豫算編成上尠からざる苦心を拂つたのである

先づ新豫算の總額を述べれば

普通特別各經濟を通計し歳入總額一億四百五萬八千五百二十七圓歳出總額一億八十九萬百四十一圓にして内組替關係に依り計算の重複せるもの三千二百七十七圓並に電氣軌道用品資金(四、二七七、二〇〇圓)受託事業費(一五、三五〇圓)區費整理費(六三二、三〇七圓)を控除すれば實収入六千八百七十九萬七千七百五十四圓實支出六千五百二十二萬五千三百五十五圓を算し之を前年度原豫算に比すれば實収入三百六十五萬千七百七十八圓實支出五百五十八萬七千四百五十一圓を減少せり

今各經濟毎に其概要を説明せむ

### ◎普通經濟

歳入出共に千九百八十一萬百三十七圓、歳出經常部千五百七十七萬三千九百五十圓、臨時部四百三萬六千八百八十七圓にして之を前年度原豫算に比すれば歳入出共に二百九萬五千四百一十一圓を増し豫算表對照に供したる十一月末現在の前年

度豫算に比較すれば經常部に於て二百五十萬二千二百五十一圓を増し臨時部に於て五百二十六萬五千七百三十二圓を減じ差引歳出總計に於て二百七十六萬三千四百八十一圓の減少を示せり經常部の増額は主として都市計畫事業の財源中本經濟に收入して其事業費へ組替ふる百八十三萬五千六百十三圓及公債元利支拂の爲の公債費への組替額に於て七萬六千三百七十四圓増加せると新施設の維持經營費の増加とに基因するものなり臨時部の減少小學校其他教育設備の創設、住宅の建設監獄跡地の買収、屎尿處理設備等の臨時事業が前年度を以て了りしと前年度中に新企畫に係る追加豫算多かりしとに因るものである

今臨時部の大要を述べれば

### 一、役所費として

市役所費(土木出張所の倉庫書寫眞窪等新設)

二〇、二〇〇圓

大阪市沿革史編纂費

四、八九七圓

### 一、土木費として

道路臺帳調製費

二〇、〇〇七圓

町名地番調査費

一一、七九九圓

道路費(都市計畫事業に屬せざる道路の新設及擴張費)

四九八、八三一圓

監獄跡敷地整理費(前年度施行し得ざりし殘工事費)

八九、八九〇圓

河川改良費(大正六年度以降續行せる枝川改良工事費)

三二九、〇〇七圓

### 一、教育費として

高等商業學校費(主として講堂の整理費)

一五、〇〇〇圓



商業學校費(天王寺商業學校教室の新築費) 一〇五、〇〇〇圓

工業學校費(移轉の爲新築を要する本館及附屬建物工事費) 五七〇、八八一圓

實業學校費(鑄工場の増築費) 七、一八六圓

實業學校創設繼續豫算總額一、六五一、四〇九圓の内本年度支出額 一、〇〇四、四三〇圓

豐岬學校創設費(前年度追加豫算に以て着手本年度を以て完成) 九八、九五六圓

實踐高等安學校創設費(大正九年度創設に着手本年度にて完成) 一一一、八三八圓

海外教育調査費 一一、〇〇〇圓

美術館創設費 八、五〇一圓

一、衛生費として

傳染病豫防費(防疫用自動車々庫新設) 一〇、三五〇圓

汚物掃除費(塵芥焼却爐其他各種設備の新設、改造、及大修繕) 四四、五〇〇圓

塵芥處理調査費(九年度着手せし實驗調査の續行) 三〇、六八三圓

結核療養所費(看護婦宿舍及附屬設備増設) 一五、二四〇圓

衛生試驗所費(現在建物狹隘に付監獄跡敷地へ新設前年度追加豫算を以て着手本年度を以て完成) 一七四、四〇三圓

葬儀所費(天王寺役場廊下新設及路面舗装) 六、四〇〇圓

一、其 他

勸業館費(大修繕) 三三、四六五圓

工業研究所費(十年度より三ヶ年豫算にて移轉の爲の新築) 一一一、八九一圓

外國貿易調査費 四〇、〇〇〇圓

公園費(淀川公園新設備) 一五三、二一四圓

社會事業費(前年度追加豫算を以て企畫せる公立病院の建築費) 一七九、六九八圓

寄附金(高等學校建築費として寄附本年度を以て二十萬圓定附完済) 五〇、〇〇〇圓

補助金(慈惠、教育、衛生、兵事、祭典等の補助) 一二〇、二三四圓

右の外電鐵減換補足金へ繰戻二〇四、五〇〇圓(大正五年度繰替後連年繰戻し本年度を以て完了)基本財産元利金の繰戻三八、三〇一圓等あり

歳入は前年度に比し一時的收入たる補助金、寄附金、物品賣却代、繰越金、組入金、繰戻金、等へ減少したれども恒久的收入は何れも多少の自然増加を示せり但し市税に於ては自然増収の外に都市計畫事業費の財源たる新税を含むを以て總額に於て百二十萬餘圓の増加を示せども之を差引たる一般經濟に充當し得べき市税収入は八百九十六萬八千三百十八圓にして前年度の同税目收入豫算に對し二十六萬四千三百六十七圓の自然増収を見たり而して實業學校創設資金は既定計畫に依り公債収入を組入れ又河川改修資金として前年度と同じく電鐵利益金十萬圓を組入る、外に臨時部の土木事業の財源として曳船道及河敷、不用官有道路、溝渠、物揚場敷の賣却代を又工業學校新築資金として現在敷地代の一部を不動産賣却代に計上したれども尙臨時事業の財源に不足あるを以て公債費經濟に於て得たる外債買入益金預金利子の増收等五十二萬圓を組入れ以て緊急施設を要する事業を遂行するの計畫を樹てた

◎水道費

歳入出は共に四百三十二萬六千七百九十一圓にして前年度に比し十四萬五千二百五十一圓を増加せり此れ偏に給水量の増加を見込みたるに因るものにして前年度は一日九十八萬石の配水豫定なりしも本年度は百十萬石としたり配水量は



右の如く増加したれどもそれが経費は前年度百四十四萬六千四百四十三圓に對し本年度百四十七萬九千三百三十九圓にして僅に三萬三千百九十六圓の増加に過ぎず是れ一は石炭の價格低減にも因れども経費の節約に苦心したる結果に外ならず而して既定の水道事業資金公債元利支拂に要する約百五十萬圓の外に他事業の爲に二十四萬五千餘圓を公債費に組替へ且つ前年度繰越金の大部(三十萬)圓を準備金として蓄積し尙餘力を以て水管の改良及増設に七十二萬五千三百二十圓擴張殘務整理に三萬二千九百九十圓を投じ更に四萬七千餘圓を以て將來の水道擴張方針を定むる爲都市計畫事業に順應すべき水道設備及上水消毒方法等の調査を開始するこゝとした

◎ 電氣軌道營業費

歳入出共に千七百六十萬四千四百圓にして前年度に比し三十二萬七千九百九十八圓を増加せり是れ亦電車收入の増加を見込みたるに因るものにして歳出に於ては營業哩數の増加(七哩九九、十年度末四六哩二九、十一年度末五四哩二八)に伴ひ經營費(事務費、軌道作業費、給電作業費、雜支出)前年度(七、九九一、一〇〇圓)より十五萬八千二百圓増加(十一年度八、一四九、三〇〇圓)し尙減損補足金も利子收入の外に四十萬圓(前年度は三五〇、〇〇〇圓)を蓄積し既定計畫に屬する公債元利支拂財源を組替へ尙前年度通普通經濟へ十萬圓建設事業資金として百五十六萬六千三百圓を組替へ諸設備補修及改良の爲二百二十六萬七千九百圓を計上し都市計畫事業に順應すべく高速交通機關の調査の爲六萬三千八百圓を計上するこゝとした

◎ 電氣軌道建設費

歳入出共に千六百六十七萬八千七百圓にして前年度に比し六百九十七萬七千七百圓を減少せり是れ前年度に於て動力設備及車輛費等の計上額著しく多かりし爲にして本年度事業の概要を説明せば

一 軌道工事費 二、六一九、八〇〇圓

内譯左の通り

天満橋善源寺町線	〇、哩九八
松島南恩加島町線	〇、一七
西野田櫻島線	〇、八四
谷町寢屋川線	〇、七三
上本町下味原町線	〇、五五

一 發電所増設 四、一七三、一〇〇圓

繼續工事

一 車庫増設 一、五二二、九〇〇圓

春日出鶴町

一 車輛新造 一、五六〇、〇〇〇圓

低床ボギー 五〇〇臺  
同 四輪車 三〇〇臺

一 現業員公舎及病院建設二七三、九〇〇圓

五十六戸一ヶ所

一 給電設備 四〇、四〇〇圓

延長五哩及百馬力擴張

一 諸建物及器具機械 二九二、五〇〇圓

一 十年度より繰越事業九一三、二〇〇圓

内譯左の如し

電氣時計設備	工費 三〇、六〇〇圓
梅田善源寺町線	同 六五、〇〇〇圓
上本町車庫	同 一九、八〇〇圓
櫻ノ宮車庫	同 四一、五〇〇圓
車 輛	同 七二五、〇〇〇圓



其 他

同 三一、三〇〇圓

等にして右に要する總經費十七萬二千九百圓及豫備費十二萬圓を計上した

而して其財源は營業利益百五十六萬六千三百圓、財産賣却代其他雜收入三萬五〇九百圓既定計畫に依りて得たる資金の繰越八百六萬八〇八百圓の外に新に第七回電氣鐵道公債を募集し(債額二百十五萬圓)を之に充當する計畫である

◎ 港 灣 費

歳入出は共に九十一萬五千九圓前年度に比し二十六萬九千二百六十二圓を減少せり是れ一は受託工事たる船客棧橋築造工事が完成したると一は財界の不況が港灣地帯利用者たる製鐵業者造船業者等に加へたる打撃が未だ回復の機運に向はざるに因るものなり而して歳出に於ては公債元利支拂の爲の組替金に於て十一萬千三百三十七圓の減少あれども經營維持費に於て五萬二千三百二十七圓の増加を要するを以て臨時事業としては北突堤外埋立費七萬九千九百九十五圓を計上したるに過ぎず

◎ 築 港 費

既定計畫により第四回築港公債募債收入中二百五十萬圓を以て大正七年度より繼續施行せる横棧橋、荷揚場等の諸工事を進捗せしむる經費を計上した

◎ 都市計畫事業費

歳入出共に四百八十七萬六千五百二十六圓にして既定計畫中街路新設及擴張に付ては財源關係の法令にして未發布に屬するものあるを以て暫く之を除き路幅整理、路面舗裝、各種設備、器具機械に關する豫定額及前年度募集の公債に關する費用を計上し歳入に於ても公債收入は暫く之を除き普通經濟に收入せる財源及電鐵負擔分に係る組入金、特別負擔國庫、補助金等の一部並に都市計畫特別稅たる地租割及國稅營業稅割等を計上した

◎ 第二回下水道改良費

歳入出共に二百四萬六千八圓是れ昨年未議決に係る(自大正十一年度、至同十三年度)第二回下水道改良費繼續年期及支出方法に依り其十一年度分百八十五萬圓ニ關係公債財源として決定せる都市計畫特別稅家屋稅十九萬餘圓を歳入とし之に對する歳出を計上せるものにして本年度工事は西野田、市岡、泉尾三軒家の各幹枝線の一部市岡、小林兩抽水所の築造工事の一部及西野田、上福島、北野、難波、西濱の既設抽水所の唧筒増設築造に關する諸工事である

◎ 下水道改良費

歳入出共に百七十五萬九千八百三十三圓にして既定計畫に屬する下水道改良工事(總額六百萬圓)の殘工事完成の費用なり即ち第二回下水道公債の收入百四十四萬圓ニ國庫補助金過年度の繰越資金、給水料及雜收入等三十一萬餘圓とを以て天王寺、玉造、今宮の各幹枝線及日本橋枝線等の殘工事を完成するに要する經費に充當するものである

◎ 公 債 費

歳入は三千三百六十二萬百六十六圓歳出は三千四十五萬千七百八十圓にして前年度に比し歳入千六百八十一萬五千三百七十三圓歳出千八百三十萬六千四百七十七圓を減少せり是れ前年度に於ては巨額の事業資金に關する公債計畫多かりしに由る

十一、本年度の公債計畫は

- 一、下水道公債 既定計畫に屬する下水道公債中大正八年度以降大正十一年度迄に屬する百五十六萬六千圓は長期公債募集機會なく凡て短期債に依りしを以て十一年度に於て長期債を募集し其短期債を償還せむとするもの
- 一、第二回下水道公債 第一回下水道改良事業の殘工事費(物價騰貴の爲豫定の財源を以て豫定の工事を完了せざりし爲め)の財源として額面百六十萬圓を募集するもの



- 一、第三回下水道公債 第二回下水道改良費繼續費の財源として額面四百三十二萬圓を一時に募集せしむるもの
  - 一、第四回築港公債 本年度築港工事費の財源として短期債償還の爲額面三百三十四萬五千圓を募集の豫定
  - 一、第七回電氣鐵道公債 新計畫にして線路布設車輛製作及車庫新設の經費に充つる爲額面二百十五萬圓を募集せむるもの
  - 一、第二回教育公債 短期債として百十萬圓を募集して實業學校創設費本年度支出額の財源に充當するもの
- 等にして尙前年度來の預金利子等の增收五十二萬圓を普通經濟の臨時部に屬する各種事業資金として組替ふる外は大體既定計畫に基く收支に外ならぬ

## 各論

### 第一編 市役所と吏員

#### 第一章 主腦部

##### 第一節 幹部の組織

大阪市の主腦部は市長と其補佐機關たる三助役である。市長は市政執行機關として萬端の政務を總攬するが助役は其下にありて其運用に直接折衝するのである。即ち第一助役は他助役の首班となり市政に參與するが尙主査として電鐵事業公債策、社會事業策等をも兼ねて居る。第二助役は其下にありて土木事業を主掌し其他をも主査となりて衝に當る第三助役に至つては財務關係其他萬般の事務に従ふのであるが之れを職務から斷定する時は一二兩助役は純然たる政務官で三助役は事務官たるの觀がある。

而して助役級の下には兩收入役と電鐵、都市計畫、港灣、土木、水道、教育、社會の各部長あり更に獨立したる課に課長ありて所謂幹部となつて居るが最高幹部は主として市長助役收入役部長を以て組織されて居る。此階級が市長と進退を共にすべき閣員の地位を占めて居るのである。其顔觸は以下の如し







## 市長 池上四郎氏

⊗：霞郷と云ひ高政と謂ふ凡て之れ池上君の藝術的半面を代名する詞である、君は一見粗野甚しく武張つた様に推定されるが焉ぞ知らん優雅な奥深い執着と妙技を藝術方面に所有して居るのだ、勿論愛好中心ではあるが併し乍ら眞魂を打ち込んで其堂に入らんとする熱心さに至つては先天的の稟性に基くものでなければならぬ、加之、君の人格的傾向が如何にしても此の方面に慰藉を求めて釋然たる餘裕を欲するのである

⊗：紛糾錯雜殆き寸暇を見ざる大阪市務に渾身の熱を以て恰も時計の針の様に正確な出廳執務を試み退廳は所謂星を載いて始めて姿を消す、而して尙更に對内外の交渉に没頭し夜半に自己の解放を漸く得るを謂ふ精勤さである、若し夫れ偶々閑を得ば自動車飛ばして市内各所の巡視を行ひ市政と事業との完成を期するのだ、然も君は早晩古稀に達する年輩である、大概の者は老を以て自任し隱退氣分に浸つて終ふのみか可成りの元氣者でも左様に多忙な生活に遭遇せんか忽ち十日位で屁古垂れて終ふ筈である

⊗：然も池上君は老齡を數ふる事尙壯年を以てし鑠然として些細の屈託たも感せず綽々此生馬の目を抜く様な多忙境を圓滿に漕いて行くのだ、尤も其體格は偉大で強壯で鼻ツ垂れ時代から槍劍術を以て鍛へ上げた結果何處と謂つて缺點なき健實な爲めでもあらうが顧みれば不拔な意志と之れを育成し養ふ所の藝術的趣味に富むのが最大原因である、君は多忙中に寸分を割いて好む所の書畫を忘れない、而して端座須臾にして心身の更新を人知れず心掛けるのだ

⊗：公私多用の折には一時心魂を注いで其方面の思索を爲すが一度閑を作らば一切合切の世上觀を解脫し敢て墨筆鮮かに健腕を揮つて美事な軸額を仕上げつつ末尾に四郎書とか霞郷書とかを捺印する、若し更に興到れば母指大の愛筆を

呵して茲に竹林の畫を描くのである、斯くて獨り樂んで心氣を養ひ更に暇あらば硯の鑑識に耽る、これも随分鑑賞に長じ最近に至つては黒人の域に達して居る、そのみでは無い朝夕の自然觀と自己の過去に根ざした感興とは再び流れ出で、茲に敷島の道を開拓した、君の詠歌は遊戯的でなく寧ろ人情の機微に觸れ哲理を包括して味のある事深い、それで自ら勇氣と志操を養ふのであるから隱然たる宗教肌もあるのだ

⊗：君は其スタートに於て純然たる官僚であるのに今は却つて民衆的の人格者となつて居る、彼れ自身の觀念は嚴格無味な武人の家に人となり孔孟訓や禪宗の陶冶を受け比較的保守型に鑄込まれたものだ、然るに器用な君は家長に従ひ母姿に習つて從順に育てられては居たが内心耽々として進取の氣象に燃わて居たのである、固より人一倍勝氣な糊りの強い素質を帯びて居る君だ、時機を獲ずんば躍り出さぬが一度斷行の志を樹てなば千百萬と雖も我れ行かんの氣概を湛有して居る、殊に抑も君の生地は白虎隊を以て維新史を飾る會津若松藩である、一般に豪氣調達の氣象を享有して居る爲め外觀平凡なるが如く見えて實は如何して中々の健男子だ

⊗：彼れの内面的準備は凡そ斯くの通りであるが其外面から攝取する素養に至つては洵に絶大なものがある、彼れは常に自己を放擲して荐りに人の長所を探り凡ゆる意見を探ねて他山の石として居る、而して最後に自己の所有する見解を以て漸次批判撰擇し是ならば化し非ならば其所以を究めて自らの戒めとして終ふのである、茲に於て官界に在つて揉まれだ過去は凡て彼れの指針となり圭角を脱いて圓熟して來た、宜なる哉波亂止む時なき大阪市政界に推されて市長となり硝煙彈雨將に難關な所を平氣の平左で尤も欣幸とする所であります」小氣味よく切り抜け乍ら瓢粟鯨と攻撃され或はニコボン主義者と叱られても「得難き市長」の敬稱を擅にして居る滑脱さは蓋し類を見ぬ所である

⊗：それで池上君は陣頭にも立つのだ、苟も論戰の火蓋を切つて落したら相手次第に應變の答辯をする、而して尾を捉まれた事がない、事頗る迷倒する場合とが議員の喧騒已まぬ時などは自作の名句たる「市政運用の妙」を振り翳して巧



みに論敵を従へ味方を統御するのである、死んだ原敬君でも池上君の様な藝當は眞似得まいと評せられて居る、一體會津武士の流れには大別して二様の傾向がある(一)は頑迷固陋著しく狹見を抱き郷黨に對してのみ親み乍ら排他的に流れるのだ他は第一傾向で居ながら然も融通の利く人であるが兩者共に深甚なる責任觀を有つ所は同様だ

⊗：池上君の兄弟は概して後者の型に育まれたのである、實兄三郎氏が控訴院長時代部下の責を引いて割腹した美談は今も尙新らしい記憶で綱紀肅正など、今更摘發される連中に服藥せしめ度い位ひである、其血を享けた池上君には敢て一言半句激越な責任觀論を聞くべくもないが併し乍ら君の行ふ所、平常の覺悟から推しては之れ亦現代に珍らしい強固なものがある

⊗：君の今日市長たるは勿論坦々たる過去からではない春風秋雨幾十年致々して積み上げた天惠人爲の結晶である若し政府筋が公平な態度にあり政黨政派の關係に超越して居る時代であつたならば當然貴族院議員の位地に祭られる筈であつた、君の過去は明治十年警視廳の棒をかへたのに始まり今日に迄だ、謂ふだけで足りる、何んとなれば氏のそれは餘りに世間に知悉されて居る、若し人あつて池上四郎とは如何と問はゞ只夫れ廉潔にして剛氣な男、然も自らの短を改むるに人の長を以つてする居士であると言へばよい。



## 第一助役 關 一 氏

⊗：放膽宏心の池上市長には細心周到然も微密な補佐役を必要とする事勿論であるが其女房役として凡ゆる條件を備へた上に尙且つ一家言を爲す學界の耆宿たる關君の如きは恐らく尤も適應した人物であらう、親爺の無味は宜しく娘が補ふべきである、市長の立看板には出来るだけ俊才を羅列抱擁するを以て要諦とする殊に大阪市の如き都市に於ては助役が人選中の最難關で兎もすれば市長と内閣の運命を左右するのだ

⊗：其重要椅子に懇請されて就任した關君の人格的半面は已に定評あるから今更吹々する迄もあるまい、それよりは寧ろ乙な方面を觀察して屋上屋を架せん事を期する、君は君子然たる風眸を具へて苦み走つた面構へをして居る、走れば遅く歩めば恰度一踵毎に數へる様な恰好で甚だ無口な外觀を持つのだ時々發表意識に拙ない人と擬せられるが併し乍ら開口一番殆ど底止するを知らぬ能辯家であるから面白い、而して寂びた面には涼しい眼ざしが輝くのだ

⊗：油の乗つた時なごは該博な智慧を絞つて理義整然たる談論風發し忽ち聽客の三嘆を蒐めて終ふ、のみならず抱腹絶倒の諧謔を交へてよく趣旨を徹底せしめ巧みに群衆心理を捉へては臨機應變態々の所演をするので著明である、尤も虫の居所が悪い時には正直なだけ、それだけ黙り込んで情韻を雖も更に原狀回復罷りならぬの體態だ、でも流石は理智に富む人であるから一時靜かに思索に耽るかと思れば忽ち自制を以て人間の俗流へ素知らぬ顔して調和して行く

⊗：大體學究的の人格者は洵に窮窟な世渡りをするもので世間並に云ふ事を嫌ふ傾向がある、而して動もすれば幽遠無限の學理を探ね顧みて人間の實生活を嘲弄するものだ、それで主觀的に超越至極に心得て居るのが頗る多い、關君は抑も生れ乍らの學者肌で片言双語に雖も曾つて苟も無稽にした事はないのみならず各種の著述に没頭するを唯一の樂こ



して所謂寸時を惜む男である、此の點から行けば是非も變挺な變り者に落ちて行かねばならぬのであるがそこはそれ自在の關君で主觀的にも客觀的にも極めて、のんびりとした餘裕を具へて居る、七面倒臭い靜中在動か動中在靜かかの禪語は凡て彼れの日常生活で解釋されて居る

☒：謂つて無暗に拜み倒す事も出来無い、相當偏狹な所もあり保守的な部分も發見する、併し乍ら大は小を含む定理で頗る非常に微細だから何も撥き出すにも及ぶまい、殊に況んやだ、其優秀卓抜な頭腦は自らの短を照らし長を以て充分に補足して居るに至つては我を知る者は我なりの賢道を歩んで居るものではあるまいか、神様でない限り少々の曲は蓋し己むを得ぬから寧ろ神たれ關君よと求める方が間違ふのだ、兎に角君は大阪市の柱石として陰武者として將た亦謀主として最も適應した人物である

☒：君が池上市長の懇望を浴び三顧の禮を受けて大阪市助役に赴任した當時は市政界の尤も殺伐な時代でもすれば新人物を攻撃せんとする傾向があつた、然るにも抱らす君に對しては敵も味方も異口同音の推稱を聽いたものだ、評する者は悉く其人格と手腕と意志とを激稱して褒めた、お世辭でないが大阪市では當時に至る迄既に輸入助役を迎送する事殆ど二十人に餘つたが赴任の時だけ、玉詞を市民から捧げられたに過ぎ無い、然も君に至つては此記録を破つて未曾有の期待と歡迎讃を一身に集めたのである

☒：爾來春風秋雨茲に八ヶ年一日の如く信賴と敬意と讚仰とを注がれて居る、勿論君の過去に於ける道程も其一原因であらう、然し赴任前の事歴を以て市民を敬服せしめるには餘りに昔噺である、然らば何を以て今日の因を語らん則ち助役として盡した功績、疊々たるが爲めである、微々として振はぬ散漫な財政の積弊を貽した後を享けて前途には尙且つ都市の發達施設の求全財源確立等幾多難澁至極な事業を控へた八年前の市は例へば日暮れて途遠しの觀があつたのである、此亂脈な臺所を預つた女房役の君は随分酸苦を嘗めて來たものだ

☒：それでも事毎に改竄し切り貼りをして切り抜け然も策を樹て案を下して着々と市政の活況を實現し更に商工業を啓發し交通機關を整備し以て忽ち市の發達の端を啓いた、而して今日では昔の豫算を四層倍に増加せしめ全國に冠絶する一大都市に仕上げたのである、表面に稀代の池上君あるからでもあるが亦關君の籌計と手腕とは鮮やかに事實に因つて立證されたものと認めねばなるまい、従つて多數市民の畏敬と嚮望とを蒐めて居る事も成程と考へられるであらう

☒：宜なる哉君は今や市參與に祭り上げられむし池上氏の後を襲つて大阪市長の候補者にも擬せられて居る、而して其實現性が充分に築かれてある

☒：君は今年五十歳の壯者で富士の高ねに積つた雪が融けて湧くと云ふ靜岡縣の水で初産湯を使つた男である、志を得るに及んで學を修め明治二十六年東京商等商業學校を卒業し夙に秀才の譽れを諷はれた、爾後一時大藏省に奉職したが更に神戸高商に教鞭を執り新潟商業學校長に轉じ明治三十年母校東京高商の教授となり三十一年海外留學生として政府から白耳義國に派遣専ら商業に關する研究を遂げ殊に交通政策を専攻したのである

☒：歸朝後再び教鞭を執り傍ら文部省の督學官を兼ね寸暇を拾つては幾多の著述を試みた、當時關君の交通政策論は一般學界の驚異とも稱すべき珍書で名聲共に頗る上つたものだ、四十三年遂に博士會の推す所となり法學博士の學位を授けられ爾來愈々學界を裨益し功績を貽したのであるが固より深慮に富む君は徒らに晏如として理論の鼓吹のみ事とするを屑としない能ふべくんば理論の實行者たらんと心掛けて居たのだ、然し暫し待て花に宿する蝶々かなと彼れは蟄伏した

☒：而して早稻田大學の囑に應じて教授し子弟を育成し兼ねて高商生を養成するに勉め偶々高商の昇格論起るに及んでは其先驅となつて學生の爲めに萬丈の氣焰を吐き且つ光明となつた、故に君は愛する弟子を今各方面に發見する、而して昔の先生を以て敬稱されるのだと同様以上に當時著しく敬愛を受けて居た、時に大阪市助役の交渉を受けたので學



生教授連は舉つて恩師の蹈晦を防止したのである、併し君は既に情實を一擲して市に赴任し偕ても功勞八年克く盡したのである

⊗：法學博士大阪市助役關一君まで木石ぢや無い、纏綿たるこな情緒もあるのだ、一寸紹介して置くが君は成るべく面長な爪ざね形の中年増を嘉するさうだ、現に我輩趣味は御座らぬと謂ふ口で大酒を鯨飲したり煙草を連發したりする更に一竿の糸に日曜を終日河邊に漂泊する事もある、一春宵偶々昔馴染の料亭に先生扱ひされ乍ら破顔一笑愛人の老いて行くのを語る事もある、矣



## 第二助役 有田邦敬氏

山陰の地陵夷誠に極りなく閑地渺し故に棲人も亦荐りに開拓に急ぐを如何せん、君の生地やデカンシヨ節に著名なる丹波篠山を越へ西北に當る柏原在沼貫村なり明治十六年九月七日を以て生を享く、長じて小學に入り進んで中學を了し天然の才氣漸く衆望の的となり京都第三高等學校に在るや秀才を放つ屢々なりき

明治四十一年京都帝大法科出身後一時兵庫縣廳に屬たりしも去つて大阪逓信局に入り要路に在る事前後五ヶ年善く事務を裁理し時の局長阪野鐵次郎君の信任頗る厚きものあり、遂ひに同君の推舉する所となりて大正四年暮更に下村宏博士の副推をも得大阪市助役となる

君や頭腦透徹才氣全身に溢れ論議風發然も開放的にして些の腹臆なく訪人接客に對し善く人の誠を聞き飽く所更にあらず甚だ快美感を頒つべし、常に各般の研究を倦怠なく實行し寸暇を利用するに妙を得、而も一種清涼の氣分と猛然たる突撃的精神縱横に漲り、生地の地勢が黙々の間に熏化せし開拓心を振り起して物々之れ皆理解の抱擁を試みずんば遂ひに止まらず、試みに往年市より特派せられて英米諸國に視察するや其の態度と勤勉とを問へ、然らば住宅問題財政問題及び幾多幹技の事に慧眼と透徹極まれる識博を携へて僅々一ヶ年間に收得せるを發見すべし、之れ君の半面に細密周到なる用意を藏する好例なり、然も洒々磊々身邊何處にか親分風を備ふあり、僅かに學生生活に馴れ所謂譎詐權謀の事に熟せず老翁なる議員の爲めに乗せらる、珍談を貽すものあれども要するに正直一本調子、英才黙し難きに因るのみ、却つて無垢と愛嬌とを求めずして招來する便ありとす

君亦友誼に厚く汎く舊友の爲めに友情を竭して尙足らずと爲す、偶々迷惑を蒙るとも釋然として顧みず、之れを誨へ



んとす、然も友人の同性を悉く解するが如きは驚愕の外なけん

君は侃々諤々の論陣を張り快舌を揮ひて事理を徹底せしむ、其の好む所は運動に在り、學生時代は柔劍、兩道に熱中し屢々進歩の異常なるに大向ふを唸らせたるが最近其機會尠く逋信局時代の如きは密かに脾肉の三歎を日夕に試みたりと謂ふ

近時君も亦交際酒に馴れ綠酒玉杯を傾けて三絃の享樂に躊躇せずと雖も疊殺聲を絞つて得意のデカンショ節を高唱し柳花の媚を惜みなく逆襲する再々に及び無邪氣にして天真なる當今は却つて名物の一つに推獎せらる

又陶酔するに随つて往年の活氣を發揚し瘦軀を提げて足相撲を挑む、試みに應ずれば何人も敵し難し、彼や健脚稀れに見る男にして筋骨敢て石の如く其稚氣を笑へば彼亦呵々大笑す、君は此の兩面を保有し市の要位に在り助役としては失ふべからざる快漢なりとす



### 第三助役 木南正宣氏

五百年の往時を語るものは夫れ金剛山なり、正成の誠忠今尙巍然として竭きず斷雲の生ずる所記銘永へに在り、望めば幾内の平野展びて海に没し茅葺海堂々擴がりて太平洋に結ぶ此の地之れ河内にして大阪府下に屬す、自然の遺訓活教將に駁々たるものあり、君則ち茲に生る、長ずるに従ひ附近抱擁の事蹟に無言の熏化頗る多く明治十七年五月八日に生誕を告げてより今日に至る三十有餘年間座右に銘じて同伴となる迄天然の氣に培かはる、故に居村野田村の小學を卒へ堺中學校を出で京都第三高等學校の學窓に學ぶ暇にも常に故山の叱鞭は發して自憤昂奮の熱となり優に良績を獲しめ進んで京都帝國大學法科大學に入るや逐年玲瓏の光彩を磨くに至れり

明治四十二年七月秀才の榮を克ち獲て法學士となり財政經濟に關する一家見を試みるも敢て群頭を抜く事然りき卒業後私かに自治制に興味を有ち身を挺して奮然大阪市の一公吏となり甘んじて執務に精勵し財務課の爲めに獻身的奉公を爲せるが大正三年末より擢拔せられて一時福岡縣若松市の助役に榮轉し當時困難に陥入れる其財政の振興に盡瘁大いに凝らし漸次九底の危機より甦回せしむ、居る事數年大正六年夏池上現市長の囑望荐りに臻るを以て遂ひに再び大阪市に轉じ直に庶務課長たり、廳紀整調の實を擧げ三ヶ年の間に善く萬端を處理し異常の手腕を發揮せり、大正九年四月特選されて助役に累進し現職に在り

君や銳感明晰にして計數の觀念に天稟の資あり、且つ果斷を以て推理力に富む、故に一億萬圓を突破する大大阪の財政を背負ひて苦も無く處理し市長を援けて理想的事務家と敬慕さる、故無しとせず、其の好む所の玉酒を傾くれば平然二盞杯を辭せず聊か大膽の風あるも歌へば通人を氣取つて鱗すくひを得意とし接客の好感を購ふに足る矣



## 収入役 澁谷祥三氏

⊗：専門家は考へ過ぎるので駄目である、無鐵砲に考へて合理的に仕上げれば何んの著作も無く成功する……と豪語する彼れは大阪市収入役の職分と何んの縁故も無い電車のポールを發明して頓に名聲噴々たるものがある、其言の如く澁谷君の尤も得意なのは考案で此の方面には専門家を驚歎せしむる大票を持つて居る、而して彼自身も思索の爲めには凡ゆる慾望を犠牲に供すると稱する猛者である

⊗：其の頭には科學的な冷靜を有つと共に思ひも寄らぬ敷島の道に適する柔かい詩的情熱をも併有して居るから妙である……枯風一陣世をあけて晩秋の哀調を奏する時、灰色の空には今にも六角の花を送らんとする脅威が漲る、其の只ならぬ氣配を嫌ふてか雁の群れは澁谷家附近に或る日羽を收めた事がある、君は折柄の風情を……世を忍び尋ね來にけん雁が音のいかに嬉しき萬代の池……とやつた

⊗：時に終日考案と讀書に耽る彼れは思ひ出した様に野外を散策する、路傍の苔や軒端の塵にも決して注意を忘る事はない、振り廻すステッキの空氣抵抗まで問題にする緻密さである、結ぶべきものは結び折目あるものは折目なければ承知しない、譬ひ散策でも日常生活の延長であるから謂つた調子で随分几帳面な行住座敷をする男である

⊗：斯うした消極的素質は彼れの一部面に過ぎない、彼れは現在府下帝塚山に於て壯年雄辯會を組織し同志と共に辯舌の努力に心掛けて居る、而して村會議員に上げられ政治的に活動して居る、更に彼れは逸早く郊外生活者を糾合し帝塚山會を組織し市民の文化浴に志すと同時に幾多公共的事業に貢献する積極的の素質を有つのである

⊗：彼れの辯舌は最近次第に達成して抑揚修飾大いに拘すべきものとなつた、只聲量の不足と所演全體の氣分が稍技

巧的に陥入る弊があるのは聽て解脫する過程か、何づれにせよ世の亞流に染まぬ好恰の壯漢である、此謹直 君にも令閨に内所の粹氣はある……三絃のザンザめく音につれてイヤサかつぱれと出る享樂なきは同志にあらずんば誰あつて知る由もない所であらう

⊗：酒も飲まず屁もひらずと謂ふ舞粹な木強漢で無い事は萬人が保證する所であるが左りとして紅粉の迷ひに捉はれ二世を契る愛妻を忘るゝ傳ネム式とは譯けが違ふ、ヨシんば情けを需める佳人ありとて彼れは瞬間に才士の薄倖を知覺して終ふのである、従つて和氣霽々の家庭には粗製濫造と思ひきや三男二女の健兒が未來の雄揮を嬉々として戯れ且つ歌つて居る

⊗：澁谷君を生んだ國は佐賀縣神埼郡東脊振村で筑肥の國境をなす脊振山や其の環境を流れる筑後川なきは共に知名の場所である、彼れは明治十年三月一日其村に生れ父に随つて轉々筑肥の地を歩いたが中學卒業後進んで勉學し暫くは平凡な處世に甘んじて居た、然し機を見るに敏なる彼れは銀行員となりて將來を策して居たのである

⊗：明治三十七年に到り漸く幸運啓けて彼れは村井銀行創立委員に上げられ内部組織全般の建設をした、次いで同行主事に進み貸付係長兼計算係長の要位にあつて恰も日露戰爭前後の財界勃興時代に際し奮闘する勉めたのである、後ち大日本鹽業株式會社が華城の策士吉川、室谷等の諸氏に因りて創設さるゝや君亦招かれて大連支店長に赴任した

⊗：去つて明治四十四年一月大阪市に入り電鐵部調度課長となり明敏なる其頭腦を傾けて會計經理倉庫事務の新設改善殊に會計事務を英斷にも會社風に改め簡捷と的確な方法にしたのである、其後行ふ所可ならざる無く功績甚だ顯著にして衆望を蒐め大正元年副収入役に推され同五年拔擢の上現職となつた、現職に在つても市の複式會計を單式に改め市勢に順應する、企畫を試み市公債募集の衝に當つて益々盛名を馳せて居る



## 副収入役 後藤虎之助氏

⊗：大阪市副収入役の人選は収入役と共に市會に於ける問題の一つである、或る時には黨派關係の争闘を醸し或る時には言論界の論議を集め常に八ヶ敷事となるのである、従つて若し押し立てんとすれば経歴と手腕と人物の三拍子の調つた人でなければ畢竟は當選の榮冠を擔はれ無き事然りである、擁立派も實は自己の勢力の甲乙を試験される事であるから餘程苦心して適任君を求めたのである、後藤君は則ち斯くして候補者に擧げられ市會の難關に首尾よく通過し來つて茲に現職する人である、此の故に多く彼の評を要せずして公的信用の程度は想倒されるであらう

⊗：彼れは其手腕に於て財界に通曉する逸材であり多年斯界に育つた關係上神變鬼沒的の遺り手である、殊に實業界を縦横に乗り切つて來た實力は勃然として經驗の指標の下に財政方面の實務を按配し且つ切り廻すに充分である、既に往年は民間に在つて限りある財力を根據とし限りなき財界の變化に處して尙悠々効を收め果を握つて常勝軍の優勢を保つて來たのである、然るに比較的無限と謂ふべき市の財政を基礎とし同じく強固な範圍に限られて變遷影響少なき部面に力を注げば足りる現在の立場であつて見れば前者に比して數倍の坦々さが數へられるでは無いか、寧ろ有り餘る君の力は使途の狭きを啣つて居るであらう

⊗：更に君は大阪財界の巨頭とも稱せらるゝ小山健三翁の令甥である翁の身體に充實する素質は必ずや君の爲めに遺傳されてある、小山君は然るに財界の傑物であり恐ろしい程切れる人である、流石の片岡老さへも三舍を避ける様な智者巧者である、其脈絡を受けたか否か知る所では無いが後藤君の明智も亦素晴らしいものである、先物の見越にかけては一流の推理と斷定とを以てピシ／＼と確實に當て込む猛者である、然も堅實な陣を張つて畫策なきをする點は第二の小

山老と稱しても先づ異論があるまい、茲に於てか一時盛んに君の名聲を見込み將來を惜んで永く財界に止まるべく奪ひ合ふ奇觀を呈したさうであるが君は素知らぬ顔して實業界を去つて終つたのである

⊗：君は平凡な生活に歸ると同時に一腰辨に成り濟したのである、眞逆眞實の意思であるまいと云ふ評判は随分起つたのであるが當の後藤君は一向平氣風馬牛の體態である而して孜々として通常吏員の如く努力貢獻するのみであつた、折角玉を發見し乍ら無三／＼求め得られぬ不満さを痛感した者は夥しくあつたのである、然し君の決心は挺でも動かす事の出来ぬ牢固たるもので手のつけ様が無い爲め悉く其儘過ぎて終ふ様になつた、これは蓋し君の過去に於ける一大出來事として是非とも見逃すべからざる隠れた経路である

⊗：君は明治四十三年の東京帝國大學政治科出身の壯者である一般に知られた経路としては其後中山太陽堂に入りクヲ化粧品取引の業に店員となつた、而して日夜營々として實業界の状況を見學し前叙の如き社會的勢力を潜かに叩き上げたのであるが超へて思ふ所ありとし大阪市書記となり電氣鐵道部運輸課に勤務し大正五年遂に市會の推すがまゝに副収入役に就任し同九年五月再び當選就職するに至つた迄の話である、曲折も無く経路も簡單至極に受け取れるが要するに潜在勢力の偉大なる事夫れ縷述の通りである

⊗：君は性頗る恬談で執着を好まぬ男である、然し乍ら剛毅な所は以て一事を成し遂げずんばの態度を呼び常に努力の源泉となるので將來爲すあるの吉兆である、殊に其膽略に至つては蓋し小山老人と雖も一目措くに相違無い。



## 電鐵部長 佐竹三吾氏

⊗：前の鐵道省監督局長たる君が國際勞働會議に當つて帝國の一委員となつて歐州に名を馳せた事は今更記憶に新しい事歴である、殊に關西實業界の雄宮崎敬介君と所謂同船中に狸問答を試みた事も見殺しに出來無いエピソードであらう、其狸問答とは外でも無い、君が大正十年の頃しも秋の末つ方、太平洋には今にも雪花を運ぶ様な初冬の風が吹いて居る頃だ、當時米國から急遽立ち歸つた宮崎君と視察を終へた佐竹君とは偶然にも便船を同ふしたのであつた、渡り者の常に想像し得らるゝ様に船客は只蒼浪たる天地に飽きて次第に相語るものであつた、時に餘興や遊戯が縁となつて未知の人達は深い對談者に變つて行く様になつた

⊗：場面はザットこれだけにして抑も片や宮敬君は織るが如き通信に因り佐竹君が市電部長に擬せられて居る事は滯米時代から知り抜いて居る、而して片や法學博士ともあるべき佐竹君も御同様無線電信で部長就任の交渉を受けぬ以前則ち先づ神戸鐵道管理局長時代から市對宮敬關係を悉知して居たのである、それが偶々同船したのであるから堪らない一方は實業界で神變鬼化の策士、一方は又官僚畑で海山三千年を経た然も學者だ、お互ひに先様の痒い所をツ、き出すとするに至つた、ア、左様でしたが……ナカ／＼外國の開拓は著しいものですね……然し大阪も近頃隅には置けない程發達したと謂ふぢやありませんか……これが佐竹君の攻道具であつた

⊗：處が流石は宮崎君……ウンニヤ噂程でもありませんよお聞き及びでもありませんがマダ／＼駄目です……設備が不完全ですからね……と防禦した、而して第一交通機關ですナア……とチロリ佐竹君の面を覗いたのであつた、然し佐竹君も左る者直ちに……交通機關の設備がですかコリヤ耳よりですナア……コレが尤も考るべきもの、一つと聞いてい

ましたが……と今度はジロ／＼強度な近眼鏡の下から覗き返した……斯うして櫟つたい様な對談を重ねたのであるが口を重ねるに従つて親密となりそれからそれへと談が弾んで到々お互ひに他事に外らし乍ら市電鐵部長の缺員だの又は人材多々ある事だの或は大阪は不人氣な所だのと謂ふ様になつたが肝心要目の問題には觸れまい、覺られまいと努力した一席をこれ狸問答と謂ふのである

⊗：然も宮崎君が否定し佐竹君が遂ひぞ知らぬ半兵衛を極め込んだ大阪市電鐵部長の椅子は誰あらう佐竹三吾君が占めて居るのである、顧みて當時を回想すれば慧眼な宮崎君や敏捷な佐竹君も共に吹き出し度くなる程左様に分り切つた事であつたらう……ア、此の人が來るのだナ……とかハ、ア此の人が將來の敵將だナア位ひはお互の心底に充分持ち合せて居たに相違無い……それは如何でもよい、佐竹君の自重不惑は凡てコンナ調子である、君は時機を捉へつ、進む人石橋を叩いて渡る男であるから減多に迷はぬのだ、然も保守に傾き易い渡世を見せ乍ら驀然たる進取の策を執つて邁進するのだ、それで口八丁の評論子は鳩と蛇の混血兒だと謂つて居る、其意は註する迄も無く鳩の如く順で蛇の如く敏いのを諷するのである

⊗：君は過去十數年専ら官僚の培養にあづかつて來たのであるから何人も其臭味あるものと信するであらうが此の點だけは不思議な位裏切られて終ふ、藥にしたくも臭き出されぬので度膽を抜かれる、彼れには過去の氣分が何處にも無いのみか却つて掘り出した野人の様に純な所さへ發見されるのである、堅苦しい事は皆悉く脱却してオイ君斯うだよア、左様かコレは參つた失敬々々とする、兎に角垢抜けした書生肌である、だから比較的難關とされて居る從業員の心證も君が赴任してからメツキリ變化してデモクラチックな部長として甚だ受けがよい、尤も君は其精密な頭と秀抜なる才能とに基いて氣持よい程事務の處理を試み會つて忘つた事がない、殊に精勤無類な男である

⊗：君は斗酒尚辭せざる豪酒家である、従つてヒヨロ／＼の生白い質で無い事は萬人の想像し得らるゝ所であらう、



筋骨稜々たる快男子だ、あれで學者だらうかと謂はれる程裸體美の持主である、若し着流しに角帯でも締めたら佐竹の親分さか元締とか謂はれないさも限ぬ、君の説から謂ふに天恵たところがあるが一寸觸れて見るこいやに堅い引き締つた筋肉が瘤の如く重なつて居るから必ずしも天恵ばかりで無いと首首されやう、宜なり君は書生時代から柔道家を以て鳴らした男だ、今でこそ博士であり部長であり公人であるから素知らぬ顔をして居るが加納一門の秘蔵弟子で今尙講道館三段の猛者である、其立業の見事な振舞は實にきわだつて奇麗である、殊に得意の出足拂から大外刈に移り三轉して跳腰に入る敏捷さは猥りに防禦の寸暇を與へぬのだ、若し敵の攻撃に際しては引き入れ乍ら體落を用ゐる、大抵君は斯うして瞬間に變化を試みる達者である、文ある者必ず武ありとはそこで意義を發するのかも知れぬ

☒：此の兩面に跨り沈勇にして紳士たる君の性格は知る人ぞ知る、凡そ伯樂に近い者は必ず着目する所であらう、さればこそ池上君が駕を任せ人を介して飽迄も君を動して市に赴任せしめ君を得て獨り北叟笑んで居る理由が判明するのである、君は岐阜縣の人明治十一年生れ第三高等學校を卒へて東京帝大法科出身後直ちに官途に就き居る事数年商法關聯の論文を以て博士ミナリ鐵道院に於ける新進の士として局長の要職に上り辭して大正十一年二月大阪市に入つたのである、君の赴任早々従業員の勞働爭議に會し委員會制度を設けた事は初見參の貢獻である

## 港灣部長 直木倫太郎氏

☒：俳人燕洋ミは直木君の事である、君は工學博士の肩書を秘めて浮世離れた清趣味に没頭する、而して鮮やかなシンスを巧みに十七字に收め盡して荐りに俳名を馳せて居るのだ、同人間の多くは燕洋散士が最近擡頭したものミ肯定せないのみならずサイン、コサインで凝り固つて居る學者などミは將に青大の謠聲の如く感ずるであらう、君の同趣味間に處する瞬間には斯くの如く凡てを擲つのである

☒：一體何時の頃から俳味を帯びて居つたのか、等しく何人も不審を打つて居る、然し動もすれば清淨の氣分に親まんとする直木君の資性が先天的に彼れを導いた事だけは想到し得られる所である、所謂美的素質をより多く稟けた彼れには風韻雷語ミ雖も徒らに如實として看過する事が出来ない、忽ち燃ゆる情炎に照らして架想の域に擁立せねば承知出来ぬのだ

☒：君は其信念に於て公務に親しむ傾向がある、現に大大阪市の港灣、都市計畫兩部の部長ミなつて一は商工都市の生命を預り他は之れ向後の發展を將來に準備する何づれも重要任務を背負つて起ち深遠該博な智能を傾けて居る、然も望洋多岐容易ならざる二大方面には適切自在の策を樹て案を凝らして崇遠燦然な計畫を編み世界的の權威者ミ謳はれて居る

☒：それで居て學者の型に嫌ぶる事は大嫌ひ、球も突く、魚も釣る、書も書けば謠曲も怒鳴る、而して俗肌を離れまいミ試みる氣粹な男である、文筆の優雅、着想の奇抜な所などは多く其軌を見ぬものがある、自ら稱するに廣くて淺薄な何一つ徹する事が出来無いミあるが然し強烈な謠ひに熱中する時などは多年の修業者も撞着せざるを得ない妙音が出



るさつである

☒：直木君を語るに次ぎは酒意の事である、君は量に於て圖抜けて居る譯けで無い、質に於て横綱を張るのだ、チビリ／＼嘔る口には始めの間こそ獨酌低唱漂ふが果ては酔氣漸く酣なるに及んで絶対緘口のグイ飲みをやる、東西南北なにか意識する必要が無くなる、徳利を心中すればそれでよい、此の調子でいつぞや電車に乗つたものだ、招待した主人側は待てど暮せど直木賓客の姿が見ぬ無い

☒：やつと三時間後れて博士の使者が来た、料亭堺卵の階下に一時間も前から出席に及んで居るが何かさして花外の招宴に預け、知りもせぬ他の宴會に履き違ひて推参したのだから調子が合は無い、冀くば救助を乞ふこの事だ、驚いて救ひ出せば直木君は平氣なもので徳利片手に失敬して居る、一同呀氣に取られグウの音も出ない、誰れかと遅刻を詰れば……何あに酔醒めたら市内電車に迷つて居たさ……で二度ビツクリ

☒：これも珍談序で、君は渡米當時禁酒令に迫害されてアルコール水を飢凌ぎにやつた、内地に歸つては到る所清酒ありで珍らしい事夥しい、所で君元來獨酌で無ければ虫が収まらぬ、紅粉の裾模様なぞ第一癩の種さあつて飲み屋の撰定に疲れあぐんで入りも入りも入つたり兎ある繩暖簾、それ以來暇さへあれば氣樂な根氣で押しかけて行くのだ、今では大阪市内廣しと雖も恐らく君の足跡印せざる所無しとさへ噂される

☒：君は神戸市の人明治九年十二月の生、湊川小學より距離中學に入り出て、京都及び仙臺の高等學校を履んで東大を明治三十二年に卒業し恩賜の銀時計を授つた秀才である、後東京築港計畫の爲に招かれて東京市役所に入り三十四年より三十六年迄三ヶ年間築港事業及一般都市事業視察の爲め歐米に出張した、歸來再び同所に奉仕せるも君を愛撫せし尾亨氏在らず

☒：昔日の如く築港熱なきを以て土木課長の地位に暫く雄志を伏せて居た、明治三十九年大藏省臨時建築部技師に轉

任し横濱築港工事を擔當し居る事五年事蹟大いに上り濱港の面目を一新した、其後再び東京市土木兼下水課長となり初志の貫徹を企圖したが成らずさりとて雄渾己み難きもの切にして遂に下水改良の大論文を提起し大正三年工學博士の學位を獲たのである

☒：爾後大學に講師を兼ね大正五年内務省技師に轉じ益々妙技を發揮したが翌六年に至りて大阪市の懇請を受諾し港灣部長として赴任した、次いで都市計畫事業の氣運漸く熟するに及び之れが部長を兼務し大正九年春一ヶ年の見込みで歐米視察を命ぜられ十年四月歸朝現に遠見を實施して居る

☒：君は狂句を吐く事に妙を得て居る其の歸朝吟に曰く

花 じ や 酒 じ や

や れ へ の が 言 へ る の じ や

(註 君酒行禁止の米國に於て甚だ辛苦す歸朝して自由に飲める感想也)





## 土木部長 岩田成美氏

⊗……大阪市廳の要部には夫れく、専門の才幹を配し、高材逸足決して尠しませず、而も土木課長に工學士岩田成實君を有するこゝは、更に市廳幾多の俊彦中異なる光りを發するものこ謂ふべし

⊗……岩田君は東京帝國大學の出身にして始め第三高等學校教授たり次いで大阪市技師に就任爾來土木課の革宰者として手腕徳望二つながら他に卓越せる高士なり

⊗……大阪市北區改正問題は二十年來の懸案に屬せり、其資金の巨額を要すると規模の大袈裟ならざるべからざるこゝは、歴代の理事者をして鮮なからざる腦漿はこれに絞らしむ、岩田君の主管事務家として會てこれが爲に費せる所の腐心亦想察すべきなり、併しながら、市區改正の如き事業はその東京が、帝都たるの理にも依らんか、特に國庫の補助を得て辛く之を遂せるに見るも到底市の獨力而已を以てして一朝夕に決行し得べきものにあらざるは明かなる處なりされき、市民の増殖市勢の發展は、日一日に太甚しからんこゝす、これに承應するの策令において、確立せざるにおいては、遂に長き歲月の裡に無秩序亂雜の市街となり衛生上外觀上大都市としての素質を損するや極めて大なり

⊗……岩田君の焦慮するは實に茲にありき、乃ち君は大規模の市區改正を實行する以前において、追次新市街及び荒廢されたる道路の改築を先にするに在りき、策の用ひられて除々實行せらるゝの間偶々南北兩區に大火あり、機會を捕るに敏なる君は、茲に市區整理の端を覓め舊時の面目を一新せしめたるなり、蓋し、禍を轉じて福となせし、而已ならず、序にその一端これに發せしめたる以上は、序を逐ふて全市の整理をなすこゝも亦唯時間の問題なりと斷じた

⊗……岩田君は、溫厚素朴といふ四字を以てその性格を道破すべきの仁なり、君にして、榮達を得るに汲々たらんは

は官海可なり民間更に可なりその博士たり將た巨萬の資を擁し得たるや必ずべきも君の渾身は、其名の示すが如く、實を成すにあり、市政當事者の班に列し、その一言一行が、百三十萬市民に何等かの貢獻をなすものとせば、微々たる自家の言動も大に慎まざるべからざるに俱に又大に有意味なり、吾れにおいて今則ち其職にあり榮達何者ぞ、巨資何者ぞ、君ば愆くして専念市政のために咎々の誠を致せり、輕佻紙よりも薄き現代における君の性格こそ眞に信頼するに足るもの莫しきせんや、事務を見るに右の如くなる君は復人を見るにをいてもこれに違はざんこゝを期せり、輒ち一度君の下僚なるものにして些の怨言を放つものなく各その職にある自家の業におけるが、如き君の徳風これを致すものこ言すはして何こか言はん

⊗……君大正十年四月歐米を視察の途に上り十一年四月二十日歸朝す、今後の活躍こそ蓋し君の全幅を示す所なるべし其の歸朝土産に日本人は歐米人の情敵なりの一節あり蓋し君の情的半面の餘裕を示す一句である。





## 水道部長 澤井準一氏

☒：澤井君の半面には拗すべき禪味が含まれて居る、誰かが喝破した様に世の中の世捨人等は心せよ衣は着ても狸なりけりの野派禪狐を彼れは素面素肌で攻撃する、然も一切衆生有佛性の純哲理がら滾々たる信條を汲んで彼れは釋然高邁な説を建設するのである、凡そ技術家の畑には思想家を求め得べからざる觀があつた、然るに澤井君の出現するに及んで此の通弊もさうやら大阪市役所からは取り除かれたのである

☒：彼れは總じて宗教的旨律に觸れて居る、而して行く所必ずや油然たる信念を伴ふのである自ら信じて是なり奉ずれば敢て群る駁論に屈するもので無い、寧ろ單騎論鋒に向つて徹底的に是非を闘ふのだ、苟も不得要領の座折なきは悉く排斥して終ふ、攻守相竭して茲に收拾するのである、顧みて非點我れに介在せば彼れは潔く歸順し説に従ひ之れを推賞するに吝かでない

☒：従つて謬論の士であり乍ら頗る調和力に富み收拾能に長じて居る、口角泡を飛ばして鐵火の舌戦を交へつゝも併し乍ら數十分の後には肝膽相照すべき知友たる有様である、それが又自然的に出る所であるから人は驚異の歎を發するのだ、市役所内の技師連には澤井式に斷行云ふ流行語がある、則ち論じ盡して提携する偶意で、和平主義の略言であるから意味深い

☒：意思の發動には拘束を加へるもので無い、意見の優劣を試練してから始めて茲に必要なが生ずる……こは蓋し澤井式の根據であろう、君が百五十萬民の生命を保證すべき大阪水道部長たる公務に就ても多々益々性來の方針を把持して居ら、私かに宏遠な理想を描き乍ら朝夕之れ専ら水道事業に誠心を傾けて須臾も劃策を忘れない、殊に君の専門

的な造詣は擧げて茲に注がれて居るのだ

☒：若し夫れ異論聽べくんば君は甚だ謹聽する、而して我見の爲めに參酌攝取する事に熱心である、併し乍ら彼れも亦腹の底を曝らけ出して我見を開陳せねば己まぬ、所謂澤井式の發動は此の後行はれる順序である、詮じ詰めると君の行路は誠心主義も謂へる、一塊の邪心なく微塵の辛辣も無い、譬へば澄み渡る秋空一碧に冷月のみ獨り湛むるのと同様である

☒：光ると謂へば澤井君の智能は雄渾で且つ奥深いものである、其英才は何處か決定的な所があつて果斷位ひの贊言では表明出來兼ねる、或人の品評に澤井の理智は其頭よりも靈光あると指摘した、實際君の頭は全智能の中樞だけに市役所唯一の光彩がある、外觀から推せば君は格服のよい堂々たる體軀を提けて眼光炯々たる偉丈夫であり綜合して尊嚴の氣分を持つて居るが愛くるしい双眸は親み易い紳士に仕上げて居る

☒：然も碎け切つて公職の夜を脱いだと來たら玉杯を傾けて痛飲快哉頗る通なものである、其の興益々募つては獨得の聲曲……俗謡だらうが唱へて妙ならざるは無い、而して獨唱銀盤に玉を轉かす瞬間や殆ど今日音樂家で御座るの女流聲樂家なき、取り纏ふ黑人連と雖も恐く追従を許されまい、従つて君はシテに釣られて踏み出したらヤレコロラドッコトシヨの妙珍な藝當も演ずるのである

☒：管にそのみで無い、君の聲韻は生れ乍らに天賦の妙があり刹那の情緒に咀嚼力充分なので聲に委せて即吟をやり出すのだ、それが亦甚だ妙極る傑作で時々は紅裙連が廣目屋に蹴落される、これも澤井式洒落の一節である、君は園基もやる、而して強陣を張るが其平常好む古書畫の達見に較ぶれば稍々修養の域にあるらしい

☒：君の經路を辿れば明治十一年十二月生れの廣島縣人、安藝郡船越村が故山である、三十一年廣島中學を卒へ第一高等學校を経て三十九年京都帝國大學理工科を卒業後曾つて在學當時大阪市水道に關する論文を卒業文とした因縁を固







難關と稱せられし高師の試験に登第の上正規四ヶ年を経て東京高等師範の卒業生となり三十七年出で、深川小學校長に任じたり

☒：敢て非凡の才智と謂ふに非ざるも百難に際して一途の活路を啓き致々として己まざる固性は克く好運を齎らして茲に清國の聘招する所となり應じて長沙師範學堂の教習に親しむ年余半大ひに信任を博し優遇荐りしが君密かに以爲清朝恰も空蟬の如し何んぞよく十年を保たん如かず故山に歸りて開拓を急がんには……と故に歸朝して文部屬となる

☒：明治三十九年以降の政界は甚だ多事なりき、從つて閣員の更迭も屢次なるは詮なし、君は此の間に處し大臣官房秘書課等に勤績し牧野、小松原、長谷場、奥田、大岡、柴田、一木等七代の文部大臣の腰巾着の如く隨行し各府縣師範中學、女學、商工學校各種學校の實地教育を究め着々として自己修養を蓄積せり

☒：一面に於ては省内に通俗圖書及び幻燈活動等の檢閱案を發議し省令の骨子を建言し一面在郷軍人の指導に志して雜誌戰友を通じて所見を披瀝したるに大正二年特選を得兼任東京高師教諭に推され超れて大正四年二月靜岡師範學校長に轉じ大正五年三月大阪市に入る事となれり

☒：君は重厚にして篤學家なり時あつて登山探險を好むと雖も文學書冊を熱求す、著述の如きも既に禮義教育論、大英帝國青年訓、英獨教育の比較等ありて目下亦都市教育を起草中、往年貢獻の功に依り正七位に叙せらる

## 社會部長 天野時三郎氏

淡路島鮎原は大古事に富む、則ち附近の天神社は管公流竄の途上通がに京洛の地を思慕して己まず偶々茲に上陸して鬱を遣る事荐り也時に飯書を佐伯と稱する農家に於て喫し鮎を食む、これより鮎原村と改稱して現在に至れり、君の生地は天神の附近にして井出又は小泉の通名ある舊家なり、慶應三年十一月二十四日を以て生る

明治七年小學校開始され君の生家は校舎に充てられ下等八級上等八級の制度に因りて施育するあり、君も亦入りて八史略日本政記四書文章軌範等の漢字を會得し長じては有名なる學者奥井寒泉氏に就きて益々研學に耽り異才と稱せられたのである

然れども郷党の畏敬は小天地のみ、豈に大空の下に琢磨を怠るべけんやと自ら漂然去り二十三年を以て大阪府巡查となるに至つた

蓋し深く決する所ありたるに依る、宜なる哉君は雪齋の苦を積み在職中に司法省指定關西法律學校に入學し専ら法律經濟を修得し明治二十九年刻苦空しからず同校を良績にて卒業せり、斯くて翌三十年には上司の認むる所となりて直ちに警部に任じ約一ヶ年間西警察署司法主任に補し次いで保安課に入る、居る事數年後保安課長に榮轉し尙衛生課長にも轉任し四十三年迄本部の要位を占め、爾後警視に累進の上難波署長に五年間九條署其他に轉じ大正四年迄怪腕を揮ひき此間功を以て正七位勲六等に叙さる殊に難波署長時代貧民學校創設に傾力し社會救濟上甚だ盡す所あり其の手腕と熱誠とは遂ひに池上市長の愛惜する急にして茲に四年則ち社會部長として招致せらるゝに至れり、爾來前後七ヶ年間市政務に携はり社會事業の施設に多大の實績を擧げつゝある也



君は性來剛直にして毀譽褒貶に超然し黙々として實績を擧ぐる恰好の事務家なり、然も胸襟を寛けて語れば言句明確にして毫も余談に涉らず對人を陶醉せしむ僅かに寡言時に誤解を招くと雖も君を知らざるが故のみ



## 第二章 各部課及事業

### 市役所の事務分掌

市役所には秘書課、検査課、庶務課、財務課、商工課、營繕課、衛生課、經濟課、會計課の各課及電氣鐵道部、港灣部、水道部、都市計畫部、土木部、教育部、社會部の各部がある、其事務分掌の内容を紹介すれば左の叫くである

#### 第一節 秘書課

秘書課には秘書係及人事係がある

秘書係は機密に關する事項、公印の監守に關する事項、市役所對外部の交渉や議式に關する事項、其他他の係に屬せざる事項を掌る

人事係は吏員職員の進退、賞罰、給與、其他身分に關する事項や守衛給仕の監督其他廳内の取締に關する事項に掌る





主 事

## 野町不二太郎氏

⊗……北は累なる山を負ひ南は奔濤岩を嚙む、沫に濡る、藝東の地は之れを高知縣安藝郡と稱し野町君の愛慕する故郷なり君は明治十年八月十五日、生を此の天然の雄園に享けてより折を得、機會を捉へて洋々たる太平洋の怒濤砕けては散る壯觀に浸りたる事をも幾度なりけん、一帶の額面皮相悉く銅色にして健男子の面目を施す甚だ切なり

⊗……未だ船便と少規模なる鐵路の便とを數ふる高知の地にありて君は小學校を卒業し縣立中學を卒業するや將に雄飛せんとしては辛うじて翼を伏せ居村の小學校に青年教師となりて育英事業に専心力を致せり、約五年有餘に及びて時勢は刻々として鄙村に埋没するの不可なる情趣あるを察知し奮然故郷を去つて京都に到れり

⊗……洛陽の夜景は春りに君を眩惑し其の盛裝は切に君の志を犯さんとせしも性來克己心に富める君は古智に習つて見聞言の三猿主義に因りて刻苦の友とし研究を好同伴の是となしつ、明治四十一年同志社大學英文科に入り益々明智の練磨を試み泰西文物の理解を急ぎ事無く好成绩を以て卒業後四十四年大阪中役所員となる

⊗……君に於て秀づるものは精力源々にして卓勵風發の情趣なり、尙加へて海千山千的の調和抱擁力とす、英文學を研究してより夙に泰西の文化に興味を有し寡言極めて不細工の如しと雖も事務に關する才幹は將に獨歩を以て遙かに衆

を抜き簡潔なる處務振りは常に廳内外の信任を博すものあり

⊗……君は其の異彩を録して現に秘書課長の要職にあり、而して好む所は釣碁將棋等の微細より文學もの殊に詩歌文を耽讀し人若し君が趣味の唯一なるを問へば阿々として只夫れ友は風月とのみ答ふ、又君の半面を窺ふに足らん、君得意とする所は劇の鑑賞批判に在り先年自ら筆を取つてドラマ劇を起草し配材するに中江藤樹を以てす、其の稿端なくも京大高出教授の推賞する所となりき

### 労働調査

#### 市電の運轉手(其一)

(三十三歳)——(家族四人)

市電の各出張所では彼の屬する電梅田出張所に限らず車掌並運轉手を「い」から「ち」迄のいろは順八組に分類して、賃銀の受け渡しから時間の交代、賜暇等總ての事務進行上の單位として居るか、彼は「〇」組に屬し、〇〇長である、會長副會長の仕事は外に向つて會を代表し、内は萬事不平、杯がなく能率があがる様に氣を配はる事である、彼が運轉手になつてから今年で五年目であるのに、斯くも出身したのは異例の事である

彼の家は天神橋の二丁目西へ入る大阪座の附近で元來住宅の爲めに建てられた二階屋の路次ではある、二階六疊に下六疊三三疊、押入が小さい爲めか柳行李や風呂敷包が六疊の間に積まれて居る、六疊の南が小さな中庭になつて居たれども裏の家の高い板壁に覆はれて光線の具合も通氣も至つて悪い此邊一體が濕地であり彼の家の床下も濕り勝ちである、〇〇は十九の年からの持病で十五年の今日に至る迄病勢が益々盛になる許りであるのは一つは濕氣の多い土地に居るからである、



## 小 笹 國 雄 君

馱長に流れ優雅に耽るは京洛の弊なり、然るに君は京都府下紀伊郡下烏羽の一庄屋に生れて其の敬を履まず、維新前後の兵戰郷土を蹂躪したる跡歴々の明治四年六月十六日出生後幼時既に覇氣に満ち、求理の慾求殷なりき

學齡に及びて居村の小學に入り能を練る事群童に超え、京都府立師範學校に進むや益々特能を發揮し嘔日著しきものあり、二十四年同校を出身後同府彰徳高等小學校長に至る迄日夜教鞭を探りて後進を熏陶するに精勵し一流の陶冶を爲せり

三十七年特に選拔せられて大阪府視學に轉じ府教育界に貢獻する事多大なりしが三十九年再び東區第二高等小學校長として兒童を訓化し好績を挙げ次いで四十三年大江小學校長に轉じ學務委員を兼ね精勵愈々深く爾後全幅の才能を傾けて義務教育事業に盡瘁するに及びて忽ち衆輩の光明となり名校長として著名なり、斯ち大正九年一月池上市長の拔擢に際し市役所主事に累進の上市長専屬秘書たり、克く萬端を處理し信憑を一身に集む、君、性鎮重にして深く遠大の志を抱き時あつて明快一理の辯舌を發揮して職を完ふす、然も多端なる繁務の寸暇には好む所の書畫を稱し鑑眼敬服するもの一にして足らず、今や君の如き圓熟にして剛氣なる士の優大都市の秘書役に在るは適材適所と謂ふべし

## 第 二 節 檢 査 課

検査課は検査係及監察係から成る検査係は市役所各部課の會計検査並行政監査に關する事項、報償契約締結社會社の會計検査に關する事項、其他の係に屬せざる事項を掌る

監察係は區役所及市立小學校の會計検査係並行政監査に關する事項及補助團體の會計検査に關する事項を掌る

### 市電の運轉手(其二)

廿五の年に再び猛烈な症狀を呈し卅三の今日又々激しくなつて今日で恰度四十日目になる、彼は或日「○」組を率ゐて引率者として行かねばならぬ責任があつたのであるが前日恰も京都の病氣で入院してゐる伯母から顔に出来た瘡を切開すると云ふて電報が來たので立ち合ひして京都に行かねばならぬ事になつたが、公務にも關係して居る事故伊勢詣り文は止める事が出来ないと思つた、それにしても伯母の瘡を切開する事も可なり重大なる事であり悪くすれば一命に係はる事にもなるのである、彼は終夜中寢ずに考へた末明け方になつて伊勢に參拜する方がよいと云ふ結論に到達した理由は「今日京都の伯母の處に行かねばならぬ身にはありませんが既に大廟にお詣りする豫約がありましたから其方は斷つて斯くは參じたのであります、就ては別段のお願ひもありませんが、只々伯母の腫物の全快のみを祈願する次第であります」此様に願つたならば必ず伯母の腫物が快癒し、且つは自分の年來の宿志も叶ふと考へたからである





主 事

## 片 桐 由 雄 氏

人間好む所無しと謂ふ之嘘言なり、之れ無くんば生の終局にして活人の要件を缺くべし、或人曰く人は第一に好む所皆同じ故に第二以下を問ふが至當也と以て片桐君に建言すれば「自然の力に委ぬる園藝の興味を知らざるが故ならん」と君は明治十六年十二月二日大阪東區船場に生れたる生粹の船波兒なるに道義相食む經濟都市の風を厭ひ欺かざる天然を愛する事夫れ斯くの如く深潤なる男なり、府立堂島中學校を卒へ明治三十四年熊本第五高等學校第一部法科に學び二學年終了の後家事上の都合に因りて去り自ら家人を養ふ爲めに孜々として働く

明治四十年大阪市役所書記となり市務に勵み市條例法規に通じ妙からず、市の爲めに盡し池上市長の信任を獲て市主事に累進し現に検査課長となりて區役所の財政其他の監督を掌れり、性柔順にして温厚真摯、謹直にして人に敬せらる酒も煙草も其他遊戯に携はる所なく専ら現職に必要な法規類の攻究に没頭し事務家として誠に適應す、強度の近視眼を厭はず日夜修養を怠らざる努力は廳中稀れに見る所にして理性に長け過ぎるの嫌ひあれども君の特長は蓋し情實を避くる點に於て顯著なるべし君は五高に一番で入學し進級當時二番となつたそれで斷然自ら去つたのである、目下市廳隨一の法律家として凡ての活字引とされて居る。

### 第三節 庶 務 課

庶務課は庶務係と議事係から成る、庶務係は文書の收受、發送、編纂と保存に關する事項、社寺、宗教、兵事と褒賞に關する事項、保險に關する事項、其他他の係の主管に屬せざる事項を掌る

議事係は大阪市長、市會史と市公報に關する事項、區役所と公共團體に關する事項、訴訟願と異議に關する事項、規程の制定、解釋と編纂に關する事項、選舉に關する事項、市會、市參事會議事の準備と議決に關する事項、議案の整理と調製に關する事項、名譽職員の資格と給與に關する事項各區會の代決に關する事項を掌る

#### 市電運轉手 (其三)

斯くして旅裝を整へ京都の伯母に對してはユケメと打電し伊勢參宮を決定したのであつた、彼は彼の信する友人から脚氣には寒水を呑めばよくなる云ふ事を聞いて居たので毎年冬になれば、寒水を呑んで居たし、喰べ物の如き常に淡白なものを選んで居たのであるが昨年は脚氣の氣が少なかつたので昨年の冬は少しも養生をしなかつたのである、此事があるのこ其れに脚氣になつた時には其の人間の生れ故郷に歸つて其處の水を呑み其れに跣足で朝露等を踏んで歩けば自ら快癒するものである事を聞いて居た、彼は一箇月前仕事を休んで故郷の福井縣勝山に歸つて世俗の云ふ通り水を呑み其處で朝露を踏んで心ゆく許りに故郷の山河に浴したのであつた、魚の如きも勝山の地は山間の僻地でもあり海魚は非常に高いので一尺程の鮎をのみ食つて居たのである





主 事

## 速 水 茂 氏

◇……但し趣味とする所は見て楽しみ、讀んで楽しみ、聞いて楽しむのみ豈に他意あらんやと高唱しつゝ、園藝に長け俳句に妙を得落語の研究を重ねるは速水君なり、君の意を以て語らば自ら信じて他を凌駕せずんば蓋し好む所と號するに足らずと謂ふのみ、此の信念に因りて日常の生活面は之れ端止に持すべしと爲す君や現任大阪市役所庶務課長たり

◇……彼れは己れを飽迄嚴に持し人に應接すれば調和頗る妙を得、然も事務の處理に全つては簡決自在の獨特を發揮し、冷靜にして秩序的の才能に因り凡てに當る快漢なり、口を開いて談議漸く酣ならんか満身に充實せる其熱を發して快辯遊り遂にじむ所を知らず、好論子と雖も蒼皇退陣せしめらる

◇……然り彼れは熱の人なり而して機微を穿つに得意にして其謂ふ言句も専ら周到適切なる警句に充ち且つや圓曲なる諧 と諷刺とを交へて斷案する所、人の追従を許さざる也、勿論熱に溢るゝ者の常として往々勢ひに乗じ人の體裁を粉飾するに拘泥せざる爲め時に思はざる笑話を貽すは速水君に於ても之れありと雖も、そは寧ろ稚氣と愛嬌とを以て補はんのみ

◇……君は一杯の酒にも享樂し一斗の紅酒にも風月の樂しみを語る男なり、常に自ら豪語して曰く酒は飲むべし飲ま

るべからずと、而して陶然酔倒れば此の天然の攝理に吟詠し磊々落落頓に風俗の塵を洗ふあり、何處にか妄念を抱い其苦慮するものぞ、夫れ人生には限りあるを知らずや、無限の妙韻に身を乗じ心を清めて浩然の大氣を吸ふは我が領域なりと徹宵斯くの如し

◇……故ある哉彼れの特長は軍隊生活より得たる賜物なるべし、彼れは大阪府下三島郡岸部の産明治十六年五月を以て生る、小中學を卒へて三十九年京都法政大學を卒業後四十一年大阪三十八聯隊に志願兵として入營し歩兵少尉に任官す、退役の後四十三年則ち大阪市役所に奉職し財務課に入り商工課に轉じ更に港灣部庶務課長等の要職を経て現任となる

◇……君は技量手腕人物共に内外の信用日に進み將來の助役候補として一般に推賞せらる







主 事

## 羽場多次郎氏

☒……漢籍に固められた頭腦は古いと謂つても確實である、イエスやノーを得意がつて居る現代式薄ッ笠の連中に比較すれば何處かツンと貫録のある所が見出される、羽場君を捉へて星輩を語ふものなら立ちどころに瘦せ形の然も御影石の様な拳骨が飛ぶのである、左様に君は浮薄輕佻な空氣を唾棄する信條を持つ男である

☒……君は今市役所庶務課勤務の主事で熱誠な眞摯な精勤家、新市廳舎に備へつけの電氣時計が偶々サボル事あつても君の顔は出廳時間を報するもの、様に嚴然誤らない、筆を探れば事務を處理して聲なく只靜閑物なき如く靜まり返つてセツセと公職に盡すのみである、時に寸分の暇を得ば孔明出るの賦詩を誦じて獨り笑に入るのだ

☒……別に秀で、才智に長けて居るを謂ふ圭角多いものでない、と謂つて圓轉滑脱策喚發の徒でもない、眞面目にして警句に富む漂逸な特長を持つて居る、彼れの如きは所謂妙音の鐘とでも謂はん、蓋し叩かざれば誰あつて其の音を納得しないのであるが試みに打てば隨分味のある而して價ひのある新發見に一驚するであらう

☒……其の彼れが何處を風吹くの體態で浮世を外の超越主義から心氣を練るは滅多に模倣の出來ぬ美德を貯へて居る爲めださ定評がある、會つて羽場君は密かに別戀な人へ耳打ちした事がある、それは外でもない世の中は三角同盟だと

話したまでだ……三角其儘を一束するのが彼れ自身の處世方法であるらしい

☒……君は緬州密柑の本場和歌山縣有田郡鳥屋村の産で、明治七年十一月生れ、關大に於て法律を専攻した、明治三十八年には後備歩兵特務曹長として日露戰役に従軍し大阪師團の前衛となり北韓の地に轉戦した、幾度か死生の間に放浪して沈勇の試練を経たのでナカ／＼膽のすはつた人である

☒……自分から卑下して無冠を稱するが實は勳七等の肩書を持つて居る、明治三十九年南區書記に入り四十一年市書記に進み大正九年四月主事となつた、何ものより太公望の一竿に興味と趣味さを持つのである大正十一年四月氏は現職を去つた。

### 市電運轉手(其四)

斯くの如く故郷の山川に親んだのであるけれども脚氣は依然としてよくならなかつた、悲しい哉、彼は十五才の時に出郷して今日迄既に二十年大阪の地にのみ住んで居り七年して人間の身體を構成する物質は全部新陳代謝をするを云はれて居るのであるが七年を三回迄でも此地に住んだが爲め彼は既に身體の何處の部分と雖も大阪の地からこられた物質のみにより構成せられて居たのである、然るに今や彼の知己は悉く四散し老いたるは不歸の客となり稀に残る幼な友達は既に分別盛りの壯年に達して居り遇つて話すにしても僅かに懐舊の談話に一時を持つ位で單に珍らしがられるのみで眞から歡迎する人は無かつたのであつた、故に精神的には決して其故郷に歸つては居なかつたので彼の病氣は益々猛烈となつた



#### 第四節 財務課

財務課は主計係、公債係、調査係から成る、主計係は豫算の管理に關する事項、決算調査に關する事項、收支及支出命令に關する事項、市税の賦課徴收に關する事項、使用料手数料及其他の收入に關する事項を掌る  
公債係は公債預金其他財政に關する事項、基本財産其他蓄積金に關する事項を掌る  
調査係は豫算の編纂に關する事項、事務報告書及財産明細表に關する事項、都市計畫財源調査に關する事項及其他財政上の調査に關する事項を掌る

#### 市電運轉手(其五)

彼の脚氣は日に増し悪くなり貯蓄も次第に無くなり全く氣を腐らした爲毎日注射に行つて居る彼の故郷は既に述べしが如く福井縣〇〇町である、家は代々農家で五人兄妹の末子に生れて居る、長男は故郷で働いて居り次男は現在彼の二階に居る彼は三男で後の二人は女である  
學校は故郷で高等を卒業した、彼の一家は十五才の年に長男に家督を相續させて故郷に留め父と二兄が先立ちとなり一家を率ゐて大阪に移住して來た、北濱裏に小さな店ではあつたが店を張り吳服屋をして何不自由なく暮して居つた彼は十六の年から四年谷町の洋反物屋に奉公して一切の事をやり漸く一人前となり其の後兵役のため暇を貰ふ事となつた、兵役の方は八聯隊に入隊一等卒として除隊となり除隊後は外國貿易をしてゐる



主事

#### 奥野九一郎氏

⊗……大阪市役所中禿頭の雄なるものは澤井水道に奥野君なり、君は慶應三年九月五日生れ、相當年輩の故を以て或は必然のシンプルと稱すべきか、併し乍ら此の初老や意氣壯者を凌ぎ財政に精通し經濟に堪能なる事に於て廳中の第一人者さ唱へらる、事實彼れは財務方面には中樞人物たり

⊗……其の好々爺然たる態度を觀よ、然らば多年の公吏生活に因りて鍛え上げたる無圭角さを是認するを得む、其の慧敏なる探算技術を問へ概ね暗誦して計數的確なるに一驚を喫すべし、實に奥野君は事務的才能に長け微細の點檢に謬り少く然も寸を以て尺を度する器用なる人物なり

⊗……勿論稍固陋なる性癖は之れを特有すと雖も萬人神ならざる有機體なる以上所詮は短所にして又特長を指摘すべきのみ、彼れ常に曰く官公吏の生活は或程度まで献身的にして自主的なるを要す、蓋し上司の命に服して事務處理の衝に當り事務を自ら指導して之れを完全に盡すの意ならん、君にして宜なる哉

⊗……奥野君は滋賀縣野州郡三上村の人、有名なる近江富士は君の生家に於て連なる、小學校を卒業後和漢英等の諸學を熟生となりて習得し明治二十四年抑も官海生活の第一歩として滋賀縣廳收稅吏となり同二十八年大阪府に轉じ更らに大阪稅務管理局監督局等の經理部長に榮轉したり



⊗……爾來平野郷稅務署長に轉補し尙三輪稅務署長等の榮職にありたるが明治四十四年十一月退官の後翌明治四十五年二月大阪市財務課に入り公債係主任として卓越の貢獻をなし財務課長の暗示を受けつゝあり、故に其の過去は實力主義より叩き上げたる經驗者なれば廳中に異彩を放つも故あり

⊗……君は別段上達したるものなしと謂ふも俳句に妙を得且つ寶生流謠曲の名手として定評を有す

#### 市電運轉手（其六）

朝早く出掛け夜遅く迄働くので近所隣りの人達からの評判はよく、仕事にも興味を感じて居たが一言に云へば報酬が意に満たなかつたのである、爲めに主人に向つて要求する處があつたけれども容れられず遂にひいて電車の運轉手になつた次第である

其間に父の商賣であつた呉服店の方は失敗のみして加ふるに嫂と姑との折り合ひも悪しく、其中に嫂は病んで亡くなり二回目を貰つたのであつたけれども、居つかず、大正三年夏には父も亡くなつたので兄は店を疊んで天滿紡績の平職工となつたのであつた、斯くの如くにして彼の兄は家其物は自分の名義にしてあるのであるが妻が無ければ廣くも要らず弟を入れて下に住まはせ、自分分は二階で「女には全く凝りた」と云つて靜かに居るので彼の家と云つても實は兄の名義になつて居るものである  
母と兄とが二階に居り、彼等夫婦に二人の子供とで、六人の家族で、子供は男が二人五つに二つである

### 第五節 商工課

商工課は商工係、市場係、調査係及公會堂係から成る、商工係は農、工、商、漁業に關する事項、工業研究所に關する事項、勸業館に關する事項及度量衡器の取締に關する事項を掌る

市場係は日用品供給場に關する事項、家畜市場に關する事項及其他一般市場に關する事項を掌る

調査係は調査に關する事務及統計に關する事務を掌る

公會堂係は公會堂に關する事務を掌る

#### 市電運轉手（其七）

彼の報酬は月九十五六圓である、閑暇利用の方法として福島に居る姉の家に行つて話をするのか楽しみな丈で、他にこれと云ふ楽しみはない、姉は福島に下宿屋を營んで居る、大正三年に父が亡くなつた事其れに年々起る脚氣の事、廿七歳に結婚して二人の男兒を擧げた事、是等が主なる家族的事項である

彼の性質は商人氣質で、頗る愛嬌がある、眞面目一方で少しと越し苦勞をする癖はある、娯樂はないが修養は怠らない方で伊勢大神宮を拜し、土地の神としては天滿の天神様に參り、其の他神佛は何にしても疎かにしない事にして居る



商工課長

## 矢柴匡雄氏

⊠……高野鐵道の便を驅つて探れば楠公の遺蹟甚だ多き所之れを大阪府下南河内郡平野とす、君は明治十一年三月十五日茲に生る、郷里の小學校に學び夙に東都の遊學を庶幾したるが由立にして遂に東京の人となり現在府立校となりたる城北中學に入り明治三十年卒業後進んで早稻田大學英語政治科を専攻して三十五年七月學成る

⊠……其後約一ヶ年貴族院書記に任じ執務せしが朝氣滿々たる君は座食に似たりとして辭し時恰も日露戰役勃發するや東京萬朝報特派員に招聘せられ直ちに朝鮮仁川に派遣され銳意報道に盡し細詳細確なる通信を試み操觚界に著名となりしが戰役終了と共に明治三十九年一旦歸還し黒岩氏の信任を得て大阪の支局に勤務する事となれり

⊠……在勤五年大小なく大阪市府の政情經濟に通曉し殊に市政の弊を捕捉せり、偶々梅原氏が帝國新聞を創立する明治四十四年請を享けて經濟部記者に轉じ翌年同社解散後市役所港灣部員となり大阪港築造の爲めに盡瘁甚だ勉めたり

⊠……大正六年十二月其實力顯現の機を得擢んでられ商工課長に補さる  
君の徑路は夫れ多端なりき、英才を提けて民間に在り不拔の精神を以て親しく實狀を究めて茲に公吏に轉ず、故に經濟眼の如きは頗に卓越せるあり、接觸交渉亦庶民的にして障壁毫もなく、然も難事を談笑の裡に解決す、之れ君の特長とす所也、勿論君特有の輕微の瑾はあれども、そは前者に比して九牛の一毛のみ、好むものは子供道樂、圍碁、遠足

と謂ふも繁務に没するは事務道樂と觀るべきか

## 市電運轉手(其八)

朝は四時には起きて四方を拜んでから食事をすする、夜は亦同じ様にして寢につく事として居る、其頃友人に大本教に歸依して利益を得た者が居る、其友から大本教に關する書籍を借り一讀し、大いに得る處があつた、然し新聞紙上で随分悪く云はれて居る宗教でもあり、眞に打込んで信する處ではゆかなかつた、其他彼は天王寺西門の横にある徳信教と云ふのを信仰して居る、或者が其様な場合には西門横の徳信教に行くのが宜しいと云つて呉れたので直ちに伺つた處が「病氣は氣を病むと書いてある通り全く身體の故障と云ふより、氣の故障である、身體其者は良くならうとならまいと先づ氣の故障を無くさへすれば知らぬ間に身體の故障は無くなつて居るものであるこれで免許皆傳である」と此の様に云はれたのであつた、聞いて見れば馬鹿けても居るが理に合つて居る様にも思はれ若干の賽錢を納めて還り其旨父に話すると奇なる哉見る見る父の病氣は良くなり翌日頃からは起きて座つて居た、其後やはり老病と云ふ様な事で父は七十五歳で亡くなつたが近所隣りを驚かした忍痛の悲鳴が一夜にして止んだのは、此免許皆傳があつた爲めであり



主 事

五 藤 正 幹 氏

☒……仰げば碧空蒼濛として海水に没し俯しては蒼海の雄姿を觀る、此の天海相接する壯嚴は之れを海濱の高山に霑めざるべからず、安喜城は絶景を除さず以て要害の樞地をトしたる高知の城なり、譬へば望海の高山を此處に徴せば則ち其之れを謂ふに足らん

☒……五藤君は故郷を高知縣安藝郡土居村に有し日夜高山岬の怒濤に聽き、其の沫を浴びて成長したる人、色黒く體軀亦頑丈にして倭軀を語らざれば身體美の男、然も快活にして放膽土佐風の遺物也、若し夫れ腦裡を窺へば銳利にして透徹し行ふ所可ならざるなき底力のある人なり

☒……君の得意とする所は抱擁と操縦にありて名を棄て實を握るは其一也、寡黙實踐は其二也、自省改過は其三也、斯くの如く常に修養を務の裡に重ね、想ひを八面に凝し乍ら職務に従事するは其好む所の豪酒と共に著名なり、曩に市商工課に屬し商工係主任となり一般に實力を認めらる大正十一年四月東區主事に轉ず

☒……君は明治八年一月十一日生れ、土居小學を経て高知第一中學校に入り今の縣立一中の前身校を二十八年に出身し四國を去つて遠く熊本第五高等學校第一部生となり三十一年卒業後直ちに東京帝國大學法科大學に入り修業一ヶ年故ありて高知縣立第一中學校教諭に任じ更に第二中學校教諭となる

☒……茲に於て修得せる所の英語其他の教師に變じ怏々として身邊の逆行したる空氣を呪咀しつゝありしが妄念一蹴出で、大阪北野中學校教諭に應招し三十八九年迄足掛け三年間子弟後輩の訓育に盡せり四十年に至り市役所書記となり四十年より四十四年迄忠勤す

☒……後ち一旦休職となり退職し郷黨に推されて民間經營の電氣會社常務となりしが感ずる所あり再び來りて大正四年市書記に任じ主事となる、好む所は將棋、碁及び魚釣水泳等なり

市 電 運 轉 手 (其九)

彼は將來是非とも商賣を始める覺悟である、洋反物屋が如何にボロい商賣であるかを悉知して居る彼であつて見れば當然そうゆかない處である、今度福井縣に歸つた時も羽二重を數匹持ち歸つて賣らうともしたし、其れに此茶葉子は胡桃入りの羊羹であるが此羊羹も田舎の産物としては割合に珍らしい品であるから是等の産物を取りよせて是非とも商賣を始めたいと思つて居るのである、煙草は好き酒は飲まない、何處の労働組合にも屬して居らず労働運動等は考へた事がない、大正八年十月上本町の車庫を中心とする車掌運轉手のストライキの場合には彼は會の幹事であつたが、他の車庫には多少の動搖を免れなかつたに拘はらず梅田のみは少しも動搖する事はなかつた、かくて彼は責任を重んじてよく働き、一家を安泰ならしむる爲にめは渾身の努力をなす人である



技師

## 小島茂氏

☒……七百年の昔を偲ばゞ屋島の浦波靜かに眠るとも慘風獨り血腥いものが窺はれやう、平家の爲めには永へに忘るべからざる古戦場であるからである、源平を語るは誠に時代後れに相違ない、然し現代の國民性が尙且つ舊い謂ふ此思想に支配されて居るのは温故知新の哲言が不減なりとせらる、證左と見ねはならぬ……小島君は怪氣焰を吐くので有名である

☒……人はいざ心は知らぬ……とは謂へ之れを推察する事は可能である、既に心ある者は必ず意の發する所兆象行はれ易い、茲に凡てを顧みて心理を捉へ機會を捉ねば満足な講演は出来ない……さう豪語しては流暢な聲量の多い熱舌を用ゐる小島君は日夜大阪市商工課の宣傳講演等に寢食を忘れ狂奔して居るのである

☒……大阪市役所の人となつてからは随分古いものである、古いだけに馴れて居る、のみならず犀利な觀察力に富んで今は各種に通曉して居る、それで講演の如きも頗る妙諦に神通し面白可笑しく傾聴せしめる獨特の技能を有つて無味乾燥の事體を説き出し然も呑込み容易く敷衍して終ふ人である

☒……其性も名利に淡泊として豪氣堅忍の志操を抱き好んで苦難に投ずる素質を帯びて居る、試みに尤も興味深い度量衡の問題を擔いで矯正思想の宣傳をした徑路を見よ、先づ以て材題を脚色し興味深く解釋の方法を探り東西に疾驅し

南北を縫ふて茲に十ヶ月間に約十六萬人の聽講者に攷々として意義を徹底せしめた剛の者である

☒……君亦精力絶倫で内外十八人の小供を製造した、趣味としては擊劍柔道等の物騒なものから魚釣投網等の太公望氣取の代物ではあるが目下の所辯舌に長けて居る關係上諸種の宣傳である、而も最近佛教に熱中し之れに歸依してから哲學方面の讀書である

☒……君は高松市四番丁の産、明治元年夏生れ普通學を修めた後師を求めて各種の専門學を研鑽したのである、軍隊に曾つてあり戦後の功を以て勳八等に叙せられた

### 市電車掌 (其二) (四十歳) (家族四人)

『大阪の都市計劃は事未だ計劃中の事に屬し西成郡豊崎町の一圓は昔からの材木を惜しまずに建てられた立派な建築物、土地を惜しみ材木を惜んで建てられた最近の建物とが雜然として集つて居る、此雜然たる市街を更に雜然たらしむ可く道路の幅員、家と家との間隔等には些の考慮をも拂はず如何様な土地でも土地さへあれば其處にマッチの箱よりも軟弱な建築物をドシム建設してゆく、彼の家は日本機械工作所の塀に沿ふて在る、附近には大阪爲替貯金支局があり、梅花女學校があり、其に二廓に分かれた赤煉瓦の機械工作所があつて仲々盛んではあるが其等の建築物の間に介在して居る家々は其等ミ良キコントラストをなして貧弱である



## 第六節 營繕課

營繕課は設營係、調査係、公園係及動物園係から成る、設營係は建物の建築並に營繕に關する事務、本廳舎及附屬建物の維持に關する事務を掌る

調査係は工事豫算の編製並整理に關する事務、工事設計書の審査に關する事務、建築物の評價に關する事務、工所用材料及其他の物品整理に關する事務、製材に關する事務を掌る

公園係は公園、植物温室の設備、維持及道路並木に關する事務を掌る

動物園係は動物園に關する事務を掌る

### 市電車掌 (其二)

彼は三時に梅田の車庫につめなければならぬ、其れ故自分は二時半迄で彼と談話を交換する事が出来るのであるが主人不在なるを以て尙暫く環境の標子を觀察すべく餘儀なくせられて居る此處に一人の北國訛りの道路商人が短身赭顔汚れたバナマ帽を被り白地棒縞の浴衣を着て大きなブリキ製の器をかけ米の粉の中に飴を盛り子供を集めて一本二厘の處を一錢宛に賣つて利益を占めようとして居る處である

短く刈つた赤鬚の下を真四角に開き美しく並んだ齒を見せつゝも眼を細くし眉をよせて野邊に呼はるヨハネの如くに説き出でたのである

此課には課員全部から成る自醒會なるものがある、同會は課員の互助機關で次ぎの様な會則の下に組織されて居る

### 自醒會々則

第一條 本會は大阪市役所營繕課員を以て組織す

第二條 本會は會員の親睦を圖るを以て目的とす

第三條 本會に左の役員を置く

會長一名委員十三名(内五名は幹事を兼ね)

第四條 會長は會務一切を掌理し幹事は會計其他の庶務を整理す

第五條 會長は營繕課長を推薦す

第六條 幹事は委員中より互選し其の任期を壹年とす

第七條 委員は各係に於て互選し其係を代表す任期を壹年とす

各係に於て選出すべき委員の數は左の通りとす

設營係五名、調査係三名、公園係三名、動物園係二名

第八條 本會は毎年末に忘年会を兼ね總會を開く

第九條 本會は毎月一回例會を開き互に意見の交換を行ふ、但し委員半数以上に於て必要と認むるときは臨時に之を開く事あるべし



- 第十條 本會は遠足又は適當の方法を以て臨時大會を催すことあるべし
- 第十一條 本會々員及其の家族中吉凶其他の事故生じたる場合は金品を贈與し慶弔の意を表するものとす贈與すべき金額及其の範圍は別に定むる所に據る
- 第十二條 本會々員は會費として毎月各自収入の百分の一を離出するものとす  
前記會費の外幹事に於て必要と認めたるときは臨時會費を徴收することあるべし
- 第十三條 前條の會費は幹事に於て確實なる方法を以て保管し總會及例會並に第十一條に定むる金品贈與の費用に充つ
- 第十四條 幹事は 年六月、十二月の二回會費其他の收支を會員に報告するものとす
- 第十五條 會員各個の意見及希望等は所屬委員に於て取纏め係名を以て例會に提出すべし
- 第十六條 前條の意見及希望事項中決議を要するものは出席會員の三分の二以上を以て決するものとす

### 金品贈與ニ關スル規定

- 第一條 會則第十一條に據り會員及其家族中吉凶の事故生じたる場合に於て贈與すべき金額及其の範圍別表の通り定む
- 第二條 會員中前條の事故生じたるときは所屬委員より幹事に通知するものとす
- 第三條 本規定に據る贈與に對しては返禮を爲さざるものとす

別 表

要 摘	父 母	子	妻	本 人	區 別
一、病氣見舞に對して委員より幹事に申出で病勢其他の状況を斟酌し幹事之を決す 一、父母の病氣見舞は同居の場合に限る 一、轉退職の場合は就職後六ヶ月未滿の者には贈與せず			十 圓		出 産
				十 圓	結 婚
				十五圓	轉 退 職
	五 圓	五 圓	五 圓	七 圓	病 氣
	七 圓	七 圓	十 圓	二十圓	死 亡
					其 他 の 事 故 其都度幹事に於て決定す





營繕課長

## 花岡才五郎氏

☒……技師花岡君は洵に剽逸滑脱の男である、今でこそ退ツ引きならぬ課長席に靜座する様になつたが其の昔隨分腕白な時代もあつた、隣家の柿を失敬すべく如何に努力したであらう、然も自ら其衝に當るのでは無い、傘下の誰れ彼れを繰釣つては最後の結果を左右する作戦家であつた、小供の時から理智に長け統禦能力を具有したのである、其魂は今も尙失はずして巧みに人を使ふので市役所内外の評判者となつて居る

☒……一體人を意の如く活躍せしめるのには自分自體がよく人の爲めに盡さねばならぬ、此の要諦を呑み込む彼れは何事によらず部下の爲めに有形無形に骨身惜ます立ち働いてやるのだ、そこで知らぬ裡に歸依されて居るのみならず事業多き大阪市に於て苟も營造物其他の設計安排を要するものは悉く君の容喙を俟つて思ふ存分其抱負ミ努力を自他一魂の間に成し遂げられる隠徳を積んで居るのである

☒……左甚五郎だつて君……手もあれば足もある、従つて頭もあるのだ……凡て揃つて偉業を完成するのさ、何にも不調だつたら何に出来るか……花岡君の擲楡は先づ此前提から始まるのだ、皮程それも其筈、彼れは事に當つて圓熟したる經驗ミ實力ミを傾注し用意周到な妙案を編み出すのは瞬間の裡だ、然しそれを以て満足する様な輕卒を學ばない善く衆人の長所を攝取して茲に愈々成案を築いて終ふ、君の特長は則ちこれだ

☒……君の對部下の温情主義は又其色を變へずに對上司の態度となつて居る、營繕事務當然の多忙さは各部課この交渉も亦従つて頻繁である、それ丈け上司の間に折衝を要す譯け、彼れはザツクバランの一點張りである、附たりも無いれば差引も無い、事態ありの儘から是非を明快に建言して行く、勿論性來の調和力は此の時に當つて大いに好感を湧かしめるのであるが寧ろ誠心の迸りを以て短言評語を引き立たせ而して信厚されるのだ

☒……君は抑も倭軀の人豈によく難事に耐へんやミ謂つて終へば皮相觀だ、造詣する所の奇略は全身に潛み智恵袋も豊富だ……曾つて青衿の頃未開の大阪に遊んで道頓堀端を深夜歩いた突然巨軀の惡漢に脅迫された事がある、君は一見鷺に小雀の體態だ、此の瞬間果斷なる哉飛びあがつてノリケンを喰はしてスタコラ暗の夜を逃げ出した、然し肝心の足駄が片方だけ脱いだお蔭けで一步は山一步は谷と謂つた様な奇劇を演じた事もある

☒……君の酒仙は有名なものだ、之れミ同時にトンチレシヤン……スツボリ濡る、……など、謳ひ出す妙音は亦格別であるがコラシヨツと踊り出す所は滅多に知られない様に隠して居る、中々藝人であるから面白い、然し常住座收の正確さはこんなこな軟派を持つて居る人には一寸解釋し兼ねるものがある、朝は春夏秋冬凡て五時に起きる、而して一切の私事は其間に處理し然る後一心傾到以て公務に従ふのである、夜は早く朝はまだき……これが君の處世方法だ

☒……君は山口縣下關市の人明治九年五月生れ、郷黨に寵愛され乍ら夙に志を樹て、東都に遊び建築科學を専攻したのである、東京工手學校其他凡ゆる斯界の研究に急いだが東京砲兵工廠に於ては實地自ら抱負を行つて異數の歎を擲した、後山陽鐵道株式會社の技師となつて雄飛したが明治四十一年大阪市技師となり現に重鎮となつて居る、奉仕將に十有餘年中央公會堂、公園市廳舎等苟も重大建造の爲めに粉骨した功勞者である



井 上 謙 吉 氏

☒……舞子の濱風に育つた井上君は土地が育ぐんだ柔かい心を持つて居る、幼少の頃から荒つほい立ち廻りは餘り好まぬ特長を有つて居た、今日其家庭に於て一にも二にもも善良な濃厚なお父さんで通るのも凡て三ツ子の昔より備へて来た性格の賜物であるのを否まれまい、律義者に子寶は偽らざる天真である、井上君の子寶八人あるのに顧みても其一半を表明される

☒……舞子の濱より明石公園が有名だまは君の常に考る所であるが實を謂へば人工的な公園よりは自然其儘の方が君自身も好む所であらう、何故云つて君は商賣柄でもあるがそのみぢや無い、セッセと勞苦を傾けて園藝に親しむ、而して一輪二輪咲いてゆく草花に滿腔の喜嬉を表情するからだ、恐らく俳味を帯びて居たならば幾度か御手間かゝりし菊の花てふ一句も加賀の千代から聞かずに済んだかも知れぬ、然し君は讀まれる人にして無關心に此の趣味を續けて居る

☒……君は又鳥飼の黒人筋にして知られて居る、モット進んだらコケコーの通譯も君から聞かれはしまいかと口さが無い人は謂つて居る位ひだ、それで暇さへあれば一粒撒いては食をついばひ鶏群を他愛も無く愛撫するのである、さう

かと思へば一竿の糸を垂れて太公望の二の舞を演じ撞球を戯れて隨分堂に進んで行く、一體に科學的方面は君の専ら好む所である

☒……君は今大阪市技師として營繕事務に従事して居るが經驗から來た精密な而して健實な技能學的方面から綜合した優秀の才能は打つて一丸なし精巧な献言簡決な處理等を以て尠からず貢獻して居る、熱誠な眞摯さはお世辭で無いが君の特點であるに相違ない、少々の缺點は併有してもそれは萬全を期し得ぬ人間の事で顧るに足らぬものだ

☒……あり觸れた官人公吏の型は随分固陋の極端やネチ／＼の柔游なものであるが君にして見れば勝手に造つた型さしか思はれまい、其の氣分は直ちに同じ公吏の域に浮沈し乍ら君は全く垢ぬけた快感を著へて居る、而して所構はず相手選ばず開放的に且つ酒脱的に交歡するのだ、尤も天氣模様によつて或日沈黙し或日快談する差別は儼存して居るが左りこて修養を積んで居る君の早晚解脱し得るものであらう

☒……井上君は兵庫縣明石の住人、同所に明治十九年五月に生れ中年に志して關西商工學校に入り土木科建築科を修得し尙電氣科をも一寸學んだ其他種々の攻究を凝したが明治三十八年市に奉職後槍が降つても職務を手離さぬ云ふ熱心さで二十年間忠勤を勵んで居る



技師

## 林 佐 市 氏

☒……天王寺の犀君は日本に於て最初の珍動物である、此の動物園に於ける林君は又犀君飼育の衝に當つてからメツキリ男振りを上げたミ謂はれて居る、大阪市が商工都市の誇りを誇る一途として帝都に劣らぬ交歓場即ち動物園を創設してから量の問題よりも偏へに質を精選し内容を充實せしめたのは技師林君の精勵奉仕が齎らしたものである、従つて彼れの功勞は甚だ偉大に相違ない

☒……物好きミ謂へば物好の様であるが彼れ自身では生命の一部分の如くセツセミ配慮し可憐な動物の世話を焼いて居る、猿公の奇聲やベルカンの羽音、果ては木鼠の微動に迄、何にを要求し何にを苦にするかを推理すると云つた様な心掛けには凡そ君を識る人の驚歎する所であらう、事實彼れは慈父の子に對する心理状態から蛇と謂はず驚と謂はず悉く一視同仁に生命を擁護して行くのである

☒……それで同君の姿が動物諸君の目に入らうものなら喜嬉して之れに敬意を表するさうだ、全く生あるものは多少の意識を持つての原理は君に於て始めて確實な立論を下されるのである、君は斯くの如く別天地に慕はれて居るミ同様に同僚間にも敬慕される一人である、打ち碎けた柔かい氣分は抱擁力を伴つて調和するに充分である、零細な組織的の能

力は處世上推稱を擯にすべく適應して居る

☒……彼れは専門の技倆に造詣深いばかりではない、創造力に豐饒な頭には酒も飲まずに刻々ミ研鑽の鋭敏さが燃えて居るのだ、それで外見頗る粗野な職務に従事し乍ら彼れは抹茶の道、華道の様な優雅閑月の戯れを事とする、然も其武者小路流の茶煎は師に勝り、佐賀遠州の華流の如きは神妙自在の幽境に達するのである

☒……君は誠に多藝な男である、而して故春畝公と同郷の故を以て洒脱な特長も保有して居る、君の生家は一體山口縣熊毛郡三輪村の僻地であるが郷土の訓練に依つて早くより雄大な志操を抱いたものだ、則ち明治二十二年九月出生後小學を終へ大阪に來つて府立農學校獸醫科を出で四十四年府の博物場動物園技手となり大正三年市營となるに及び市技師に任じ爾來現職にあつて奉仕怠らぬ徑路を其の過去ミする人である

## 市 電 車 掌 (其三)

「大體人類は草食獸に屬するものにして其犬齒が著しき退化をなして居るに見るも其の手足特に爪が肉食獸に見るが如き形狀をなし居らざるに見るも、社會的生活を好み争闘を好まざるに見るも……要するに日本人は植物性の不老長壽飴を食ふにあり」ミ云ふのであつた、件の飴にはオゾーシカルシユームも入れてあり其他貴重なる數種の藥品が配合してあつて決して牛馬の足からミつた膠に、カンテン、芋の屑等からは製せられはしなかつたミ云ふのである其手の無碍なる働きに更に一驚を喫するのである





技師

## 大野直平氏

☒……ウワイオリンの銀線に聲を散じて鋭氣を養ひ其妙音に誘はれて天外に遊魂するは最早藝術に徹底した極樂境を握つた實際である、而してピアノの鍵盤の浮沈にもよく音律の差別を判別するのならば誰あつて音楽家と謂ふに躊躇せぬであらう、大野君は音楽に長じた男である、然し商賣違ひの技術家であるから愈々不思議ではないか

☒……定規を友として直線曲線の引き直しに餘念が無い一技術家は甚だ殺風景な外觀を呈するのだ、當の本人が左程心にも止めぬ職掌も門外漢から謂はせるに壽命が縮まりはしまいかと心配の種になる、大野君だつてお他聞に洩れず實は其配慮を浴びる立場にある、然るに彼れは仕事を棄てれば却つて壽命を失ふと反駁するのだ、君から謂はせるに殺風景が興味を湧かす源泉だとある

☒……如何にも彼れは眞摯熱烈な勉強家で食を忘れて仕事を處理する人である、一點半線の製圖にも天籟の美音響まり甘露が含まれる様な憧憬心を燃やして居る、黙々の裡に光明を認め烏口の走るに委せて快を攝取するのだ、つまり技術を生命とする熱心さが些細な點にも發見されるのである、君は誠に技術に生れて之れに殉ずる類ひの人であらう

☒……無味乾燥の日常生活に没頭し乍ら君は性來多藝な男、デリケートな音楽に親んで英氣を練るのは知れ渡つて居

るがそれのみで無い、玉酒に舌鼓を打ては思案の外、麗聲轉ぶが如く何んでも誦ひ出すのだ、温厚な君の口から此の事ありやを誰あつて懸念せぬ者は無い秘事である、勞を擔つて紅燈の下に君を拉せよ、お箱が出るに相違ない

☒……物質欲に淡泊な彼れは精神欲にかけては剛の者である、讀書もやる、評論もする、煙草も吸へば酒も飲む……序でにもう一つあるか無いかは聊か遠慮する、然し得意の博多節……百萬石の知行取るより……エ、赤い襷をチョイトかけて……さやり出したら男でさへ吸ひ込まれて終ふのだからお月様位ひは或夜ひそかに松の影に待つかも知らぬ

☒……君は島根縣の人、明治二十年生れ濱田中學で鍛へて中京名古屋高等工業學校に學び明治四十二年卒業後其專攻した建築の智能を發揮すべく市に入り技師として今日に及んだ而して營繕課に専屬して専心執務して居る

### 市電車掌 (其四)

彼の故郷は府下北河内郡○○村である、父は彼の廿八の時亡くなつた、母は七十七才で對立の向ふで咳をし乍ら針仕事をして居る、家業は農業であるが小さな雜貨店を出して其方の收入とで生計を立て、居る、兄弟は四人彼は末子で彼の前が姉になつて居る、長男は家業をつき、此男は養子に行き、姉は嫁し、彼は此通りの有様である、彼の母が彼の家に居るのは末子可愛さで來て居るのであつて兄がつらく當るから云ふ様な意味は毛頭ない

彼は高等科を卒業し其後漢文を教ふる學校に二年通つたのであるけれども之れは正規の學校ではなかつた、彼は廿一才の時に出郷した



衣笠滋三氏

☒……酒は駄目、煙草も駄目と言ひ乍ら甘いチョコレートも三人分も平けて終ふ此衣笠君は酔は無くたつて滑稽百出の快男子である、彼れは市營繕課の技師としてコンバスやサイン、コサインに拘泥すべき役目ではあるが一向捉はれた氣分が無い、何事も竹を割つた様にスツバリ要領を得るし打ち解けて歌ひ語り笑ひ和する人で簡單に謂へば極めて親み易い氣分に生きて居る

☒……一寸風に柳主義の張合無い様にも受け取られるが併し乍ら放膽不抜な凄味を根底に据へて調和して行くのであるからナカ／＼以て犯し難いのである、物に凝り固つて融通の利かぬ保守黨では無い、百も承知二百も合點をして自任な應用に長けて居るが元來が志操堅固な君は凡てを包んで素知らぬ顔で押し通す譯けである、訪ね來て見よ花は咲く君の信念は則ちこれであらう

☒……自分を修養するものは人であり陶冶するの人も人である、自己は只其の左右するに委せて長は探り短は棄てるに限る……とは君が常から唱導する實驗哲學である、成程萬人の意見は傾聴し諒解すべき筈であるが一步進んで探るゝ否は各人の勝手である事は真理である、君は朝夕人に接してよく語り談するが自己の存在を否定する迄軟化する事は斷じて無いのだ

☒……本業の技術に於ても亦然り彼れは不可侵の領域を設けて居る、而して苟も自ら技能を發揮するには必ず獨創的見地から出發するのだ、甲が何んを謂ふも乙が彼を唱へるも自己の同化を致さずんば容易にグラつく様な事が無い、猛然と信ずる方向に進む調子である、然し健言評斷の裡に秘められる其優越點は滅多に棄てる氣遣ひが無いから妙である

☒……細密に互る注意と弾力性に富む反撥とは君の公的私的の兩方面を彩色する二大武器であり且つ特質で無ければならぬ、此の天稟の特色を把持して彼れは最近次第に擡頭し巧みに處理して居る、彼れに限つて我が行く所の障壁なしを謂ふ資格を備へる、實際其の通り難事至らば調和し反撥し而して同化する、従つて蹉躓迷倒するが如き惑ひが啓かれて終ふ

☒……君は兵庫縣川邊郡園田村の人であるが泉南郡に育ち東鳥取小學を卒業後大阪府立農學校に入り農科を専攻した其後比良要塞砲兵に徴せられて軍役を終し明治四十二年始めて市役所に奉職したが爾來同化主義の下に自修自得益々公國事業に造詣を積み現在は主として公園關係の事務に従事して居る、偶には道樂の寫眞撮影やら園藝に勞を慰めるのだ



## 第七節 衛生課

衛生課は保健係、防疫係、作業係から成る、保健係は汚物掃除及公共便所に關する事項、下水道及溝渠の浚渫に關する事項、尿尿の應急汲取及處理に關する事項、塵芥處理方法其他保健調査に關する事項、清潔方法の施行に關する事項、醫師會、齒科醫師會、項、塵芥及燒却灰の處分に關する事項、衛生試驗所及結核療養所に關する事項、其他他の係に屬せざる事項を掌る

防疫係は傳染病豫防及救治に關する事項、トラホームの豫防及治療に關する事項、獸疫の豫防に關する事項、病院及消毒隔離所に關する事項、消毒手数料條例に依る、消毒に關する事項、其他防疫行政に關する事項を掌る  
作業係は胞衣及汚物の取扱に關する事項、葬儀所火葬場及墓地に關する事項及屠場に關する事項を掌る

### 市電車掌 (其五)

車掌になつて既に九年になり、月收は現在九十圓内外になる、斯くて彼には職業上の變化は極めて少ない、結婚したのは彼の廿八歳の時で其後二子を挙げ姉の方は十で弟の方は七歳である、姉の方は尋常三年、弟は未だ學校に行かない、彼は子供を何の程度迄教育するかについては、未だ考へをきめて居ないが出来れば大學迄も其上迄も教育したいのは勿論である  
家は七軒長屋の第三號であり、北向きで南の方から光線が充分入つて來る二階は三疊二間で下は四疊半に二疊である



主事

## 原田正樹氏

☒……伊豫松山市に生れた明治八年八月から大正の今日に至る四十有餘年間は原田君をして赤子から大阪市主事に仕立てたのである、親は無くも子は育つ道理かも知れぬが、然し獨り日月の経過のみ人間を甲乙するもので無い、原田君が自然に放置されたら流石に今日現職にあつたか否か甚だ疑問すべきものであらう、然も衛生課保健係主任として君が現存して居る、則ち過去には自我的努力の迹が歴然たりである

☒……君は凡ゆる試練に拮抗して其今日を開拓したのである、猛然たる克己心は左なきだに荒い浮世の波に揉まれ乍ら益々向上の血路を開き健闘の葉として持續された、而して中等教育を受ける頃から君の特質は専ら不屈不撓の精神に集注されて威武に屈せず富貴に淫せずの古諺を我が行く途としたのである、従つて彼れの謬論や多く駁撃の餘地なく清廉の士に敬慕せられたが濁世の毛嫌をさへ購つたのである

☒……然し固より信念の前には些々たる毀譽褒貶を顧みる男では無い、所謂如才なき才子連に混つて兩策衝數に押れる事は見すく不利になつても敢て爲すを肯んぜぬ硬派の人である、而して難事來りて困惑に陥入る時は泰山を背負ふて勃海を渡る大決心をも立ち所に凝らすのだ、一言にして語れば纏綿する世相をば剥さず修養の資と轉化するのである  
☒……君の如きは譬へば鐘の様なものであらう、雲集する難關あれば却つて妙音起るのだ、叩けば叩く程韻律度に適







☒……自信と克己は彼れ一生涯の生命と謂ふのは強ち御世辭ではない、二十一歳から大正十年迄約二十餘年間耽溺した喫煙を一朝にして禁慾したなどは如何に克己に強いかを語る實例であらう、又道行かば必ず啓かんと語る言句は之れ其の強烈な自信の發露でなければならぬ、兎に角小規模乍ら主義の一生を押し行けるのが酒屋君の願望である

☒……君は府下東成郡今里村の人明治十九年二月生、明治四十年大阪高等醫學校卒業後母校に於て細菌衛生學を研究し尙傳研大等に學びて横平、緒方教授に就き學を磨き東京市靜岡縣大阪府大分縣等の技師を経て大正十年市技師となつた、正七位の位階を以て柔い園藝に親み洋花を栽培するのは奥床しい

#### 市電車掌 (其六)

敷金は少しも入れて居ないが此處に住んでから既に十年以上になつて居るのであるからさもある可きである、彼には趣味としてはない、娛樂としては落語を聞きにゆくのみで、休暇には横を割るとか庭を掃くとか種々あるので其れを樂んで居る、家の宗教は眞宗(西本願寺)であるが彼は無關心であつて神様等の前を通つても禮拜するのは恥かしいからとて拜んだ事がない、健康状態は近頃急に悪くなつて此二箇月を休んで居たが一週間程前から出勤して居るが醫者の藥と其れにカルシウム注射を今だにやつて居る、身體が弱いからと云つて今の仕事を止めても以前やつて居た商賣を始めると云ふ事も出来ないから、何歳迄も此商賣でゆかなければならぬ、幸來年は十箇年勤續と云ふ事になり百圓の給料を貰つて居るものには八百圓だけの手當を貰つて止める事が出来る

#### 掃除監督長

### 岩間富之助氏

☒……伊賀の上野は荒木又右衛門の仇討によつて天下に紹介されたが藤堂領に名高いものはこれのみで無い、最近に於ては墮胎巡査の産地を以て關西に鳴つて居る、墮胎の激しい理由は封建時代の遺物に過ぎ無いが警官の續出に至つては獨り剛健の氣風に育まれた最近の出來事であらう、岩間君も流石に郷土の志氣に染まつて上野の中學を卒業するや直ちに警察界に身を投じたのである

☒……而して明治文化の半面に喰られて、ミもすれば學究に榮譽に幻惑されて行く同窓から一種の嘲笑を浴せられ乍らも毅然として節を變へず微弱な下官に甘んじて熱誠努力し遂に撰拔されて東京警察監獄學校に學び之れを卒業して再び巡査となり明治二十八年大阪府に勤め刻苦嘗酸する事實に六ヶ作其間克く民情を察し治安に盡し三十四年警部に進み漸く舞臺の人なつた

☒……其後大阪府巡査教習所長となりて銳意初任警察官の養成に勉め其徳操を殊更嚴格に育成して信憑を博したものである、後ち住吉警察署長に轉じ難事多き部内の廓情を圍り怪腕を揮ひ種々貢獻する所があつた、而して累年の勤功により勤七等に叙され聽ては本部の要位を占めんミしたが思ふ所あつて止まつたのである



⊗……大正五年に至り天野部長の招ぎに應じ大阪市に入り掃除監督長の職にあつて衛生事務の爲め全力を傾倒して居る、君は珍らしい硬骨漢で天野系の人物としては親分に劣らぬ評を擅にして居るが人觸りの良い事は要するに圓熟の域に達した體左であらう、君は市の爲めに公人たる瞬間は曲つた事なら挺子でも動かぬと謂ふのみだ

⊗……君は三重縣阿山郡山田村の人、明治五年正月生、畑違ひの現職にあつても尙且つ往時を偲ぶべき擊劍を尤も愛するのだ、而して撞球なども随分大向ふを唸らせるだけの腕前があり園碁に於ては一選手である、圭角はあつても頗る面白い男として通つて居る

### 市電車掌（其七）

四十歳と云ふ年で梅田車庫従業員組織する梅花俱樂部なり市電全従業員組織する土筆會なりに平美會を通じて幾分會費も納めては居るが之れは誰でもせねばならぬのであるから止むを得ない、彼は随分疑心の強い方で宗教家でも何でも信仰すると云ふ様な事は出来ない、其他市電には監督と云ふものがあつて交又點等に立つて電車を指揮し又車庫で係員をとつたりして局り試験があつて要領のよい者は其方にゆく様になつて居るが彼は其方は割合に報酬が少ない結果となるが故其方の試験の時には充分身を入れない様な方針をとつて居る、彼が九年の今日に至つても尙且つ平車掌で居る理由は此れが爲めである

### 技師 岩橋元亮氏

⊗……岩橋君は鴨川の水で鍛へた純正無垢の京都人である、年齒未だ僅かに三十餘歳であるが新銳の才能自在且つ豊富な事に於て同僚間の評判男となつて居る、勿論マ、ヨ深い川なら尻まで捲くれ位ひの英氣に従つて切れ過ぎる程凄味と果斷ミを發揮して時に傍人の危みを浴せられるが、然し若い者の特權として又己むを得ぬ所ではないか

⊗……いやに老熟らしき口調に則り歩一步の思惑する人は動もすれば保守的傾向を帯びて終ふ、若輩を以て之れを學んだならば忽ち前途の開発は不可能なるのだ、過ぎる位ひ進取の氣象に迫つてこそ若者が鍛練すべき道程なる筈……この理に合契する岩橋君は則ち今而立の精力に因て着々將來を開拓して居るのである

⊗……综合性に富んで居る君は只何事に對しても因果關係に微密な思索を持ち大綱を握つてから平然飄逸果敢の行動に入るので周囲の懸念する態を寧ろ心密かに嗤ふのである、周到に用意されてある組織的な君の腦裡にはいつも光明と希望に充實されて居る、いざ斷末魔の急場に於ても漂として蘊蓄が發現するのである

⊗……君は現に大阪技師として市民と直接交渉ある、衛生課に勤務し保健事務に従事して居る、而して肝要な施設、應急の處理等消極積極の差別なく盡身するのである、大都市の社會部衛生課の鎖鑰を握つて一代の才物を以て目せらるゝ天野部長も實を謂へば岩橋君の如き有爲の片腕を備へるが爲めに益々好評を集めるのだ、従つて大阪市には岩橋君を失ふべからざる因縁がある

⊗……君は自ら無藝大食ミ號してチョイ／＼新猫を極める事がある、旅行は尤も好む所であるが學生上りの君には當然の事とも謂へる、君は京都府立一中より三高を経て大正七年京大工科大学化學科を卒業した工學士で八年八月市に奉職してからは主として衛生政策に没頭し其將來を卜されて居るのだ



技 師

## 岸本覺治郎氏

☒…衛生課にあつて少壯工學士の双壁と稱せらる、岸本君は電氣工學に就いて該博な智識を持つて居る、而して大阪の爲めに目下塵芥處理方法の調査に没頭するのである、同じく之れ塵芥と謂つても衛生的見地から見たならば多岐様な事勿論であるが其處理方法の如きも未だ日本に完全なる發見なく外國と雖も研鑽に急ぐ有様で新奇な論文でも提出せんか、忽ち博士號を授與される位ひ奥深いものである

☒…君が熱誠な研究に猛進して行く前途に果して博士の稱號を覗ふ野望が介在するや否や不明であるが兎に角都市に必要なる完全な處理法を究極せんとして全力を傾注しつゝ、考究する半面には多望なる將來が展開されるに相違あるまい殊に岸本君は徹頭徹尾研究家の態度で進んで居る、苟も都市永存の副産物たる廢塵の及ぼす範圍から利用の方面等全サ一ツルは一つとして君の追及せざるものが無い

☒…君の專攻學は電氣にある現職とは頗るかけ離れたものだ、然も君獨特の信念は所謂プラス、マイナスの二電子が融合し而して作用する原理に歸納し乍ら直ちに演繹的方途に活路を窺めるのだ、則ち飽迄發啓に勵んで止まぬ男である岩橋の急進的に對比せば岸本は漸進的だと同僚間に取沙汰されるのも甚だ理由ありと謂はねばならぬ

☒…君は大阪人、明治二十三年十一月生、四十二年四條喉中學を終へ第三高等學校出身後大阪五年京大電氣工學科卒業、同八年八月大阪市技師となつたのである、彼れは無藝少食と潛稱して居る、然し興到つて情詩を低唱するなどは學生時代から羨望の的となつて居る所、其他旅行と讀書を趣好する、

## 第八節 經理 課

經理課は契約係、物品係から成る、契約係は工事其他の請負契約に關する事項、物品の賣買契約に關する事項、人夫及職工の供給契約に關する事項、入札保證金、契約保證金、違約金其他契約の結果に依る收入金に關する事項、工事其他の請負及物品調達等の代金支出に關する事項及物品の檢收並引渡立會に關する事項を掌る

物品係は物品の出納、保管及處分に關する事項、物品の貸借に關する事項、電燈及電話の設備に關する事項、印紙、切手類の出納、保管に關する事項、被服類代料支給に關する事項、及工事材料品直營供給に關する事項を掌る

### 市 役 所 守 衛 (其一)

(四十九歳)——家族三人

玉川町三丁目附近は市内の相當な場所柄にも拘らず道路の走向建物等極めて亂雑である事は前述の通りであるが彼の家のある處は別して混雜して居る、此邊によくある煉瓦の行き止り道に沿つた四軒長屋の二軒目で南向きである、彼の家を右手に見て少し行けば又行き止りとなつて居るので道はつまり東が入口となつて居るか様な道路の作りは盜難は少ない譯である、





經理課長

# 北岡八矢雄氏

⊠……市經理課長北岡君は愛媛縣宇摩郡川瀧村の人、明治九年十二月生れの和氣瀟々居士である、君は厨川白村等と共に第三高等學校に於けるマンチャミとして其學生時代を鳴らしたものである、勿論白村は文科北岡は法科云ふ工合に専攻の科目こそ異つて居たがデカンショ節に粹を試みる意氣に至つては甚だ投合して影の形に従ふが如く屢々相提携したのである

⊠……さちか謂へば北岡の濃眉秀麗な双眸は其筋の連中を羨望せしめた、而してダンマリと沈黙する點は粹な君に苦勞の種を蒔いたものだ、白村の佛頂面ミハシヤギ込む喧騒は尙よく意馬心猿的一幕にも北岡の爲めにシテやられるのだ、然し當の北岡君は至つて情緒に鈍感である、肉やかな手を差し延べよものならキリキリッとの太い眉毛に波打たせ大喝一聲豎子之れ妖怪さばかり撃退したのである、それでも同僚は彼れの幸福に舌鼓打つたさうである

⊠……今は當時の意氣は全く影を伏せて固執解脫の善良居士と納り返つて居る、年が教へた經文かは知らねさ餘りに變つた成り行きに驚くであらう、それでも一夜會して華盛頓會議を開かうものなら、チビリ／＼と玉盃を重ねるに従つて忽ち昔の花を咲かすから面白い、獨吟低唱次第に律を成して……ねえ君眞面目も程度問題だよ……乃公之れ野鶴かねミ來る

⊠……大艦巨砲主義も之れ護國の方便……身を捧けて一脚の椅子に公務を見るも同じく護國の方途ちや無いか……彼れは此の觀念を抱いて始終するのである、一體素質が寡黙力行にある君は打算的な發揚を悉く嫌ふのだ、従つて派手な行動に浮身を凝す輕業師の眞似なんか、談話にも出来ない、さうかと謂つて凝り固つた六ヶ敷屋の範圍にも足を突ツ込まぬ、所謂高潔なる寡園氣に衣を洗つて居るのである

⊠……君の市に於けるや誠に女房役である、則ち支出を督統すべき立場にあつて亦直接市民を對手にせねばならぬ、つまり政府の延長染みた空氣や公共團體權を飛び離れて市が一個の公人關係なる時、凡ての行動は北岡君の活躍に俟たねばならぬ、従つて君の責任も且つ重大であらう、然し當の君にして見れば軽い荷を背負つた位ひの心持である

⊠……君は岡山中學の出身三高を経て明治三十九年京都帝國大學法科大學を卒業後商會社に入りて世間の實相を體驗し四十一年大阪市財務課に入り經理課に轉じ四十三年契約係主任となり大正七年四月港灣部主計課長同年七月經理課長となつた人、洒脱にして文學趣味豊富な好紳士である

## 市役所守衛 (其二)

其の家の附近には小供を目的とする切實が多い、月並な駄句を節面白く歌つて行く其の子等此名句を傳へるのである、あれ十五夜の月が出る、圓く／＼まん圓く、然る時に一團の大道藝術家の一行三人賑やかな三昧に合はせて短詩を唄ひ乍ら進行して來た何か菓子や「十四十五は蓄の花よ」チエ／＼レコ／＼／＼「咲く日をひたに待つわいな」チエ／＼レコ／＼と遣つて來る「男持つなら……」チエ／＼レコ／＼／＼「廿四五は青くさい」と唄ふ、此大道藝術家は小供に賣るのである



主 事

柳 原 達 氏

⊗……曾つては癸三百年の榮華に處して泰平の出世を描き一躍して諸侯に列せる吉保は柳原君に取りて忘るべからざる祖族である、今は昔系圖書を以て誇ることは蓋し蛇足に過ぎ無い、然し乍ら滾々たる一族の流れは清水の如く百千代の後ミ雖もいつかは還元するが常理であらう、元大阪市主事柳原達君の吉保が雄圖を行はぬミは誰が斷言出來得やうか、恐らく萬人の謎ミして永久に保留せねばならぬ問題である

⊗……乃公の好む所は外でも無い、旅行、野外散策、煙草などは人普だが取り分け惡戯好の腕白小僧、無邪氣な花の様な幼女ミそれから喜劇だ……ミは君の以て口癖とする所である、實際君は暇さへあれば愛玩するステッキを無して田畝の畔果ては雜草の原を踏み分けて萌ゆる新芽や枯れ去る芝の迎送に忙はしい、而して一筒の葉巻を燻らし乍ら路傍に戯遊する小供等にも仲間入りをするのだ

⊗……平和な家庭の主よ君は全く親み易き主人公である、イケ八釜敷い權威などは一切抜いて終つて和樂のみ淀んで居るのだ、君の標語が所謂處世の安全港は家庭なりミ謂ふ意識から湧いたものであるから従つて異常の濃厚さを見せるのも洵に當然であるが自ら怒哀の忘念を節制するに非ずんば變りなき律を保てるものではない、君にしても時に虫の居所が悪い時もある、訝われない氣持にもなる

⊗……然し湧出する心想を理性に惣へて禦制する迄である、茲が則ち柳原君の長短兩所の天稟であらう、君は瘦軀粗野な風眸を以て峻嚴なる處務振りを發揮して居た、其公職にあるや眞面目の態度に依つて尤も錯雜を極める計數採算を掌り寸分の遺漏なき完成を試みたのである、殊に政商の策多き經理課契約係主任の難所に座し乍ら秋霜烈 然も微かな反響をも洩させぬ妙技に長けて居た

⊗……君は大阪府下北河内郡甲可村の人、安川君ミ共に同郷人の誇りに擬されて居る、明治十五年四月生れ、第六高等學校を経て四十二年京都帝大法科大學經濟科出身法學士で大正元年北區役所第三課徵稅係主任、第二課徵稅係長等を經、大正七年十二月現職に轉じたのであるが大正十一年四月辭して終つた又水道部員ミなつた

市 役 所 守 衛 (其三)

其下顎を自由自在に面白く働かせて人を釣る仕組みである、つれの者は男二人で三十と四十位之は三味線が専門で又共器から菓子を出して小供に賣り捌き乍ら進むと〇〇圓ヶ月給取よりか遙か苦勞は増しかいなと云ふのが突然に耳朶を襲つたのであつた

恰も今日は大阪市長選舉の當日で彼は守衛故選舉が果てる迄は歸られない、市長三選の號外が飛ぶ、池上市長が第一候補者の最高點である、然る上はもう彼の守衛としての任務もはたに違ひない、そしてあいたお辨當を下けて歸つて來るのであらう、果せる哉七時五十分と云ふに彼は歸つて來た、斯くて彼につき記載する事を得たのである



## 第九節 會計課

會計課は司計係及出納係から成る、司計係は収入及支出の命令調査に關する事項、決算に關する事項、収入及支出の命令書保管に關する事項、其他會計に關する事項を掌る  
出納係は現金及債券の出納及保管に關する事項、現金取扱の契約に關する事項を掌る

### 市役所守衛(其四)

十日程前迄は彼は江戸堀下通三丁目に住つて居つたが不當なる家賃の値上げに遇つて居堪まらず妻君の弟の家に同居する事となつた、弟の家に同居と云ふ名義ではあるが事實上彼が家賃の大部分を出して居る、二階が四疊半と三疊、下四疊半に二階二間で十一圓五十錢であるが弟夫婦を二階に住ませて居るけれども其内僅かに二圓を負擔させて居るのみである、彼の家は濕氣が多い、其れで彼は生れてから脚氣等はした事は無かつたのであるのに此家に入つてから脚氣になつてしまつた彼の家の床下も非常な濕り方である、家族としては二階に妻君の弟夫婦其れに彼の夫婦と十八歳になる男の子が一人とである、此子は梅田の口金工場に通つて居る、口金工場と云ふのはビールや其他の罐詰の口を封する時に使用する金の事を云ふ、日給は一圓餘りで積極的に家政を助けると云ふ意味にはなつて居ない



主事

## 竹矢節氏

⊗……女房の腰巻誰れが洗ふエ……オイラア之れでも亭主ぢや……さ節面白い安來節の本場を距る事約三里にして山中鹿之助が精忠の遺跡たる月山は毅然として今尙聳立せり麓を洗ふ富田川は悠々流れ僅かに尼子城址金色の逆鋒の反映を浮べるのみ、此處は島根縣能登郡廣瀬町山陰の空氣は流石に靜肅と謂ふべし

⊗……竹矢君は則ち明治九年三月三十一日此處に生る、搖籃の恵み靜かに長するや居村の小學校より松江中學に入り明治二十二年之れを卒へ尙漢和の學を先輩に學びて私かに政治家たらんを試みたるも遂ひに斷然志を樹て、松江稅務管理局管内廣瀬稅務署員となり直接間接兩稅事務に滿腔の努力を傾注したり

⊗……超て爾後兩三回に亘りて同管理局管内の各稅務署に轉勤し來りたるが偶々三十四年五月に至り大阪船場稅務署勤務に榮轉し初めて都市稅務の實際に携はり尤も難關視されたる所得稅調査定及び國稅營業稅の實務を主宰しつゝ優秀なる事務家たる名聲を博したる事多かりき

⊗……斯くて前後五ヶ年間克く其職に忠勤し上司の信頼する人物たりしも固より收稅吏の半面には連綿たる哀愁常に横はるを心よしとせざりし君は逐年徵稅費目の増加を致し愈々庶民の爲めに負擔重きを觀永く止まるべきに非ずして茲に斷乎退職の上三十九年五月大阪市役所に入り現に主事に累進し會計課出納係長たり



……  
☒彼れは稍咄辯に似たれども出納事務に關しては先天的の才能を有し誠に鮮かなるものあり勿論多年の経験が之れを然らしめたるには亦らんも事既に計數にして實際問題なり優良の技術なくんば敢て君の現任に耐ゆる無けん、君は歴史もの讀書を好み、角力の觀賞に一双眼を有するは珍すべし

#### 市役所守衛（其五）

妻君は何も内職をして居ない、主人は休日として是れを娛樂に費す事が出来ない、其れは今守衛に昇進したからであるが此春迄は使丁であつたので吏員が休みつある場合も出勤して市役所を守らなければならず、休日の中から交代で休日をとつて居たのであるから休みのみは家庭で暮らさうと云ふ氣になると、給料が僅に一圓四十二錢であつて之れで家族の生計を立て、居る事を思へば娛樂處の騒ぎではなく、唯一の樂しみは彼が仲間びりと寝るのだと云ふ意味も自明白になる

彼の故郷は和泉の岸和田町であつて當時は未だ沼野村に屬して居つた、父は彼の廿歳の時母は廿五歳の時に亡くなつた、彼には澤山の兄弟があつたが彼の記憶に残つて居るのは三人で皆男兄弟である、彼は其三番目であつた、兄達は皆一家をなしたのであつたが子が出来たか出来ぬかに死んでしまつた、兩人の残した子は共に成人せずに皆亡くなつた、其れ故今では彼は天にも地にも唯一人である

#### 主事

### 寺田三郎氏

☒……市會計課司計係主任たる君は格勵勤勉以て範みなすに足る努力家である、君の姿は恰も市廳にかゞげられて居る時計の針の如く洵に正確に進退される、口の悪い給仕連は寺金と稱して一種の誠めの如く直覺して居る、一體寺金の意義如何は解釋する迄も無く精勵勤勉を代名するのである、従つて給仕連はオイ君今日は馬鹿に寺金式ちや無いかウム左様さ考へても見給へそれは君ボーナスに關係あるからナ、など、結ぶのだ、寺田君は事程左様に熱誠な公吏である

☒……然り君の如く確的で而も全精力を傾注し乍ら事務に當る者は多く類例の無い所だ、さればこそ市會計事務に従事して易々難關も繁忙も之れを切り抜けて居るのである、元來會計事務は専ら計數の執務をせねばならず無味無趣なものであるから既に多大の覺悟を必要とする、加之、苟も數理上の事には杜撰孟浪を許さぬのである、一も二もなく將た亦厘錢の微細をも意せせずして的確正鵠を旨みすべきは謂ふ迄もあるまい、であるから此點にも別して隠れたる努力を注がねばならぬのだ、夫れもの如く營々會つて盡きる所なき覺悟と精勵とを持する者に非ずんば到底何等の貢獻を爲し能はざるものである

☒……當の本人に直言して賞讃すると思ひきや沸然色を爲して曰く我れ既に過分の恩恵に浴す者粒々たる奉公又以て何んの足る所あらんやだ、然るに當然の義務に當るに此の賞讃あるは然り我れを侮る者か然らずんば不及を諷刺する者



なり甚だ怪しからぬ……而して事前に比して更に一層の奮勵を試み敢て進言者の二の句を繼がせぬ男である、此處に獨特の個性が躍如として居るのだ、と同時に彼れの短所も含まれては居るが凡そ被備者の立場にあり乍ら斯くの如く居常に然も深遠全誠な考へで立ち働いて居る者果して幾人あるだらう、兎に角君は健全な公吏である

☒……彼は奈良縣高市郡高取町の人、明治六年十二月生れ所謂竹取物語に記された竹取城即ち今の高取城下の産である、故山の中學を卒へ就業屢々であつたが不幸個性を解せざる域に納まる能はず意を決して明治四十一年大阪市書記に任せられ漸く伯樂に遭ひ上司の手導きを得十餘年間次第に認めらる、執務を爲し主事に進み現職にあるのだ、彼は文學もの、讀書を好み且つ園藝趣味を有する所生れ故郷の奈良人の優雅さを備へて居る譯けである

### 市役所守衛（其五）

兄が死んだ時に家督を相続すれば十族であつたのであるが別家したので平民である、大阪には十三四の頃から知り合ひの家に手傳をしたり一時丁稚をしたりして、何日も来ては居たが本當に足を洗つて大阪に出て来たのは大正元年である、輒で人力車の車輛を製造して居た、其後方々歩いて車輛の方をして居たのであるが大正五年に淡路町の汎愛小學校に使丁として雇はれ、其處に三年程居た、市役所の使丁となりたのは大正八年一月からで、それから今度守衛となつたのである、色々な仕事をして見たけれども之によつて成効する見當もつかない、四十九歳の今日何に代ると云ふ事も出来ない、そこで日給壹圓四十錢は安いが市役所に勤めるより仕方がない

## 第十節 電氣鐵道部

電氣鐵道部には總務課、運輸課、電務課、工務課、車輛課、調査、會計課等の各課がある

### 總務課

總務課は庶務係、文書係、主計係、調度係、及用地係から成る

庶務係は部員の進退、賞罰、給與、其他身分に關する事項、公印の監守及構内の取締に關する事項、訴訟に關する事項、現業員共濟會に關する事項、其他の課、係の主管に屬せざる事項を掌る

文書係は文書の收受、發送、編纂及保存に關する事項、文書の審査、進達及議案の作成に關する事項、印刷に關する事項を掌る

主計係は豫算の編製、管理に關する事項、決算の調査に關する事項、用品資金の管理に關する事項、收入及支出の命令に關する事項、物品出納命令に關する事項を掌る

調度係は物品の賣買貸借に關する事項、人夫及職工の供給契約に關する事項、工事の請負契約に關する事項、被服の調製に關する事項を掌る

用地係は電氣事業用地の取得並整理に關する事項を掌る



## 運輸課

運輸課は庶務係、監監督、運轉係人事係から成る

庶務係は運轉現業員の進退、賞罰、給與其他身分に關する事項、運輸の豫算整理に關する事項、電車内遺留品に關する事項、回数乗車券及團體貸切乗車券發賣に關する事項、廣告其他附帶營業に關する事項を掌る

監督係は運轉現業員の一般の監督に關する事項及就業中の運轉現業員の指揮監督に關する事項を掌る

運轉係は電車運轉に關する事項、電車事故に關する事項、運輸統計及調査に關する事項を掌る

人事係は運轉現業員の募集、教育、保健並生計に關する事項、運轉現業員の寄宿舎及公舎に關する事項を掌る

## 電務課

電務課は發電所及變電所の設備並其作業に關する事項、電線路の建設、維持及修理に關する事項、電柱共用に關する事項、電力設備の調査に關する事項、電力供給營業に關する事業を掌る

## 工務課

工務課は建設係、保線係、營繕係から成る

建設係は電氣軌道及其附隨工事の建設に關する事項を掌る

保線係は電氣軌道及道路、橋梁の維持修理並改良に關する事項を掌る

營繕係は建物の建築、維持並修理に關する事項を掌る

## 車輛課

車輛課は車輛の製作、維持並修理に關する事項を掌る

## 調査課

調査課は電氣軌道事業及電氣供給事悉の調査に關する事項、統計及報告に關する事項、部報の編纂並配布に關する事項を掌る

## 會計課

會計課は收入及支出に關する事項、現金及有價證券の出納並保管に關する事項、決算の調製に關する事項、現金取扱契約に關する事項、物品の出納及保管に關する事項、乗車券の出納並保管に關する事項を掌る

## 市役所守衛 (其六)

職人は元來武張つた事を好むものであるが彼も其よい例で趣味とか娛樂とかと云つて類の所謂だらしないものを見聞きする事は嫌ひである、遠足、魚釣り等は過去に於てはした事もある、煙草は喫ふ、酒は呑むが一合位な處である、無信仰であるが伊勢神宮を祭つて居る、葬式は佛式で行ふのであるけれど寺等には一切無關係である、獨立獨歩主義であつて事情からも來ては居るが社交を嫌ふ結果である、其れから器物を大切にする美德を持つて居る



## 第十一節 港灣部

港灣部には庶務課、經營課、技術課、主計課の各課がある

### 庶務課

庶務課は庶務係、港灣係、作業係、調査係から成る

庶務係は部員の進退、賞罰、給與其他身分に關する事項、公印の監守及構内の取締に關する事項文書の收受、發送、編纂及保存に關する事項、其他の課、他主管に屬せざる事項を司る

港灣係は港内及運河の取締に關する事項、出入船舶に關する事項、棧橋、浮標の管理に關する事項、曳船に關する事項を司る

作業係は船舶給水に關する事項、渡船事業に關する事項、港内塵灰取扱に關する事項を司る

其の調査係は港灣統計、調査及報告する事項、委託工事の調査に關する事項を司る

### 經營課

經營課は土地係及保稅地係より成る

土地係は港灣部所屬土地の保得、處分並管理に關する事項、港灣部所屬建物の管理に○する事項を司る

保稅係にては貿易用地、運河、運河沿岸地、保稅地域及假置場の利用に關する事項、起重機及起重機艇の利用に關する

事項を司る

### 技術課

技術課は技術係、設計係、河川係、機械工場、突堤工場から成る

技術係は港灣設備の維持、修繕に關する事項、道路橋梁等の保存に關する事項、工場の主管に屬せざる工事の施行及監督に關する事項、工事の報告並竣功明細書調製に關する事項、他の課の主管に屬せざる事項を司る

設計係は工事に屬する調査並設計に關する事項、工事用材料の試験に關する事項、築港利用の計劃に關する事項を司る

河川係は河川の修理及維持に關する事項を司る

機械工場は事業用船艇、器具機械の製作、修繕に關する事項を司る

突堤工場は突堤並繫船岸の築造に關する事項築港埋立に關する事項を司る

### 主計課

主計課は主計係及物係品から成る

主計係は豫算の調製、管理に關する事項、使用料、賃貸料其他收入に關する事項を司る

物係品は物品の購買並工事請負に關する事項、物品の出納、貸借、保管並處分に關する事項、不動産の處分に關する事項を司る



最近勃發した市電従業員の組合運動に對し佐竹部長の施策は其訓示の如く零岸を極めたものであるから紹介する。

余は就任以來努めて各般の實情を調査し實際に適切なる施設を爲さむことを期し又部下職員に對しては相互相信し相倚り命令服従の關係よりも寧ろ共助扶導の精神を以て事に當るべき旨を訓諭し特に乗務員に對しては近時勞働運動の趨勢に鑑み余の執務の方針を各員に徹底せしめ且乗務員各自の實情を親しく聴取するの必要を認め天王寺外四出張所に赴き各所の運輸協議會(會員は各所々屬八組の組長八名各組より組員の選舉したる一名宛代表者八名計十六名(參列員は所長、助役、運輸課長、監督係長)を招集し其席上余は各般の事項に涉りて余の所信を披瀝し之を各組員に傳達を求め各代表者より組員を代表して腹藏なき各自の希望及意見を聴取せり余の述べたる事項を略述すれば(一)吾人が市民より委託せられたる電鐵の業務は市民の日常生活に極めて重大なる關係あるを以て吾人は日夜其職責の重きを自覺し之が遂行に付き萬遺憾なきを期す(二)乗客に接して懇切丁寧を主とするは勿論乗務員相互並に乗務員と監督者相互の間に於ても温情親愛の主義に依り相互扶掖誘導し圓滿に職務の遂行を計る(三)勞働組合を組織し多數の力を恃み市民及上局に對し要求の貫徹を期する如き勞働運動は絶対に之を排斥する(四)現業員の地位の向上福利の増進に付ては最善の努力を惜まざるを以て諸子は當局に信頼し各自の職務遂行専心すべき事(五)然れども言論の自由は之を大に尊重し各自の正當なる意見を參酌し實際の欲陥を補はむことを期すは余の方針なるを以て各代表者は事大小こなく組員の希望意見等を取纏め之を協議會に於て開陳し當局は其探るべきは之を探り探るべからざるものは其事由を説明し各自の了解を求むる(六)之等の事項は組合運動者が組合の力を以て達せむとする主なる事項を包含するもの信するを以て新たに組合組織の方法に依らず而かも充分諸子の利益を擁護増進を得ることを信じ此方針に依り進まんとするものなるを以て能く之を了解し協力一致して余を援助せられたき(七)萬一諸子の内に余の此方針に反對し今後組合運動を煽動する者あらば余は多數の穩健なる従業員を擁護し余の職責を全ふる爲に之等の人々は余と共に其職務を遂行すること能はざる人々なるを以て此點は豫め誤解なき様一層注意を加へ輕舉妄動に陥らざらむことを切望して止まざるなり

ざらむことを切望して止まざるなり

以上の諸點を反覆説明したるに各出張所の代表者四十名中天王寺所屬組代表者を除く外全部の主義に賛成し且余に對し感謝の意を表したる者すらあり仍て余は大多數の従業員諸子の意の存する所を諒し益々其職務に忠實ならむことを訓諭し且右組代表者に對しては尙反省を求め置き其習日更に之を招致して余の意見を説明したるに右代表者は電鐵部従業員に對する問題としては余の主義に賛成なることを明言せり然るにも拘らず爾後引續き組合運動を繼續せる模様なるを以て更に同組合員全部を二回に分ち集め情義を盡して余の意の存する處を諭したるに組員の多くは能く余の意を了解したるが如し然るに反之今回組の代表者率先して突然斯る不穩の行動に出でたるは余としては遺憾至極の次第なり且余は多數の従業員諸子は必ずや自重して斯る煽動に影響を蒙ることなきを確信するも今後尙一層細心の注意を拂ひ誠實に其職務に従事し市民の期待に反せざらむことを切望し堪へず





清 水 熙 氏

●……電鐵部技師長たる君は大正十年四月早々より市の託宣を得て英、佛、瑞、伊、白、蘭、獨、米及び英領加奈陀の各國に出張し十一年四月歸朝したのである、勿論洋行の用件は市將來の企業である所の都市高速度交通機關の設備並に關係事項の調査にあつたのであるから君の技術的信用も亦以て推察するに足るであらう、事實に於て君の腕は天才的力量あり獨特な技を備へて居るのだ、腦漿の發達した點に創造力に富んだ點は特に君の秀でた一大特長である、全く實力主義の技術家であるが爲めに不幸にも全般の人々には印象深くない、然し君は早晚アツク言はせる妙技を如實に見せる人である。

●……清水君は由來技術家に通弊な變態な人間では無い卒直な而して開放的な透明無垢な男である、お世辭も無ければ嫌味も無き人である、従つて自己表情の巧みな策士には到底なれぬのである、此の故に小笠原流儀に格式を重んじたり又は官僚氣分の多い連中にとつては甚だ勝手が悪い様に受け取られる、恰も無味乾燥の男であるかの如くに解釋されて終ふから時に頗る遠慮される事もある、本人は一向何んの蟻りもないのに周圍でワイ／＼と難じられた事もあるのだ、然し自ら顧みて疚しからざる君は有爲轉變の間に處して更に屈託なく平氣の平左で辛抱して行くから面白い、會つて或る議員の如きは清水君の勸忍袋を指してゴムの様なものゝ激稱したが實の所不可侵の袋に相違無い。

●……敢て死屍に鞭打つ譯では無いが今は故人となつたS氏が電鐵部長の椅子に座つた時氷炭相容れざる性質の氏は清水君を盛んにコキ下したものである傍人却つて之れを氣の毒に思ひ悲憤の涙に暮れたのであつたが本人は只ハッ／＼の笑ひ盡し

で日夜克く調和した古今でも取り沙汰されて居る、臍の大きい度量の座つた腹の出来て居る事概ね斯くの如きものである、然もそれが一技術家の君である、常に特別扱ひにされねば已まぬ素質ありませらるゝ所の技術家でよく君を模倣し得る者は恐らく求められぬのだ。

●……君は默念居士の仇名を授けられつゝある寡黙の人であるから自然に流れる無垢な精神を修飾して世上一般の所謂如才なき人にはなれ無い例令逆捲く怒濤が押し寄せて命且に迫る危機に起つとも尚且つ性格を軟く事は絶対に好まぬ男である、此處が君の缺點であり同時に大なる特長であるのである、世の中は悉く濁つてばかりは居ない、濁流滔々たる中にも亦清廉の素流が常に脈々たるものがある、彼れの單調な飾り氣の無い脈搏は心ある者の心絛を動かさずには居なかつた、則ち營々數年後某氏に囁目されて忽ち播川されるに至つたのである。

●……君は現在大阪市の交通政策の根源とも云ふべき電氣鐵道部に於て數多ある技術家を帥る其首班に座して種々の計畫を斷行すべき要位に擧げられ進んで早晚實現さるべき高速度交通機關の擔任者として信憑一方で無い、蓋し君の過去は君自身も雖も捉はれたる過去であつたらう、故に只將來に向つて其全力を傾注し眞價を顯はし男を賣り出す機會を考へて居るに相違あるまい、又一般市民が等しく期待して居る所である、既に君の渡歐に先ちて其肺腑を貫く熱血は深き覺悟を嚼いて居たのだ元來が洒脫な學者肌であるだけに新進な空氣を擴く世界に呼吸した以上例の無口な裡に雄大な而して奇抜な貢獻の途を啓いて居る筈である。

●……君は岐阜市の人佐竹現任部長とは同縣人である明治十年三月生れ、故郷の中學を出て明治三十四年七月東京帝國大學土木工學科を卒業し新進の工學士となるや直ちに北海道炭礦鐵道株式會社に就職し居る事七年にして同四十年鐵道院技師となり北海道鐵道管理局に勤務したが直ちに大阪市の招聘に應じて電鐵部工務課長に來任したのである、四十四年一度去つて京都市電工務課長となり大正三年其才能を惜まれて再び呼び戻されて市技師に任じ市電技術課長に擧げられ兼車輛課長、運輸課長



等を経て大正八年十二月技師長に進み調査課長、都市計畫部技師課長を兼任しつゝあるのである。君は市より命ぜられて大正十年四月より同十一年四月迄滿一ヶ年間歐米に渡り技術を研究したのである。

### 勞働 調査

衛生課掃除小頭 (其一) 五十七歳 家族七人

彼は市役所衛生課の人夫小頭になってから既に二十年になる。

十六歳の時に便があつたので土佐にゆき、町に出るのに七里もあらう云ふ或る寒村で佐伯云ふ人に使はれて百姓仕事をして居た。土佐の百姓は大きな百姓でも多勢の作男を置く様な事は無い。作男は彼一人のみであつた。農繁期になれば日雇人を雇つて仕事をさせる。其様な時は雇人を指揮して働かせる。平日は屋敷の手入れ等の雑務である其處の厄介になつて妻を娶り十年程其家に居た。其後事情あつて其女を分れ近村で郵便配達をして居た。現在の妻君は伊豫の生れであるが其時に一しよになつたものである。卅六の年に大阪に出て來た。大阪に出ては土佐で貯蓄した僅かの資本で炭屋をして居た。炭は土佐からひいて居たのであつたが思ふ様に送つて呉れなかつたので失敗し市役所の衛生課に人夫として勤める様になつた。其れから今日迄二十年になるのである。子供は六人。男三人の女三人である。

## 主事 瀧山良一氏

市電鐵部にあつて副總裁の紳名ある者は之れなん瀧山君である、君は紳名の通り事實に於て部長を補佐する市電總務課長の重要な椅子に在つて凡ゆる機密に參與して居るのだ、何時頃から妙な紳名を付けられたのであるか問ふだけ野暮記述するだけ蛇足であるが、併し乍ら單に其地位や椅子の序を稱する簡單なもので無い以上解釋も亦必要である、關博士が部長兼任になつて間も無く植わられた瀧山君は御大の爲めに骨身惜まず活動したので信任を一身に宛めて終つた、而して天才的に閃めく人氣は眞に電鐵事業經營の上に勃々として經綸するに至つたのである。

茲に於て實力と妙策とに其都度舌を捲きつゝあつた上司は關博士の口を通さなくとも深く信憑する様になり事毎に所謂瀧山説を聴取する傾向が生じたさへ噂される有様であつた、之れを洩れ聞いた連中は私語して曰く副總裁の仇名を呈したのが抑もの濫觴であつて後には其の占める所の椅子も總務課長である云ふ理由が付いたのである、従つて紳名の起源は關君の腰巾着である、市電の實力者であるこの偶意もあると解かねばならぬ、最近に至つて佐竹博士が關君の後釜に部長となつた此際紳名も意義を變更するかと思はれたが其處はそれ椅子ばかりで無く實際の力と才能とが併せて偶意されて居る爲め佐竹君も亦瀧山君を自家の直系に焼き直さんとして居る位ひだ、事程左様に瀧山君の力量は不言不視不聽の裡に認容されて居るのである。

君は思ひ切つて開放的な男である、快活恬淡にして磊落三昧の性格を帯び議論でも笑談でも矢でも鐵砲でも持つて來



いの快男児である、會つて如何なる場合にも苦惱や悶々の状態に落ちた事のない人物で樂觀の親玉だとも稱される位である、然も敏捷な脳梁を以て事を談笑の裡に解決して行く所は、一寸人が眞似得無い藝當であらう、當の本人はそれで餘裕綽々たるものだ。

◆……君は未だヤツミ四十代である、前途益々多忙なる身であり助役候補の一人であるが自身の曰く苟も公務はされもこれも覺ゆる必要がある有給無給を問はず吏員ならば恐らく知つて居なければ奉仕出来無い破目が来るであらうと而して未だ、俺れは修業を重ね度いご致々たる有様である、つまり活動が君の生命であるのである、因給を庶給して只時間の經つのを待つて居る様な腰抜けで無い事然りである。

◆……道理こそ君の日常の行動や對談に活氣と才氣を始終するはこの決心と努力があるからだ、君は而して純粹の江戸ッ兒である、明治十六年八月生れ、小中學を東京に於て修め明治三十七年早稲田大學英語政治科を卒業するや多年の志望を實現すべく加奈陀に渡り貿易商會の店員となり更に三十九年渡米しアルフレット大學に入學し四十一年六月經濟科を卒へ更にハーバート大學に入學四十二年六月市政專攻部修業同年十一月より四十四年七月迄歐洲各地の主要都市を視察して歸國同年十月大阪市書記に任じ財務課員になつた、而して大正五年主事に補し港灣部課長電鐵部庶務課長を経て現任になつたのである。

◆……君の過去が前叙の如く活動を主眼とする米國仕込に持つて來て來地球を跨にかけた智識を包蔵して居るので現在の名聲を博しつゝあるは必然の結果であらう、君の趣味はあれで中々廣汎なものだ、先づ新作小説、戯曲、俳句等はお手のもので野球や登山なごである、則ち一室に閉ぢ籠つて青い顔や墮眠を貪る事が大嫌ひだ。

## 技 師 梅 田 與 市 氏

◆……大阪電氣鐵道部車輛課長、運輸課長、發電所長の諸繁務を一人の手にて兼任せる壯々たるの敏腕家、彼れは滋賀縣の人、明治六年一月史上有名な姉川古戰場の邊りに呱呱の聲を擧げ爾來奮闘努力の結晶は終に彼れをして一造船所の職長より今日に於ける大阪市技師に成らしめたのであつて眞に立志編中第一に擧げらる可き世の模範者である、彼れの氣質は所謂東洋風の豪傑肌にして一面小事に顧慮する所なきが如し、雖も他面微意細心にして何事も徹底的性格を有するが故に人の長を成つて部下を統率するに最適す、然も彼れは相當事務的才幹を有し、立言立案を爲す能力に卓越し其の上頭腦明晰にして詳細なる鑑識力を有す彼れに今少しく系統的學力を有するならば、常に人より惜しまるゝのである。

◆……彼れは實力に於て大いに見る可きものが多々ある、現に大阪市電氣鐵道部の重鎮と稱せらる、如何に複雑せる難事業に雖も多年の經驗と豊富なる觀察眼を以て易々諾々として片ツ端から遂行せしめ眞に人をして只敬服の外無からしむ、彼れを只一口に評せば俗に云ふ「苦勞人」にして凡ゆる人間界の事情に通ずるが故使雇せる人に嫌忌を生ぜしめ又社會の實際に明るきが爲め總て活社會に適應する途を講じ自己主觀に偏狹せず客觀的に自己獨習の縱横の奇略と才腕を以て事に當る實に先天的に云ふ可く現代稀に見る模範的人物で有る。

◆……彼れは又豪放磊落の性、常に親分を以て自ら任する面白き勇み肌の男で之が性時なれば一世の俠骨漢播磨院長兵衛と好取組の相撲が出来上るべく浮薄の時代稀に見る硬骨の快男子で有る、彼れは明治十九年川崎造船所に入り程なく職長に進み



轉じて三菱造船所、長崎森田造船所、大阪藤水田造船所、大阪鐵工所等の職長或は組長に成り更に明治廿七年十二月福山紡織株式會社機關部鐵工部技手に進み同三十三年大阪日本紡織株式會社機關係技手を経て同四十年大阪電氣鐵道部機關長となり明治四十三年一月大阪市技師に榮任し大正八年十二月以來現職を奉じ來つたもので市吏員中或る意味に於ける第一人者である。

◆……彼れは常に淨溜瀉を好みあの顔をして而もあの無骨漢が或は金鈴を振るが如く又お寺の鐘を撞くが如き種々の聲を張上げて鎌倉二代記等の艶ッほい所を怒鳴つて居る事を度々耳にする事がある。

### 衛生課掃除小頭 (其二)

長女は十七歳で神戸に嫁入らせてあり。長男は十九。或鐵工所で働いて居る。日給は一圓五十錢で四十五六圓の收入がある。彼の收入は月六十圓程で兩方合はせて百圓餘になる。其れで七人の家族をやつてゆかねばならぬのであるから家計は豊かでない。

斯くの如く今は兎も角暮らして居るが一時は可なり困難をした。同じ市役所でも市電衛生課の人夫になつたばかりに仕事は樂であるが斯くも少しの報酬に満足せなければならぬ事になつた。

彼にまつて土佐の十年は楽しいものであつた。人間には魚が孵化した場所に歸らうとする習性があると同じ様に故郷に歸りたがる不思議な先天的の欲望がある。大阪に歸りましたが間違つた處に歸つて來たのである。そして其處で餘計な苦勞をして居る。都會の文化的施設によつては慰めらるべき何物もない。

## 主 事 瓜 生 苞 氏

◆……瓜生君は岡山縣上房郡水田村の人、明治十五年十二月を以て偏照山麓に生る、此山は舊幕時代天領地なりしに水田村の景勝として將た亦源頼朝の建立に係る古寺あつて有名な所である、土地の利を得た同地一帶の人士は故に早くより敬神尊皇の遺訓に染み幼年も青年も共に壯老の指導により依心傳心の陶冶を受けて居る、瓜生君も亦郷土の美風に育て上げられたのである、従つて人一倍勤直にして志操斷乎よく耐忍不拔な精神を把持して居るのだ。

◆……君は明治四十一年明治大學出身の英才である、同三十五年郷里岡山の縣立高梁中學を卒業してより東都に出て明治大學に入り其豫科を卒へ商科を専攻し而して之れを終へたのである、君が故山を去るに當つて將來を希望したものは一大實業家たらん事であつた、此の目的の爲めに實は商科を特に選び努力したのであるが、中學時代に萌した君の政策的才能は學ぶにつれて益々特長となり趣味となり而して一身を律する自信になつた、従つて君業を卒へるや深く考ふる所あり翌四十一年一度郷里に立ち歸りざま周圍の引き留むるを聴かず直ちに來阪して市役所の腰辨になつたのである。

◆……青年が奔放にして想大な志を抱き乍ら一腰辨になるには随分其大な堅固な覺悟を極めねばならぬ殊に何々大學——それが官立でも私立でも——を卒業し郷里の人々から恰も鬼の首を拵り取つた様な讃辭を浴せらるゝ時、月給何圓也の端々金を以て拘束される境遇は頗る理想ミカケ離れたものでありサテ尊大な青年輩が好んで其處に坐する事は全く六ヶ敷いもの、一つであるんである、君も石像木像で無い憚り乍ら温い血ミ鹽辛い涙ミを持參して情熱に燃ゆる人間様である、一夜行かうか戻



ろがか心大いに迷つた事もある、併し乍ら其處がソレ瓜生君の偉な所だ、群がる異想を沈めつゝ、よく一公吏に身を託した譯けだ。

◆……既に第一階に於ける覺悟を極めた君は就職するに同時に萬全の力を注ぎ精力を傾注し以て事大小さなく眞摯に立ち働いたのである、俄然下情に通ずる上司は君の異才に著目し次第に君の前途を開拓してくれた殊更其奉職せる市電鐵部の梅田技師の如きは君を擁護する第一人者となつた、此現象から今尙君は梅田派の人と評されては居るがそれは黨人部別の好事者が便宜上唱へた事であらう、兎に角後援者は右からも左からも起ち上つて君を手引きするに至つた。

◆……關助役が電鐵部長を兼務するに至つてからは一層光明を得て一躍主事に進み要位を占る事となり今では電鐵部總務課長の下に庶務係長、運輸課人事係長、教習所長と云ふ三役に就いて才氣煥發よく事務を切り振して居る。

◆……君は性來温良な人物である、一杯の酒に酔ふて低唱舞歌する様な粹は無いが然しハ、アノノで到る處渡つて行く快男兒だ、さちらかミ云へば不偏的な趣味を有し讀書に耽る方だ、けれども圍碁を打ち撞球に鼻をあかせ、囃々たる尺竹の妙韻に人を魅すも妙技を併せて持つて居る。

### 衛生課掃除小頭 (其三)

細い煙りを立てる爲めか、見よ苦勞の結果彼の顔は茶の如くに萎びて手足は枯木の様に瘦せてしまつた。しかも六人目は今年二歳の少女である。信心は天照皇大神を拜んで居る。

## 主 事 後藤憲之氏

◆……市電當局の方針を決定すべき順序として唯一の参考事務は何んミ云つても調査課に於て取り扱はれた書類であらう、事實調査課は最近の設置にかゝり凡ての参考資料となるべきものを蒐集するのだ、それを直ちに取捨選擇して將來は大方針の精神となるのであるから其重要な事務であるのは勿論である、従つて其係員も亦あるべき者は一層重大な責任を持ち正確な者でなければならぬ後藤君は斯うした必要條件の下に特に選ばれて調査課に在勤する男である、只此の経路からしても既に異数な人である事を立證し得るのであるが尙君には數ふべき數個の特長がある。

◆……君の秀でた特色は勿論事務精勤な一點もある、併し更に彈んで人の意表外に出るものがあるから面白い、あの温厚篤學の士、而して堅い方面の學究であり乍ら瓢々たる俳諧を書くのだ、而も讀のみでは無い奇想天外の俳句を飛ばすのである、……花に宿しばし假寝の蝶々かな……斯様な韻を無限に傳へる作句は山の様にある、折しも春夏秋冬の季節に際し果ては有爲轉變の世想を觀じ來つては寸間に奇抜な着想の下に悉く俳句にするのだ、尤も一流さころを凌ぐ様に達人ミ云ふ譯けでは無い併し行くにして可ならざるなき状態は他日大成する前提として之れを推賞せぬ譯けに行かぬ。

◆……さうかミ思ふに君はまた暮夜一燈の下に萬感を排し氣心丹田に納めて然る後に觀世流の曲を詠するのだ、肅靜の夜陰を破つて明々の聲は風のまにまに曲目を傳へて行くのである、……羽なくては飛ぶ事叶ふまじく候……なきの千切れた哀句や……佐野のわたりの……なき、調子が時々流れて來る、當の後藤君は將に眞劍に奏する所であるから従つて以心傳心的に聽



く者をして眞に迫るの感を湧き起さしめるのだ、斯うして傾聴者を縛つて終ふ君は確かに斯道の名手たる初歩であるは争はれまい、然し君は固より羨し謠して人の耳目を洗濯せんが爲めに修業して居るのでは無い單に自己の精神慰安の爲めに餘暇を利用しつゝ鍛へ上げた結果である。

◆……君は公人としてや優に重視せられ内助の効を捧げ私人としてや心的療養の方途に達して居る明治十五年八月福岡に生れ學究多年にして業成り明治四十二年鐵道院職員となり前後七ヶ年の奉公後大正六年退職大正八年六月始めて現職に就いたのである。

### 勞働調査

消費組合擴張員 (其一) 三十四歳 家族四人

島根縣大原郡〇〇町が彼の出生地である。故郷で尋常科を卒業してから松江に出て私立修道館に云ふのに入學した中學程度の學校で私塾の様なものであつたが中途で退學した。五人兄弟の四番目で次男である。大正三年に軍隊を出てから大阪に來たのであつた。軍隊では「一等卒になるには大分苦勞しました。何故に云つたつて命令に従はないのです」云つてニコくして居る。トロッキー式に髪を掻きあげ黒いセルロイドの縁の眼鏡を掛けたので全く勞働運動家らしく見える。「國家存立の目的は所有を奨励し正しき生活をする事を奨励して居ないが常に所有者を保護して居ります。此事が同時に資本家保護の意味にもなつて來ます。」正義」は立法上行政上常に「所有」の爲めに負けて居ます

## 技師 岩井欽一氏

◆……岩井君は今大阪市電鐵部に時めく優秀技術者の一人である、既に部内の樞要位置たる雷務課長であり技師である、従つて大小ミなく緊要事務に従事して幹部の一員ミなつて居るのだ、殊に君は早くより米國に渡り同地の仕込を受けた新進の優技を持つて居るので何事も外國に擬する、我電鐵界に於ても甚だ雄視しつゝある譯けだ故に市電當局ミしては素破らしい人気者である、君の尤も得意ミする所は所謂設計企劃であつて實地の技も亦同時に併行する所に偉大な強味を有するのだ。

◆……君は性來劃策ミ目論見の利く男で謂はゞ理性の人であるのみならず全く智略に富む人である、苟も君にして、之れ將に斷行すべしミ構想すれば先づ以て深く顧み熟慮を傾けつゝ徐ろに自在な智恵袋を絞る、而して若し夫れ意動けば敢然ミして茲に百難を排して邁進するのである、何處に荒波が碎けやうも又何時悲風慘風折り重るこも一笑こそあれ一顰だも揺らぬのである、嗚呼之れ引かれたる一直線の方向にのみよく進んで行くのだ。

◆……君が則ち不撓の熱烈な精神はビクミもせないと思ふ存分芽ぐまれるのである、クドくしく述べれば勇氣あり膽力あり反撥心が甚だ強く禍ひを轉じて福ミなす底の男である、従つて内心自ら餘裕綽々たるものだ、一日の繁務に身を粉にして勉め上げて儲て偶々暇を得れば盆栽のよし惡しに念を傾け乍ら自然の美に憧憬し以て修養慰藉するのである、加之養鶏の趣味に富み且つ造詣深く將に東天紅の啼鳴さへ聞き分け兼ねない達者である。

◆……君は愛知縣羽生郡犬山町の人明治五年十月生れ所謂犬山城小牧山の古蹟附近にあるを以て常に幼時から探勝の體れた



趣味を持つて居た、長じて小中學を卒へるや東都に笈を負ひて遊學し明治二十三年より同二十五年迄第一高等學校に學び直ちに北米合衆國に渡り明治三十二年ブラウトインスチチュード大學の電氣工學科を卒業し招ぜられてゼチラル電氣會社に就職の上同社の幹部に列し専ら諸器械直流電氣の設計に勤務した、明治三十七年辭して歸國し阪神電氣鐵道株式會社に入り發電所係りとなり翌三十八年去つて則ち大阪市技手になつた。

◆……君が漸く妙技を認めらるに至つたのは抑もこれからであつた、故に市電に入るや次第に重用され三十九年技師に任じ爾來電務課に長じて貢獻しつゝあるのである。

### 消費組合擴張員 (其二)

大阪に來てから京町堀の銃砲店で店員をして居た事がある。櫻島鐵工所、藤水田、村尾造船所、新田造船所其他にも鐵工所造船所等を歩き廻つたけれども是等は「私は本氣になつて資本家側と交渉をした工場です」云つて笑ふ。

彼の家は築港八幡屋町にある。電車通りから入つた許りの處にあり立派な堂々たる新建の家である。二階は六疊に四疊半下は四疊半二間に三疊である。家族は妻君の兩親と彼等夫婦とである。大體此家は妻女の家であつて父親は區役所に通つて居る。區役所の報酬は安いですね。砂を食つて居るやら石を呑んで居るやら「云つて大きな誤解を發表する。以上の四大家族で未だ子供はない。妻君は別に内職云ふ様なものはして居ないが近所から頼まれて縫物等をするこがある。彼の報酬は五十圓である。休日でも休まない。

### 監督長 龜井義純氏

◆……大阪市電鐵部運輸課に在る老練の監督係長主事、明治三十七年始めて大阪市電氣鐵道部の運輸手に採用され爾來幾星霜、幾多の辛苦と艱難を嘗めて初めて今日の名を築き挙げし人、確かに大阪市電に於ける偉大なる生字引の人として是非推舉せなければならぬ一員で有る、彼れが今日の立場を築き上げし其間に於ける努力の偉大さには、恐らくは何人も眞に、只敬服の外無いので有る。

◆……彼れは元渺たる一運轉手であつて學問は僅か小學卒業、而して亦彼れは左程優れたる智識が有ることも思はれない、云はゞ只一個の技術者上りに過ぎないけれ共、彼れの温厚篤實にして而も勤勉なる上綿密なる頭腦の所有者で有つて、此の街氣なく十年一日の如く致々として己れの職務に忠實なるは現代多く見ざる誠實の士で眞に賞揚す可き所で有る彼れ常に口を開いて曰ふ。私等の如き無學者を斯くの如く迄に篤く用ゐて頂くのは實に物體無い事であるが自分の身を既に市電の爲めに捧げた以上生命を賭し飽迄も市電鐵部の爲めに貢獻する覺悟である、之れは君の謙讓辭である。

◆……而して亦彼れには生字引の名あり、市電運輸上の事なら如何に難問題、如何に面倒臭き事と雖も易々として片ツ端から解決を付け他の人をして只敬服の外無からしむ實に大阪市電鐵部の爲め無くて叶はぬ重要人物である。

◆……彼れは大阪ツ子にして西區阿波座上通り二丁目に呱呱の聲を擧げ高等小學校卒業後當時の漢學者で有る森田博介氏の塾に漢學を修得し同氏より末頼母しき青年として其の將來を期待され居たるが半途故在りて退き明治三十七年大阪市電鐵道部



主 事

大柴 裔次郎氏

⊗……山梨縣は印材の産地、同時に處世巧みな人物を出す所、相場が極つて居る昔は甲州商人と云つて江州勢州のそれを實力に於て一蹴して居たものだ、明治聖代に入つてからは一轉して政治方面や外交方面にも多數の人材を出して来た、これは地理的恩恵の甚だ過少ななるに基因するので多くは山岳八嶺を主幹として脈通り沃地甚だ稀れである、従つて多くは出て、活路を他に求めねばならぬ、この理由が伴つて各方面に郷黨は漸く擡頭するに至つたのだ

⊗……今市電鐵部總務課文書係長たる大柴君にした所が矢張り前述の如き徑路に置かれ進んで富有な家を出て社會に乗り出したのである、彼は明治八年六月山梨縣西八代郡落居村に生れて以來先輩同窓の全く國を出て、活動する狀況に感化されて来たのだ、出て働かねばならぬのではないのに彼は中學を出てからは何んでも彼でも東京に行く事を決意し逐々中央大學に入り明治三十六年七月卒業した

⊗……謂はゞ瘦せても枯れても大學出身だ郷土に於ては譯けもなく優待する時代、然も官僚系は極端に官閥を誇つた時代に彼れは喜んで官學閥の時めく内務省に首を突つ込んだ、而して一屬官となつて土木局に勤務する事四ヶ年即ち大正二年辭して大阪市書記に商賈を換へたのである、其後電鐵部に腰を据え大正九年三月主事に拔擢され同十年五月文書係長の現任に進んだのである

⊗……彼れは固より溫和にして圓熟の男で社交に甚だ長じて居る、會つて豪酒を煽つて大ひに傑物視されたのであるが一朝健康の爲めに配慮するや斷乎之れを廢し滴量も之れを口にせず酒悟の域に達したのであろう自ら律を成し之れを嚴守して居る要するに彼れは事實上佐竹部長の秘書役となつて尤も適當な場所に据り得意の手腕を磨いて居るのである

電燈會社機械部助手 (其一)

傳法の川ミ川とが落ち合つた端に鴉ノ宮神社がある。場所もよく景色が豁けて居り相當に掃き清められて居るので人を待つ間を腰掛けて居るには極めて恰格な處である。附近には製材會社、硝子會社、鐵工所等が多く空氣は悪いが夫も反つて大都會の場末らしい風致である。鴉ノ宮から千島町に至る川沿の道路は片側道ではあるが他の片側は川に舟を浮べて住宅を形作て居る。此附近は荷揚げ等する人達の住家であらう。水準の差が少ない

ヴェニス邊にした處が野蠻人に追ひ立てられた文明人が一時的の目的で建てたものが永久的の意味を持つ様になつたに過ぬのであらう。人類の水上生活は例外もあらうがある力に依て一民族或は一階級が地上を追ひ出された場合に起るものであり、此等の人達も好んで水上に住居するのでは無く地代等の掛りが少ない水上に逃避したものであらう。其等の中二三軒の家屋が顛倒して居り中の疊や障子が半水に漬かつて其不統一な態を曝して居るのが同情に價する。

水上生活者の女房達は自分自身の身の上に較べて特別に深く長い溜息を漏らして之を眺めて居た。そして船の中から誰か、勞働者らしい歌を唄ふ。





主 事

## 武 森 武 市 氏

☒……武森君は當世流の才子肌にガツシリミした禪味を混淆した痛快な男である、チャキ／＼とした切れ味のよい、而して事毎に瞬間の熟慮を試み乍ら片ツ端から難行苦行を解決して行く特長があり須臾も逡巡せぬ遣り手で尙且つ敏捷な事夥しいのだ、若し勤め奉公をする腰辨社會の能率増進を説くのであつたならば言ふは易く行ふは難い筈であるから先づ以て武森式の泳ぎ方を練習させたがよい、君は實際一人で三人前四人前位ひの立ち動きをするのだ、現代の自稱覺醒労働者は多く努力を忘れ義務を返上し乍ら求める所ばかりを要求する殊には賃銀の値上げだとか賞與の分配だとか何んでも彼でも懐勸定に急はしい、手取り早く形容すれば人のものは我が物、我が物は我が物だ、爪垢程も入の思ひ遣りなんかした事はない、抑も武森君の嫌ふ所は先づ此の流義である

☒……彼れは與へられるだけ貰ふ而して力限り能率を發揮するのだ、或る者が之れを評して従順なる牛ミ稱したが當らない、左りきて曰く駄馬の如しもの外づれであろう、兎に角彼れは性來の活動家であるから打算的に骨惜みをせぬは勿論物質に釣られて労働の切り賣りをする様な安價な男ぢやない、憚り乍ら興味ミ趣向ミを持つて天職と信じつゝ其勤務を勤む譯けである、由つて此の點は公吏官吏の好典型ミして買つて置かねばならぬ

☒……彼れが市電動務ミ共に肝心要の用地係長として要路に置かれた事は適材をして適所に就かした事勿論であるが彼れの努力が生んだ賜物ミも謂ふべきであろう、既に上司の活きた目は彼武森の人材を適當に看破したに相違がない其前途の如きも概ね伯樂に遭へば必ずや榮達する者として一般からも内部からも推稱されて居るのだ、羨望する徒輩は彼れに兎や角の難癖をつけて居るが併し乍ら問題の人に供されるだけドコかに大きい所があるのだ、宜なり彼れは最近メキ／＼と地歩を進められて都市計畫部の用地買収の前衛に拉しられたは大きくもみり且つ済えた腕を持つて居る爲

☒……彼れは三重縣鈴鹿郡加太村の人、明治十八年生を亨けてから、あの緑木繁り岩石屹立する山間に育ちて不撓不屈の大精神に培はれ長じて關西大學の法科に學びて之れを終へ明治三十九年市に入り當初から臨時用地課に勤續して今日に至つたのであるから其方面の達識者ミして衆望を一身にアツメて居る

### 電 燈 會 社 機 械 部 助 手 ( 其 二 )

彼は香川縣の生れた。其處はお遍路様を待遇する事は非常なもので、誰でも御布施を貰ひ乍ら樂に琴平參りの出来る様になつてゐる。僧空海の人格の光が今に高野山を中心に其宗旨の上に現れて居るのは勿論だが平民的共産的な一面は琴平神社を中心にしてゐるを見ゆる。

家は農家である。父は彼の二十四の時に亡くなつた。母は五つの時に亡くなつてゐる。父は子供の上を思ひ後妻を貰はなかつた。兄弟は五人で彼は末子である。末子が女である場合は感心出來ないものになるこゝが多い。男が末子である時は謀反心の強い面白いものになる事が多い。





主 事

## 寺 戸 永 太 氏

☒……電鐵部總務課主計係長の寺戸君は鳥根縣那賀郡西隅村の産、明治六年七月生れで今分別盛りの男である、生れこそ日本の西北端に位して居るが「深山路の木葉がくれの時鳥いつか都の空に啼くらん」と會つて柄にもない文學趣味を味つた時に一句試みた通り常に彼れは雄飛の志を断たなかつた則ち明治二十六年鳥根縣濱田の中等學校を卒業後荐りに獨學に餘念なく好んで法律研究に没頭した甲斐あつて三十一年四月當時甚だ難關視された裁判所書記試験に登第して青年の爲めに萬丈の氣焔を吐いたのである

☒……朝顔の曉に遭つた如く彼れは之れを動機としてソロ／＼西北端から日本の中心點を指して動き出したのであるが先づ以て三十一年の五月兵庫縣屬官に任ぜられ官僚萬能の好景氣時代を足掛五ヶ年間茲に勤めたものだ、然るに日露の風雲急天直下し來つて國交斷絶され我國は上下一致して強露を敵にするに及び從來民間營業であつた煙草業が政府事業に移り以て、戦費を得る事となつた、而して大藏省が專賣局を設けて其事務を開始するや彼れは拔擢されて專賣局屬に擧げられ十有餘年間孜々として献身した、超えて大正元年十一月大阪市に入り同九年四月主事に進み現職に就いたのである、

☒……以上は大きい聲で言へないが寺戸君の過去記である、彼れは以て生れた廉直な性格で一も二もなく公道を測歩する男、飲んでは綺麗な酒で更に嫌味なく賑かな陽氣な心持になり頭腦が益々澄んで行くのだ、彼れの彼れたる所以は計數的才能に秀で苟も細鱗と雖も誤りない所にある、勿論過去の具に嘗めた經驗が手傳つて居るには相違ないが併し乍ら天稟の特技の伏在する事を看過してはなるまい、従つて彼れの前途も畢竟此の方面に重用さるゝ筈である。

### 電 燈 會 社 機 械 部 助 手 (其三)

彼も謀反心が強い方で工業學校の三年生迄行つて學課は悪くなかつたが、教師に對して持つ反感等もあつたし、酒色の味を覚えてからは世間が馬鹿らしくなり、勇敢な事を好む彼は學校を止め海軍に志願した、吳の海兵團に入營出來たのは明治三十九年、彼の十九歳の時であつた。主として富士に乗つて居た。砲術練習艦として横須賀には三年程居た。多くは伊勢灣で砲術の練習をする。的を艦に牽かせて置いて追ひ掛けたり逃げたりし乍ら之を射つのである。「犬追物」と同じで犬が逃げる、馬が走り、射る者は餘程の熟練が要る。

八年間勤めぬいて満期と共に大阪に來て、大阪電燈に勤めて今日に及んだものである。職工から助手技術員(一級二級三級)に進むのであるが彼は現在助手である彼の友人は大抵技術員になつて居る。一、二年すれば三級の技術員になる筈だ。機械の方の係をして月収は平均百二十圓位になる。





主事

浅野茂氏

☒……電鐵部運輸課庶務係長たる浅野君は會つて徹頭徹尾獨學力行を企てた珍しい青年であつた、今日では可成の年輩で昔日の容姿はないが生理的に變化して行く外部だけの話で其不撓不屈の大精神に至つては多々益々旺盛である、彼れは過去に於て自ら境遇を打開した男だ、則ち故郷大分縣の小學校を卒業するや志學の念止み難く然も順當な投資は斷じて許さぬ境涯にあつた、彼れは顧みて何等當惑した様子もなく環境の凡てに大きくウナヅキ固く決心する所あつた其後一意専心、浅野君は獨學又獨學寸暇を惜んで勉學し幾くもなくして小學校準教員試験に合格した

☒……彼れは第一階梯に於て美事突破したので胸中頗る欣快なものがあつた、併し乍ら自制に富み進取の氣象甚だ旺んなる君は直ちに後計を廻らして幕進したのである、而して小學校正教員の檢定試験に登第し一時田舎廻りの教員生活に没頭したのだ、然るに現代も同じ事で小學校員の大部分に流行する弊はお山の大将を氣取つたり折角の向上心を無下に棄て、終ふ、而して何んの事はない自ら小規模に甘んじ縮瑟するのを肯定して顧みぬ所にあるのだ、浅野君が教鞭を執つた當時の如きも一層此等の傾向が多かつたのだ、

☒……浅野君の性質として退嬰主義は何よりも禁物である、従つて通常教員の弊習に入る事を尤も警戒した、然も此

等の小天地に長く留まるを欲せず兵役終了後始めて來阪し大阪市書記試験に應じて之れに合格し明治四十年則ち電鐵部に就職したのである、其後君は獨特の手腕を揮つて經營大ひに勵み庶務、調度、會計の各課係員となり運輸課九條出張所主任を経て現任となつたのである

☒……君は元來多藝の男で随分器用だ、眼光爛々顔色赤銅の如く一寸怪しげな分子には毛嫌ひされ易いが其男性的な氣畧あり好箇の事務家たる點は等しく羨望されて居るのだ、君は明治十六年一月大分縣速見郡杵築町に生れ兵役に奉じては特に勤七等を授與されたのである

電燈會社機械部助手 (其四)

大電爭議の時は裏切りと云ふ汚名を被つて復職した。復職した人達は皆非常に優遇された、當時の模様を聞くに警戒者達は罷業團が門外に殺到して亂暴を働いた時には遠慮せずに中に引張り込んで、相當な懲戒を加へ福島署に非らざる他の警察署に連れて行つた。夫は罷業團本部と福島署と近い爲め罷業團が殺到して騒ぐかも知れないからである。『總じて大電罷業の時は警察側が餘り會社側に應援した様に見えましたが事實罷業團が全部占領したなら什んな事をしたかも知れません。警察が應援したのは會社を助けたのでなく市民の爲に働いたと見るのが本當でせう。然し籠城中の待遇が少し善過ぎた事は事實であつた。彼も此特別待遇を受けた一人である。彼は實際私共は困難な立場にありますのや技術員は職工達と酒を飲む事はありませんが助手である間は職工達と飲む事もあり、技術員其他とも飲むのですから兩方の言ふ事を聞いて居ます。資本家側に



## 長谷川省三氏

☒……私の故郷は先づ雀のお宿や伏見の稻荷で御座いさばかり變に柔かく持ちかける長谷川君は而してデリクミ外線から核心に話を進めるのだ、議論であれ座談であれ荷も口を開いて語る事には周到にして人真似の出来ぬ鋭さを加へつゝ、巧妙な而して引き付ける様な興味を交へて行くのである、此の點のみを以てすれば君には取り敢へず外交官たるの素質を帯びて居る事明らかであろう、併し乍ら君の調子は偽りミ懸引の多い外交には殆ど應はしくなく、對手方を魅惑誘導するに足る腕前はあつても之れを悪用する事を好まぬからである、彼れは常に正義ミ人道の偽らざる背景を背景ミし依つて以つて得意の特長を發揮するのである環境がヨシンば君の意の如く誘はれ得るミも其處に道理や理由がなければ君は頭からお断りだ、

☒……彼れは要するに責任を強く感じて居る一人で失敬な話であるが砂礫を喰つたりアヘンを懐にしたり又は瓦斯で誘惑されたりする人物に煎じて飲ましてやりたい位ひである、若し世が世ならば加藤殘觸内閣の綱紀肅正宣傳には持つて來いの男だ、聰明だミか博識だミか世間で賞めるが長谷川君の肅嚴さを拾ひ兼ねて居る様では天下の宰相も餘り當にならぬ、それよりも大阪市が彼れを擢用して居る實際が將に數等賢明な所である、兎に角彼れは公吏ミしても個人としても頗るヨク出來て居るのに間違ひはないのだ、長谷川君自身から言はせると人間はガツシリミして居るべきだ私の

如きはフラクミして如何に努力してもナカクミ甘く行かぬミある謂はゞ一生懸命に力を入れて居る、而して足らざるを思ふ心底は發して人格の向上を益々加へつゝある譯けだ

☒……彼れは京都府紀伊郡竹田村の人、明治十八年十月生れ中學を出で、直ちに東京に遊學し東京高等商業學校に入り四十四年七月卒業後第一銀行に行員ミなり大正三年迄奮闘したが固より雄志を抱く君の事で日夜算盤ミ首引する様な所には腰が据えられぬ、次いで大正六年九月から八年二月迄日本兵機製造會社員となり大正八年三月に至り大阪市に入り電鐵部書記を拜命翌九年三月主事に拔擢され現に總務課調度係長の任にあるのである

☒……君は性來鋭氣旺んにして事を處する甚だ果斷然も心緒洵に溫良にして溫情溢れる體の男である其尤も好む所は野外に出て、野球其他の運動を行ふ事だ。

### 電燈會社機械部助手 (其五)

着ても職工側についても悪い事になります。一度罷工團ミ出共にしましたが復職しました」ミ辯解する自分の擔任する機械に故障があれば全市が如何なると云ふ事が明確に頭の中にある。で見れば復職したからミ普通普通労働爭議に於ける裏切者ミは意味が違ふ電車が止まれば時間外でも自分の機械がどうかしはせぬかミ思て誰が何と云つて來ないでも一人で行つて見る氣になる。家は四疊半に三疊の二間である。電氣會社に勤めて居る關係で特に安く電氣を使用する事が出来る爲煮焚から炬燵迄悉く全部電化せられて居る。電熱器は飯、汁、魚の煮焼一切の事をして今日で廿日程になるが未だ七十基しか電氣を喰つて居ない一基三錢二厘で得られるので二圓廿四錢程になる。





主 事

## 高梨敬助氏

君は市電鐵部運輸課の天王寺出張所長である、瘦せても枯れても所長とあるからは洵に責任の重いもの、殊更昨今の如き勞働運動の激しい時節には人知れず骨の折れる事や頭痛の種なきが惹起するのだ、過般も従業員の一部の者は背面に動くプローカーの爲め事柄にも傀儡されて無茶な運動を起した事がある、而もそれが概ね天王寺出張所々属の部下であつた事實があるから強ち素通り出来得ない重用地位であらう。然し彼は沈靜自ら制して専ら理性の判斷を試み自ら周到に用意をして居たので何等の動搖なく事済みにしたのである、勿論上司の威光も手傳つたのであらうが併し乍ら彼れの異常な統御力がなかつたならば纏り兼ねたであらう、君は美事終始の始末をやつてのけた

其怪腕は近頃市主腦部に深くも刻まれて居る機會だにあらば彼は出世の緒口を蓋し握り得るであらう、軒端雀が囁いて居る、それは兎に角彼れは多趣味な人で讀書、園藝、歌、俳句、遠足等なんでも御座れの剛の者である、從つて觀察力の旺んなる而して透徹して居る所も先づ以て他人の追従を許さぬ特點である、

彼れは山形縣米澤市の人、貧乏士族のグループではあつたが何しろ蹴取る手には自己の好む文化生活といふ奴の鍵を握つて見たい慾望があつたので故山を棄て此淀川の濁水に足を洗ひ衣を澱いで居る譯けた、明治七年二月山形縣に生れ米澤中學卒業後進んで小學教員の檢定に應じて合格し一時郷里に歸り山形縣東置賜郡高畑小學の訓導を勤めたが

其間に高等師範の國語漢文専修科に入り之れを卒業後ちに買はれて岐阜縣東濃中學校教諭兼舎監、に擧げられ然る後大阪市淨土宗教授教務主任兵庫縣伊丹中學校教諭兼舎監を経て大正元年大阪市書記教習所主任を拜命大正八年現在の職に就いたのである

### 電燈會社機械部助手 (其六)

炭なれば二十日に四圓は用ふものを經濟である。「價裁もよし是非に一般に用ひる様にしなければなりません。來年度は大電の電燈を是非に買はねばと云ふ市役所の腹らしいので大電は動力で立つより外ありません。それで動力使用の事を盛に宣傳して居ります。」此家に住んでから既に七八年になる。家賃は漸次値上して十圓五十錢である。「此附近の何處よりも安い方でせう。」中等程度の學問をして居る人であり、奥さんも立派な人で屋内は悉く文化的である。子供は十一(男)三つ(女)一つ(女)の順序で。一つの女の兒の肥えた可愛らしい事は實に何にも譬へる事が出来ない。

子女の教育に就ては男は工業學校から高等工業に遣り度いと思つて居る。女は未だ考へて居ない彼の従弟が中學校を卒業して高等學校に入る準備をして居たが過度の勉強をしたので未だ試験前に病氣に罹つて死んでしまつた。「英語と算術」とは特に出來たのであつたが惜しい事でした之に鑑み中學、高等學校、大學と行くのも考へるものです」と語つた。二十五歳で結婚して以來特別の出來事も無くて今日に及んで居る。





主 事

## 松 井 謹 一 氏

⊗……市電運輸課運轉課長の松井君は岡山縣都窪郡の人、明治十年三月生れ故山の青巒緑水に育まれて大ひに岡山魂を汲入し獨立歩風に努力を止まなかつた、而して早くより大阪市に出て、關西大學に學び法律科を卒業し一度は辯護士試験に應じて雄志を延べんしたが月に叢雲花に風の譬喻に洩れず不幸其素志を貫徹し能はなかつたが固より實力に滿ちた君は富貴榮達何ぞや之れ皆我一心に於て評價するのみと達觀し笑つて世俗の途に第一歩を進めたのである、則ち明治三十一年南海鐵道株式會社に入社し運輸事務に従事し極力社會の實學を研究したので

⊗……元來が溫順の性質を帯びた彼は内心崩氣滿々ハチ切れる様な思ひはあつたが待て暫しヂツミ稼へて除ろに我が行く航路を謬らない、而して迫害壓迫個性の襪奪に等しい上司の暴威にも一切無抵抗主義で凡てこれ我れを練磨すべき資料と見つゝ折角他山の石としたものだ、で此調子を續けて南海電鐵にある十ヶ年間些の故障も遺漏もなく殆んご瑕瑾なき勤務を成し遂げたのである、明治四十二年思ふ所あつて辭去し暮りに先輩同僚に惜まれたが斷乎として彼れは去つた

⊗……其後一ヶ年を経た四十三年十二月彼れは大阪市電鐵部設置と同時に招ぜられて市電運輸課に勤務し兼ねて梅田出張所主任に擧げられ更に運轉主任の要位に擢拔され重ねて運轉係長になつた儘現在に及んだものである、彼れの尤も得意とし會心の笑を漏すのは其趣味豊富なる音樂や謠曲でこれは謙讓家の君自信さへ乗り出して鼻を天狗にする所だ

主 事

## 高 田 英 夫 氏

⊗……市電運輸課築港出張所長の高田君は常に精神修養に力癩を入れて居る特志家である、一體現業員は其職業上頗る俗化し易いもので言語動作は勿論、心理の一部も不知不知の裡にいつか悪くスレて行くのである、従つて何んでもない様な話であるが偕て其實狀を察し之れを矯正する事は甚だ六ヶ敷い事柄なのだ、既に高田君が現下市電從業員中尤も刺戟多く尤も硬派と目されて居る築港出張所長となつて日々荒くれ男を相手に總取締を行つて居るので勢ひ心ならずも親分肌となつて行かねばならぬ筈である、然るに彼れや切々として三省常に止まず其弊を察知して居るのさへ奇特の人である、況んや自ら其弊を脱脚せんが爲め精神修養を試みるに至つては將に野に遺賢あるを知らぬかと言ひたい、

⊗……彼れは斯くて公私の區別を嚴格にし己れを責むる急にして人を責むる甚だ寛大なのである、然らば恰も退歩的型ある様に見受けられるだろうがどうしてナカ／＼放豪で大ザツパな膽が餘る程ある、目先きの利く彼れは充分に事柄を慮り其歸趨を稽へ一度決斷すればグ／＼押しで行き更に寸分の逡巡なぞをせない只發進して己れの所信に忠實ならんとするのだ、それが亦適法なものであるから……ウム左様か位ひの挨拶で濟されぬ高價な所だ、見給へ彼れが所謂西部交通労働團體員の屬する築港出張所長として今日迄未だ會て其任を謬らす上下からなくてはならぬ男と信ぜられたのも要は如才なく切り捨てるに云ふよりも寧ろ其膽と其實力が購つた當然の代償である



⊗……高田君はオイドンがの發祥地の産明治十三年五月熊本市に生れ縣立尋常濟々費に學び明治三十年日本赤十字社熊本支社の書記を勤め翌三十一年九州鐵道株式會社電信技術員となり後漸次驛長助役等に進み同社の鐵道院に買收さるゝや同時に鐵道院の書記に擧げられ驛長の職に就いた、前後四ヶ年勤務後四十四年大阪市に入り市電運輸課詰となり大正十年主事に進み現職にあるのである

#### 電燈會社機械部助手 (其七)

新聞は朝日新聞を読んで居る。危険な仕事に携つて居る爲めか應答の具合が響きの音に應ずる様に明快で呆りして居ると徹底的に遣り込められはせぬかと思ふ氣の措ける人であるけれ共、事實は優しい人で積極的に人の鼻柱を折らうと云ふ様な人でない鼻下に美髯を置き風貌實に堂々たるものがある。現職には充分の自信もあり技術員として活動したいと願つてゐる碁を打つ事が好きな丈けで子供の他何等の趣味もない。大阪電燈には現在では横斷的の勞働組合に加入して居る者は表面上無い事になつてゐる。職工達は助手、技術員に至る迄全部團結して居り萬事會社側と懇談して事件を解決して行くと云ふ方針である。(一、一三)



技師

### 黒須七郎氏

⊗……大阪市電鐵部工務課長の黒須君は名詮自稱と云ふ事を美ん事破つてサツパリと色白な景氣のよい男であるから面白い君は長野縣下伊那郡飯田町の産、明治三十八年七月東京帝國大學工科大学土木科を卒業したとあるから其學閥に於て赤門の藝である事勿論だが順序から云つても部長佐竹君とは相前後の同僚であるべき筈、然るに一方は部長として統率者たり一方は其傘下に於ける一課長に過ぎないのは一寸不可思議である、併し佐竹君は法科黒須君は工科だ、従つて行政の骨子を業とするものと技術を本業とするものは自ら異なる途がある、黒須技師が一課長に萬年腰を下すのも所詮は同じ價値だ、

⊗……然も世の中は肩書か椅子の美醜に應じて人間を評價する者があれば間違つて居る標準は如何にしても天職に甘んじ力瘤をウンス入れたか否かに置かねばならぬ、猫でも杓子でも肩書や椅子を占めれば偉い事と信ずるのは餘りに早計だ、黒須君にした所が椅子はさうでも其力量技術は著しく達成したものである此處を買つて貰はねば凡そ技術者は頭から割りが悪いと言はざるを得ない、若しそれでも工科よりも法學科が優つて居る理窟が立つものならば詮方ない、然し左様な事は通用されて居ないから抑も標準が狂つて居るのだ

⊗……大學を出てから黒須君は東京市役所の一技手となり約七ヶ月にして香川縣に轉じ技師に擧げられた、而して前



後三ヶ年間荐りに其腕の冴へを見せたのであるが明治四十一年七月山形縣技師同四十三年京都市技師となり大正三年八月大阪市技師に轉じたのである君の轉々は恰も思ひのまゝに飛び歩いた様に見えるがこれも先輩への義理立てをしたからである。

⊗……現任工務課長では年一年と腕の切れ味を示して居るがそれよりもモット自慢なものは謠曲である。曲は凡て其最愛の夫人と合唱する云ふお安くないものだ、君は性質温厚篤實然も才氣あり勤勉にして技術を以て生を終始する考への人である、未だ明治十二年生れの壯者であつて大正十一年歐米視察を命ぜられ將來の大都市計畫に妙腕を俟たれるのであるから眞價は今後益々増大するであらう。

#### 電燈會社機械部助手 (其一)

今年になつてからの初雪である。年内には申譯的に二度許り降つたが今日の雪は夥しい。屋根には三寸地上にも一面に積つてゐる彼の家は西野田のとある路次にある。道が非常に悪いが一圓二十錢のゴム靴で歩く者にはさまで痛痒が無い。自分を電車の上から早く降りろ云つた魚屋の事を思ふ。要するに魚屋は鯛の尾を切り棄てる時の勢ひで萬事を解決しやうとしたのだ。夫れに雪で寒いから一刻も早く電車を降りたかつたのであらう。何にせよ魚屋は元氣が餘りよすぎる傾向がある。

今は午後の二時である。三時出勤の彼は火鉢に寄り新聞を見て居る。其の新聞には世界的庭球選手某の結婚に關する記事や故大隈侯の逸話等が見ゆる、病中の山形公は大隈の死については「う



電鐵部技師

### 中山還造氏

⊗……文化が果して人情の點まで淨化するや否やは頗る考へ物である、今日餘りに科學的進歩を稱揚する爲めに世は翕然として單調に傾き情よりは理を尊び理はまた無情を生み更に冷淡となり遂ひに利己主義一點張りになつて行く、都會が我利々々盲者の寄り集りと言はれるのも要するに文化が生んだ罪である、併し乍ら實際に於て此半面を伴ふ文化は人間の理想境となつて居る而して亦之れが必要なのだから詮方ない中山君は別して其冷淡を非議する福井縣遠敷郡雲濱村を故郷とする人である、従つて今でこそ口を拭つて平氣の平左で都會人に調和して行くが洗つて見れば其薄情極まる都人を憎惡する一人であらう、元來福井縣は淨土眞宗や禪宗其他雜多な宗教が今尙旺んな土地である、極端に言へば郷土人士の未明を語るるのであるがそれにて人情美のタップリした所を見通す事が出来まい。

⊗……假令へば彼地の老若男女は常住座臥念佛をする而して風土的色彩ではあるが佛壇の美裝を以て財産の程度を付度する某として居る、今でも宗教家は凡そ土地の中心勢力になり人々の胸には信仰の炎が燃えて居る、中山君が如何に長く大阪生活をしたと雖も彼れの心底には必ずや其遺訓はある筈である、左ればこそ彼れはドコカにドッシリとした信念を持つて剛直無比な性格を備へ事に當つて精勵努力専ら盡して所謂人事を傾けて天命を俟つ體の行動を採るのだ更に彼れには内心深く秘めたる斷定的威力がある之れは通常果斷の形式で彼れの男を磨くのだ、則ち彼れは此の特色を以て



市電鐵部の一角となり重きを爲して居る。

⊗……彼れは明治十六年五月生れ、明治三十七年九月關西商工學校電工科を卒業し同年十二月直ちに大阪府技手となり三十九年迄銳意其職責を盡したのであるが同年六月に至り大阪市役所に入り電氣鐵道部技手に任じ同四十四年京都市技手に轉じ工務課勤務となり居た、偶々大正三年招せられて再び大阪市電に入るや技術課に勤めた大正九年待てば海路も日和ありて遂に技師に擡擢され今日に至つたのである、彼れは其職に多少轉々した氣味はあつても實は性格から來た情に引き付けられ先輩の行動を共にしたに過ぎない従つて落つて見れば流石は宗教で鍛へ上げられたる人の常として追隨を許さぬ熱心さがあるのだ

### 電燈會社機械部助手 (其二)

む、亡くなつたか、借しい事をしたな』と云つて夫れ以上は何も云はないと云ふ。山縣公も亦命且夕に迫つて居る。

彼は大分縣直入郡の生れである。阿蘇山から流れる入野川に沿つた人口三千程の町である。舊中川藩であるが十年の役に大抵兵火にかゝつてしまつた。

西郷方の一隊が宮崎縣に入つて到る處で殺戮を敢てした中川藩は恐ろしいので餘儀なく降参した彼の父も一時西郷の軍勢に隨つて歩いたが後で大分縣廳に引き出されたが己むを得ず隨て歩いたが、積極的に亂暴したのでないから別段刑罰は受むなかつた。藩主の居城があつて舊藩内では一番大きな町であつたが附近の農村を相手にして立つて居るのみで年々衰微して行く許りである。



技師

## 小川 信次氏

⊗……小川君は市電工務課保線係長として夙に其手腕を認められて居る技術者である、而してデモクラチックな現代人には通用せぬであろうが待ち給へ、國家の授與した從六位の位記を持つて居るのだから過去の勳功を表彰されて居る人として相當敬意を拂はねばならぬ男である、然し當の小川君は洵に洒脫圓滑少しも肩で風切る所がない、殊に昔育て上げられた官僚畑の臭氣なきは何處へやら今はグット碎けてコレが官廳出の遺物であろうかと驚嘆させる迄解脱したのである、それのみでない、彼れには持つて生れた美術趣味があり書畫、骨董、園藝なども特に語るべき鑑識を有して居るのだ従つて殺風景の技術者生活にあつても彼のみは繁忙の裡に極樂あり苦痛の間に天樂を聞き自ら慰め樂む事が多いのだ

⊗内に此餘裕あり精神何んぞ輕快ならざらんやである、彼れには人の味ひ得ない滾々たる苦離の泉を持つて居るのだ、左ればこそ人は悉く苦楚を戀へる時でも小川君の顔には涼しい風喜ばしい影が宿つて居るのである、彼れは而して其現任保線係長の重要任務を遺憾なく勤め部長佐竹の末枝となりて徐ろに高等政策に屬する事務の一端を開拓して行くのだ實を言へば小川君には忘るべからざる過去がある、それは曾つて北海道廳に居た頃當時は新開地たる故を以て官尊民卑の殊更に激しい状態であつた、彼れは此處にあつて、然も高等官五等で有數な技師として令名が聞けて居た従つて行く



所必らず大持てに持てるのであつた、小川君も大ひに若い時だ、今でこそ謹嚴の扉を下して鎮座するが偶々雄志大ひに動いた事がある、發展したかせぬかは預つて置くが盛りの花を今こばかり咲き誇つた時代もあつた、恐らく君も一つや二つは忘れかねる回顧がある筈だ

☒……彼れは東京市本所生れ、押しも押されぬ江戸ッ子だ、明治十四年八月生れ、第一高等學校を経て明治四十三年七月東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業大正二年十二月北海道廳技師となつたのである、主として君は市電軌道の改良工事を掌つて居る

#### 電燈會社機械部助手 (其三)

彼の家は城裏の士族屋敷にある。彼の十四、五の時には四、五十軒の士族の家があつたのであるが今では皆無くなつて彼の家共に五軒程並んで居るに過ぎない。其等の家は皆農を營んで居る。五人兄妹の末子である。大分中學校の二年生迄行つたが中途退學し、海軍を志望した彼は志願して佐世保の海兵團に入團した。日露戰爭の時上村艦隊に屬し蔚山沖でリユーリックを撃沈したなご大戦闘に参加した當時出雲に乗つて居たが四十幾發かの砲彈を受け大部死傷者があつた。撃手はそれ以上に損害を被つてゐた。リユーリックは舵機に故障を生じ海上に惑つて居る處を驅逐艦で襲撃して撃沈した。

總じて軍艦は砲彈丈で沈まない、彼は機關部に働いて居たが戰爭も數時間に亘るミダレて來て遊び氣分になり彼も終りの頃は「己も少し見て來る」云つて時々甲板に出たのであつた。



技師

### 竹内政之丞氏

☒……君も亦中山君と共に宗教の國、福井縣は足羽郡社村の産である、中山の剛直果斷なるに比して稍々謙讓熟慮の習はあるが併し乍ら必らずしも竹内を以て彼れに上下ありとは言へない寧ろ伯仲にありとも謂ふべきであらう君は生れて既に周囲の信仰を注入され堅く宗教に歸心し無我性を限りなく翼助したのである、従つて人の評世間の思惑等には一切無關心で乗り切るのだ、只夫れに眞聲である初一念であるならばそれは何處何人の前でもグン／＼押し通すのだ、而して最後の總決算に於て事實が是であれ非であれ悉く其責に任せんとするのである、滔々たる現代にありて失はれつゝあるものは其責任觀念だ、然るに彼れは苟も我行く所常に明確なる其觀念を抱いて行くのである、夫れ瘦せても枯れても男一匹や以て自己の行動に此信念を熱さがなければならぬ竹内君の精神は此處に充分力を注がれて居るのだ

☒……一體技術者の長短は其周圍狹見な所に發見されるもので腹を据つて混濁併せて呑むの度量が少ないのであるこれは技術なるものが多くは他の容喙を必要とせず個性の描寫らしい所にあるからだが非常な天才的の男でなければ却つて固陋に陥入るのである竹内君は則ち此處をシツカリ呑み込んだものだ、而して彼れ性來の素質が根源となり且つや多年處世した經驗から會得したる豊饒なる見識から割り出して巧みに個性の助成を試み以て技術者流の融通の利かぬ欠點を補つて居る、一方に於ては無理矢理自己の信念を押し通し亦一方には開扉一番刺さず新空氣を呼吸しつゝ磨き



をかけて居る、抑も妙な両端を持つて居るもの、如く考へられるではないか

⊗……併し乍ら此兩端は要するに一の延長線上にあつて相通するものだ、則ち先づ以て個性に則り次ぎに之れを精練する爲めに廣く世間の實際を參酌し他の長所を攝取して然る後斷々乎として自己の信する所に募進するのである、此の位ひの事は何んの苦もなく受け取られるが格而天狗揃ひの技術者には随分六ヶ敷行路である、竹内君の特長は畢竟此處にある宜べなり、彼れは大阪市電延長百哩に亘るレールに一本として其手に觸れざるものなく俗に軌道醫として敬慕する、洵に故あるのである

⊗……彼れは明治六年五月生れ、二十九年福井中學卒業後第四高等學校に入り三十一年家の都合上退學してから三十三年より三十七年迄福井縣土木技手奉職三十七年より三十九年迄東京市鐵道會社技師となり三十九年十月大阪市に入り市電技手として精勵大正九年技師に任じ市電工務課兼運輸課に勤務して居るのだ

#### 電燈會社機械部助手 (其四)

砲彈は機關部で聞いて居る此方から發射したのか敵彈が命中したのか分らなかつた。十一年間勤めて大正三年に退職し二年程故郷で家事を手傳ひ大阪に出て安治川の發電所に勤めて今日に及んでゐる。今年で五年目になるのみであるが助手であり月収は百五十六圓平均になる。

四疊半に二疊の長屋で前の路次は狭く日當りの悪い處である。家賃は九圓五十錢、敷金は入れて無い「濕氣は激しいが健康に害のある程度のものでは無い様です」家族は彼等夫婦に二人の女兒。

三つの下の兒が黙つて自分の顔を見て居たが大きな聲を出して泣き出した。やがてまた機嫌

#### 市電技師

### 關本賢一氏

⊗……新進氣鋭の若者關本君は市電に取つてはなくてはならぬ優良技術者の一人である、若いと云つた所でそれ年輩が未だ二十代だから若いと客觀した迄の話で一步進んで形而上はチト大袈裟だが内面觀を試みる三年が聞いてアキれる様な圓熟さを持ち合せて居る、彼れには一種奥底の深い思索力があり斷定能力が御座る、而して巧みに之れを活用するの先輩而下けて居る連中を思はず呀ツと言はせるだけの素養と實力とが介在するのだ、更に主觀的に解剖するに意氣衝天、苟も何等の難關錯雜と雖も鎧袖一觸以つて打ち碎かすんばの意氣込みである従つて隱忍、奇智妙策凡そ連續的美點は芋蔓の如く手繰れば手繰る程何んほうでもあるのである

⊗……事實彼れは甘い辛いの世間通で年に似合はぬ通人である、其若き血潮が流石に沫立つ程激しく循環する矢竹心を暫し待つてデット休へて自制を試みたり燃ゆるが如き意思を嬌め乍ら社會に順應して行く所などは見てこそ容易であるが刻下の社會に眞似難き美德である、加之老年重ねても恐らく自我の強い人々には到底關本君の一端さへ習ひ行ふ事が出来まい・關本君は然るに易々として難きを實行して居るのだ

⊗……殊に彼れ關本君は京都大學を出た工學士である古い言ひ草であろうが何せよ肩書を持つ若者だ、世間多く見渡す所、知りもせぬ人にまで我輩はさばかり肩書を振り廻したがる者が多い、それが若者と來た日には世間に誇り戀を捉



へんこする目的でコンナ事をやりたがる者が多い、然も關本工學士はホー左様かと言つた調子で斯くの如き拙い小供じみた考へなき生憎毫毛も持ち合せて居ないこれが今日彼れが次第に敬意の的に推されて行く原因で同時に將來を有望に開拓する原動力である。彼れは奈良縣奈良市の産、明治二十八年九月生れ、第三高等學校を経て大正八年京大工學科を卒業後直ちに大阪市技手となり電鐵部技術課詰まり同十年技師に昇進したのである。

#### 電燈會社機械部助手 (其五)

をなほして笑つて居る。妻君は東京辯で氣持ちのよい人。子供達は美しい。「お父さんもお母さんもこう美しい娘さんを持たれては餘程御注意ならなければなりませんね」「故郷から送つて来た柿ですがおとり下さい」種は小さく頗る甘い干柿である。

二疊の間の一隅に酒樽を重ねて其側に電熱器が置いてあり非常に便利である。「私は常にどうして愉快に此世の中を送らうかと云ふ事を考へて居ます。酒は少々飲みます。電熱器の側に酒樽を積んで置くなら愉快に暮せる筈である。誰も内職はして居ない。未だ何處迄勉強させるかは考へて居ませんが女はあきません、嫁にやらねばなりませんからね」子供が好きでさうしてゐるかと思つて會社からも走つて歸つて来る様な次第で、閑暇があつたからと云つて何處に遊びにゆくか何を見物する云ふ様な事は無い。

大正三年に結婚してから今日迄皆丈夫で何の災厄も無かつた。

正確な智識を以つて居て、夫を不正確に徐々々發表する人で尋ねれば何でも知つて居る癖に何

#### 技師

### 青木忠次郎氏

⊗……ウラ若き工學士ミ長田幹彦流の筆法で青木君を紹介したら恐らく縁談喜談怪談立ちどころに降るであろうが實の所左まで艶ッぽい年輩は兩三年前に過ぎ終つた、而して今では比較的話だから飛行機娘達がヒカンの種であらう青木君に對しては洵に道具に使つて濟まぬ話だが君にも小説種を播いた時代があつたさして見通して貰いたと言つた所で君はウフンとばかり微笑する迄である、下らぬ事に向つ腹を立て青筋を太くする様な狹量者流ミは全然型を異にして居る、君の度量は年に似合はず大きいものである。

⊗……此度量は既に君が幼少の折りから持つて生れたのだ未だトンボ釣や蟬刺に餘念なかつた頃から彼れは巖然として一頭地を抜いて居た、意地張り屋の取捨嫌いな小供であるのに嘲られ悪口をつかれたりしても彼れはニヤ／＼一笑に附し寧ろ言ふ者を可憐らしく取り扱つたのである、之れは抑も大ひに不可思議に考へられて居たのであつた、一部の者には力が足りぬからミ稱へられたが君は腕方に於て二三人に突張るだけの力があつたのだ、要する所彼れには沈勇の因あり俗に謂ふ腹の大きい所があつたのである、宜なりそれが今千波萬波甚だヤ、コシイ社會を容易に渡り行く所彼れの特能を印刻して居る原因を爲したのである。

⊗……況んや彼れは以て生れた秀麗な容姿、温順な素質や篤學の性格は其學習に係る技術即ち電氣學に關する技倆ミ



相俟つて一段と好々の男に買はれて居るのだ、而して市電に於ても將來有爲の人物として大ひに囑望されて居る、

⊗……君は生粹の大坂人而も船場ッ兒である、明治二十四年八月生れ大阪の中學より進んで京都三高第二部に入り京都帝大電工科に學び大正五年卒業後大阪市技師を拜命以て今日に及んだのである彼れは主として旅行や魚釣を唯一の樂みとし都會育ちに似合はぬ情趣のある男だ、

#### 電燈會社機械部助手 (其六)

も知らないやうな顔をして居る「勞働運動も、う少し合理的にやらなければなりません……」

ミ云つて暫くして「假に賃銀の値上を要求するにしても自分等の生計費は月に男いくら女いくら何歳の子供はいくらミ計算し、他の工場の賃銀も比較し、會社の利益ミ云ふものをも計算して總ての方面から算出し立案して之を會社の方に要求して提出するのであれば成功不成功を問はず立派なものです、それを今度は三割要求にしやうか三割では少し多いだらうか棒程願つて針程叶ふミ云ふではないかミ云つた調子で爭議を起すので少しも合理的に争ふ事をしませんから私は今日の爭議には不賛成ですよ。もつミ合理的に争ふなら……」問ひ詰められて仕方が無くなつてから僅に自分の意見を述べ、出来る限り固い話を避け他は子供の可愛い話や何んかをし

てニコ／＼して居る。現在の職は長年やつて居た事であり一生涯やる考へである。宗旨は淨土宗であるが寺に參る様な事はしない。電氣會社は機械工場ではなく運轉工場であるから仕事は至つて樂である。殊に彼は助手でもあり只監督して居ればよい様なものである。

#### 技師

### 岡崎多三郎氏

⊗……帝大工科出の連中が肩で風を切つて居る當今は未だに學閥の餘弊があるものである、大阪市電には斷じて之れがないとは誰あつて保障するものあるまい、抑も部長佐竹君を筆頭に技師長ミ清水君、工務課長の黒須君其他古參新參併せて可成根強い閥を成して居る、池上市長か官僚畑に育つたので稍々此學閥の遺跡即ち昔の威力を信じ過ぎ之れを選抜適用する傾きもあるから左なきだに延びんミする閥弊はゲン／＼ミ張り廻らされる譯けだ、であるから其弊なしとは到底言はれぬのである、其間に起ちて兎に角意氣を以て突つ張つて行く私學出身者は随分骨の折れる話とであらう餘計な事であるが肩身が狭い思ひで遠慮會釋を試みて行かねばならぬのである

⊗……岡崎技師も亦私學出の一人である、而して實驗から一步一步ミ叩き上げた男で畢竟努力の士なのである、彼れは然し乍ら敢て私學なるが故に心敗けして遠慮したり控目主義を執る様な意氣地なしではないのだ、何しろ技術屋は理論一點張りぢや行かぬものでさあ……とばかり放膽に語る所を見ても彼れには固き自信力がある、宜なり彼れが笑談する通り技術には年が教へる實際の遍歴が必要であり、無くてならぬ要素なのである、譬へば鶏卵の白味の様にそれが肝心なのだ、若しこれなくんば何等技能の實果が行はれない、舟あつて水なき如く舟あり水あつて舵ないものミ同然であらう、要する所技術は肩書で賣るのぢやない、力で賣るものだ、



☒……彼れは甚だ勤勉家で忙繁愈々度を増す毎に然も天稟の藝術味は發して、謠曲ミなり俳句ミなり尙且つ旅行ミなつて半面の鬱を逸散せしむるに足るのである、彼れは備前岡山の人、明治十四年十月御津郡御野村に生れ明治三十六年東京工手學校機械科を卒業して後三十八年迄東京市街鐵道株式會社技手となり三十九年以降四十二年迄阪神電氣鐵道株式會社技手勤務、四十二年春より大正三年十月迄鐵道院技手拜命大正三年十月始めて大阪市に入り同十年技師に累進今日に至り車輛課勤務ミなつて居るのだ

### 電燈會社電氣部助手 (其一)

玉川町三丁目派出所の逡巡は記憶力の正確な人と見えて彼の止宿して居る遠近の家を尋ねたら其家が數町離れた分りにくい處にあるに拘はらず地圖も見ずに正確に教へて呉れた其處は此邊にありがちな赤煉瓦の行き止り道で同じ様な長屋が幾つもあつて随分混み入つた處であつた。暗い梯子段から『おはいりなさい。何日お見ねになるかと思つて居ました。さあさ。彼は二階借りして居る。梯子段が丈夫でないので頗る危険である。二階八疊の間に花筵を敷いて箆筒器臺其他の諸道具が整然と並られて居る屋根に物干があつて其物干臺で簡單な煮焚が出来る。彼は東京の生れ湯島天神下に彼の家があつた。父は淺野セメントに勤めて居た。後一年で餘程よい處になれると云ふ時に恰度彼の十歳の時であつたが心臟麻痺で一夜の中に世を去つた。一家は母と二人の姉ミ彼ミ妹の五人であつた。遺産が可なりあるので差し當り困る事は無かつたが遊んで食つては泰山も猶足らないと云ふが、次第に家計が困難になつて來たので何か商賣を始め様ミ云ふ事になつた。



技師  
五味勝彦氏

☒……市電鐵部電務課勤務の五味君は其ニックネームを電氣醫と呼はれて居る、一寸斷つて置くが近頃流行の電氣按摩やマッサージではない、同じ電氣醫ミ云つても彼等は電氣を利用して何百文を營利するのだ、ツマリ昔は……按摩かみしも六百文ミ出かけて揉療治をしたのが揉む代りに電氣を用ゐるに過ぎない、五味君のは憚り乍ら電氣を治療する醫者の謂れである、彼れは日夜發電所に立て籠り轟々耳を聳せんばかりの中にあつて受發の電氣を診察するのだ、若し一朝彼れが無責任にも日夜の勤めをサボつたならば直ちに電氣は故障を生じ市内電車數百臺は立ちどころに立往生をするのである

☒……併し乍ら彼れには自己の責務の重大さを充分に辨へて居り而して強度に責任觀念の發達した特長がある搦て、加へて彼れは性洵に温良從順然も一種天爵に萬苦を慰める高邁な風がある、従つて、人間苦の如何なる事象が現出するも極めて平然自若更に動するの色が無いのだ、加ふるに其分に安んずる氣風は彼れをして公吏將た亦官人としての好典型たらしめて居る、それのみでない、常に官公吏の範ミなるばかりでなく一般人の其所に安んずる先驅を爲して居るのである、故に其將來も頗る上司に矚目されて居る

☒……彼れは攝州尼ヶ崎市の人、明治十二年五月生れ三十年宮崎縣立尋常小學校三年を終へてより偶々運命の翻弄す



るに遭ひ彼れは奮然身を挺して三十二年より三十四年四月迄東京に出て、電燈工事に従事し傍ら東京工手學校に通學し目出度其電工科を卒業したのである、而して其後三十七年迄四ヶ年間九州鐵道株式會社汽車課に勤務し更に四十年迄三ヶ年間阪神電氣鐵道株式會社に奉職、轉じて四十五年迄八幡製鐵所工務部電氣課に務め四十五年二月大阪市に入り現に電氣技師となつて居るのである、過去を顧みれば約三十年間専ら電氣事務に従事し既に豊富な經驗を握つたのである、従つてイヤに肩書なきを握り、笠に着る今ときの工學士連なんか到底追ひつけぬ實力があるのだ

#### 電燈會社電氣部助手 (其二)

母は一生懸命であつたが二人の姉が恥づかしいと云つて手傳ふましないので商賣は止めになつた。二人の姉は年頃になつて嫁いでしまひ、彼の高輪中學の二年生になつた時。遺産も大抵使ひ果されて居た。彼は中學を卒業する考もないので學校も休み勝ちで居たが、或日夕陽を追ふ者の様な心持ちで母に其旨も語つて大阪へ來た。大阪で職を求め様とした。大阪には知人が大阪電燈で職工をして居たので其人に就職口を頼んだが當時大電でも人を求めて居つたので入社して其の儘今日に及ぶ。大阪電燈で働く傍ら關西商工學校に通つて工科を卒業した。現在は助手として二圓八十一錢の日給であり月収は百圓内外もある。十年も勤続するのは大阪電燈でも稀で、順調に行つて居れば技師員になつて居なければならぬ筈であるが、自重を缺いで平職工達と一緒に騒ぐので助手の中でもよくない方で、『私も、う少し自重したいと思ひますけれども此通りで』と云つて居る。氣取る氣になつてもそれが出來ないで困つて居る様だ。江戸ッ子には彼の様な氣質の人が多い。

#### 技師

### 柱川輝長氏

⊗……電鐵部に在る少壯の工學士、君は東京の出身、純粹の江戸ッ子にして、大正四年四月、市より其の卓越せる技倆を傑出せる才腕を認識されて電鐵部勤務に採用され、自らは驍々たる望みを抱き、又他の先輩よりは常に前途有爲の青年工學士なりとして現に囑望者の一人と成つて居る、一たび其の業務に着手するや其の事に當つて熱心なる而も頭腦明晰にして注意心に細々の綿密を圖り熱誠着實なる事現今稀に見るの俊才として賞するも亦適當では無からうか

⊗……君は大正七年京大工科土木工學科を出づるや直ちに新進氣鋭として社會に打つて出で、始め三井物産株式會社造船部に入り蚤夜其の擔當事業に堅實の努力を傾注し盡瘁する所有りしが、時偶々歐洲戰亂真最中の事にて諸物昂騰し就中鐵材の暴騰最も其の甚だしきに達せる折柄なる關係上、主として鐵筋混凝土浮船渠並に船舶の研究に携はり全力を傾倒して業績の發展を企劃し大いに努むる所有りしが、時至らず大戰終熄し君が心身を忘却して爲せる幾多の設計劃も將に實施されんとして中絶さるゝの止む無きに立つたが其際同社が造船工場を岡山縣宇野港に設立せんとするの意圖有り君を其の建設技師として該工事に従事せしめ大正十年四月同工場の竣工と共に同社を退き市電鐵部に入り今日に至れるが君は主として設計計畫に多く其の技倆を有し徹に入り細を穿ちて考究し如何に難事と雖も徹底的遺憾なからしむるを以て君の手腕の大なりと云ふ可きで有る、現在は新發電所の設計を了し保線課に在つて多く軌道改良に没頭して居る



☒……半面虫も殺さぬ少壯菩薩たる君は見かけによらぬ凄腕を有つて居る、但し斷つて置くが酔興の戯れなどは皮肉つた謂けでない専ら君の多趣味多藝なるを指すのである、先づ筋骨を勞して自我の域に入る夕ぐれは敵あらば圍碁を圍んで白黒を闘はす、偶々閑を得て口のきかならば忽ち寫眞機を擔いでピントを合せに奔走する、更に昔鳴した漕艇の選手だけあつて短艇競争に來たら無暗に愛好するのだ。

### 電燈會社電氣部助手 (其三)

二階の八疊を九圓で借りて居る。東京の人丈けに家の中が明く諸道具が皆粹なもの許りである三つになる伴一君が眼を覺ましていたづらを始める。未だ何も云ふ事は出来ないが他人の言ふ事はよく聞き分ける。聞き分けるに云ふよりも人の動作を熱心に見て其心持を察するのである。大小便等はまだ云へない。妻君は大阪の人である十八九に見える人で机の上には種々なる婦人雑誌が載せてあり其中に婦女界がある。

閑暇の利用方法としては主に運動をする高輪中學時代に野球の選手をして居た關係から大電チームに於ても遊撃手をして居る。現在のチームは餘り強くないが、一時は關西の實業團體チームの中では一二を争つて居た其外彼は庭球や射的を好む、庭球は後衛としてコートに立つ去年獵銃の鑑札を受け様と思つたが金が掛るので見合せた。其外寫眞を研究して居るが未だ本物にはならない二十六歳の春結婚して前記の男の兄一人である。彼も彼女も健康其物の様で一度も病氣をした事がない。

### 技 師

## 吉川留喜氏

☒……市電新進組の一人に憚り乍ら吉川君のある事を忘却しては當人が苦情を持ち込むものと思はねばならぬ、君は性磊落にして霸氣に富み然も用意願る周到の男だ自ら公開してオレドンは殆ど無趣味の一語に盡きる、強いて言へば一寸灰殻交りだが讀書に登山か……登山は高い程好きだ、酒も愚談はそれでも多少は解するつもりだ、然し娛樂的趣味は全然駄目だミやつてのける而して印で捺した様に聲明通り彼れは其日常生活をやつて居るのだ、ツマリ裏も表もあつたものでない人間須く裏表あつてはならぬ主義の快男兒だ

☒……彼れは熊本縣菊池郡津田村の産、明治二十二年九月生れ第五高等學校を経て京都帝國大學に入り大正五年工科大学土木學科を卒業したのである、故山が既に朝夕ミなく日夜ミなく火炎を吐く阿蘇の火山であり飲んだ水が玖磨の流れた尺に近い大きな鮎も其幼時には屢々食つたもの、加之流に枕し石に漱く滑稽事も茶目振りも一切合切發揮して來たのであるから比較的自由に自然的に成長した譯けで重箱詰の育ち方をしたのではないから精神にも何處ミなく寛恕ミして餘裕を見るのである

☒……學窓を巣立つてから大正六年より八年迄南海鐵道會社に入り技士として勤務し複線工事及保線の事務に従事した、而して大正八年五月始めて大阪市電部入りをしたので日尚淺い方であるが然も其調和的にして放逸無邪氣加へて卒



直な性格は周囲の解したり親しむ度望なり頗る受けがよいのみならず其秩序的に修得した技術は益々異彩を放つので今では押しも押されぬ信用を部の内外に取り得たのだ、現に市電でも七面倒臭い建設工事に従事し益々技の巧妙さを如實に示して居るのだ、君は將來尤も囑目される一人であろう

#### 電燈會社電氣部助手 (其四)

江戸ツ子であり、學生々活をした事のある人なので極めて快活で『私は此頃は本を讀んで居ませんので辻褃のあつた事を申しあける事は出来ません。尙他の連中をお調べになつたら物の分つた者も居りませうから』と云ふ。無宗教である。何も突き詰めて考へた事は無い。將來も技術員として貫く考である。(一、一六)

#### 電燈會社電氣部職工 (其二)

借家人同盟會の〇〇氏は石井忠商店から收賄した某々官吏を槍玉にあけた人である。彼は電車の中で彼と同じ様に勞働運動に奔走して居る某氏と遇つて『先年己が少し何かしたと云つて野郎共が己を檢舉したのであつたが、人を無暗に檢舉するなら己だつて甘覺悟がある。民間にも檢舉團を置いて彼等をさしこみ檢舉して遣ればよい譯だね！』君と云つて總金齒入りの口を開いて笑ふ。腕にはオペラバツクミ云つた様なハイカラな書類入れを提げ、赤皮の長靴を穿つて居る。官

#### 技師

### 今井章吉氏

⊗……市電車輔課にあつて新進の技術者と呼ばれて居る今井君は未だ三十代の氣鋭な技師だ、今が尤も働き盛りの彼は頭の先きから足の先きまで悉く之れ意氣の充實した熱が來往して居るんだ、殊に學生上りである彼は其時代に培はれた敗けし魂や克己の力が伴つて人一倍勞苦に耐へ勇氣に充ちて行くのだ、月夜誰れが口すさむか知らぬが若し寒に耐ゆるの梅花を歌ふ者があるならば畢竟今井君が今彼れの心底深く秘めて居る覺悟を語るものであるかも知れぬ兎に角彼れは固い決心で珍らしく大童になり社會處世の途に進んで居る士ものである

⊗……彼れは一方に於て左様に大決心を以て學窓を出て市電技師になつて居るのだが又一方に於ては忽然俗脱の氣分があるんだ、君に言はせるに勿論遠慮深い彼れの事だもの取り立て、申上ぐる程の趣味も無之候と遁辭を構へるが併し乍らコツチの方から然らば飯も食はず庇もヒラヤに候やと出れば得意の音調で飯なくては生きる事叶ふまじく候アラ傷しのか何んぞか遂々觀世流謠曲の本音を吐き羽衣の曲なきをやつてのけるのだ、實際彼れには許せ謠曲の極道がある而して随分築き上げられた巧妙なものだから驚き入る、要する所彼れはソレで一切の俗想を離れ沈魂歸心をやるのだ

⊗……彼れは大坂府下東成郡平野郷の人明治二十年七月生、東京高等工業學校に入りて四十四年其機械科を卒業後大阪福島紡績會社、同合同紡績會社、山陽電氣株式會社及富士製紙株式會社等を経て大正九年市電に入り以て今日に至つたのである、





技師

## 琴谷榮造氏

市電工務課長黒須君の右の腕も頼むべき建設係長は即ち技師琴谷君である、彼は其眞摯な調子と明敏な奇抜な技術の三拍子調つた腕前を以て黒須君の影武者となり部下となつて大ひに力を致して居る一人である、一體が正味を賣る技術家であるから拙ない事政策に於て然りであるべき筈だが彼れは亦所謂社交術の操縦にもナカ／＼隅に置けぬ凄さを持つて居るこれは驚ろ術云ふよりも信念の押し合ひでも言つた方が適當かも知れぬ、何故言つて彼れには謙詐を事とする作用を試みる甲が幸ひにして未だ生ひて居らぬ、只斯ふと信じたなら飽迄も然るべく慕進する勇氣あり強味があつてこれが社交術と稱されて居るのだから……

彼れは大分縣北海道郡丹生村の人、明治五年九月生れ、二十七年東京工手學校土木科を卒業後秋田鑛山監督署に務め去つて二十八九年間未だ計畫中の城河鐵道、伊賀鐵道等の線路設計や阿波鳴門海峽、伊勢山田電燈水路吉野川上流分水路等の測量設計に従事した其結果二十九年伊賀鐵道株式會社技士に聘せられ工務課を背負つて居たが三十一年之れを辭し三十二年東京吉田組より託され舞鶴軍港開鑿工事に從ひ完成と共に去つたのである

君が到る所其實地の修業を経て來た技術は當時既に異常に磨きをかけられて居たものだが明治三十四年に至り來つて大阪市に入り土木技手に任ぜられてからは三十九年迄土木課に於て力働を見せ三十九年抜かれて市電技手に轉じ

建設に奔走する事となつた、而してそれ以來保線係長同出張所長の要位を占めて大正四年技師に進み同九年現職に就き以て今日に及んだのである則ち君は最早二十有餘年の勤續者で市電の爲めには忘るべからざる功勞者である君の趣向は書畫盆栽及び將棋等だ

## 電燈會社電氣部職工 (其二)

僚連ミ絃々相磨して進むミ云ふ意味で己は石井忠は既に駄目故三越、白木屋を攻撃するのだ。今度で先づ先年の分は帳消しになつたからこれから取引を新に……」恐ろしいイタヅラ者が現はれたものである。

彼は警察側ミミ迄も争ふ意氣込みである。某君は其前に市役所の某大官が居るのを知つてか座を外す、其後に腰掛けた男が又頗る付の變り者で風采は高等官何等と云ふ教育家らしく見ゆるが支那天津産甘栗をオーバーのポケットから出して一心に食ひ始めたものである。殻を破れば中から裸體になつたホク／＼した處が出る。「まだ焼き立てだな」ミ自分は思つた。其殻が一面に車内に散つてゆく誰も彼のダラシない風を見つめる者は無く皆横の方を向く。

其時に二人の土方風の勞働者が乗つて來た。一人の方が一昨夜來の出來事を語り聞かせて居る。「己と其男は仲が悪い譯ぢやないんだぜ、それなのにさうしたのか喧嘩したのや、負けたか勝つたか判らん、本田の電車道をゆき居つたら誰かど怪我して居るな、どしたんぢや、己が仇を討つてやるから行かう、誰にやられたかミ聞くので悪い友達ぢやありやへんミ云ふたが、可哀想ぢ



## 松浦不二夫氏

⊗……市電工務課の若手組で其人あり知られる松浦君は議論もやれば腕もスツカリして人後に落ちる事を極端に嫌ふ進取的人物である、言つても無暗に先輩や同僚を突き除けて唯我獨尊的な暴舉に出る譯けでない、自然の運行、人爲の變遷、苟も社會を主として押される、儘潮に乗つて順行するので後れざらんし沈まざらんとするのである、加之我が行く範圍に於て快速力を如何にせば發し得るやを夜も日もなく工夫して須臾も努力を休まない謂ふのである、ザツクバラに申せば、人のする事は俺れもする、人の行く所まで我れも行く其爲めには如何な辛酸も厭ひやせぬ體の男だ

⊗……それは若いから一口に言へばそれ迄然し若い者でも一向氣乗りのせぬ退歩的な者もあれば腑抜けたブラ／＼者も居る、これは學問のしたせぬに拘らず通じて見受けられる所だ故に松浦君が人一倍努力家であり奮闘家である事を只に若いからと歸納しては一文の價値もあるまい、彼れには若い事の外に尙有り尙有りそは何ぞ堅忍不拔の志操がある、彈力性に富んだ意思がある、餘計な事だが酒を呷つてもサラ／＼尻古垂れぬ所もある、若し有無相通するものならば彼れは此等の特長があるので恰も無きが如く包む所もあるであらう、

⊗……活動勇氣沈着さを持つた松浦君はモット持ち上げて言へば未頼母しき青年なるかも知れぬが然るに彼れ

は既に若い乍らも一門のお父さんである、肩書たつて雄辯に語る通り學府も出で現在社會人として折角自己の將來を開拓して居るんだ、夢の如き小説の主人公だが空想の種に用ゐらる、青年に擬しては當人は勿論世間でも敢て泣かずばならぬ

⊗……彼れは愛媛縣西宇和郡八幡濱町の人、明治二十四年十二月生れ中學高等學校を経て大正七年京都帝國大學工科學業後直ちに大阪市電に入り電鐵部技手に任じ大正九年技師に累進以て今日に至つたのである

## 電燈會社電氣部職工 (其三)

やみ云つて縋帶して呉れたのでそれ又飲む、昨日も一日飲んで二日飲んでしまつた。今日は苦しいな己は好きで酒を呑みあせせんぜ、氣がクサク／＼するので、それで飲むのや」と云つて聞かせて居る。見れば額は破れ、頬は裂けて居る、膝が一番痛さうで擦すつて居るが立派な體格であり堅實なる神經の所有者らしく見えるが氣がクサク／＼すると云ふ處を見れば彼も自分と同じ近代人の特質を備へて居る事が分る。途上所見は其様な事であつた。

彼の家は浦江聖天様の附近にある。大頭のブルドックがいきなり吠えついたので、一時驚いたが其夫は人の足に噛み付く眞似をした許りで奥の方に逃げて行つた。下の家は按摩を業として居るらしいが主人は盲者ではない彼等は其家の二階借りをして居る。

上福島四丁目で生れた。「父は何して居たものか分りません四つ時の時に死にましたからね」母は裁縫か上手な人で多少の遺産もあり、彼が二十二歳迄幾分は親戚の厄介にもなつたが誰からも





技師

## 小林源七氏

⊗……小林君は市電工務課勤務の技師である、彼れは自ら大公堂を以て任じ運動には頗る趣味あり就中「スケーター」の如きは呀つと言はせる様な藝當があるんだと、但し上手か下手か見た事がないから保證をせぬが自信力のあるを參酌して考へると強ち意氣組ばかりではない様である、兎に角彼れは狐逸味と禪味とを人知れず備へて居る面白い男で技術家には珍らしい程晒脱して居るのだ

⊗……それで多くの人は彼れを目して田舎育ちか左もなくんばそれに近い所でノンビリと生ひ立つた男だと是認するが彼れはあれで東京育ち則ち江戸ツ子で御座る、王川の水で朝夕顔を洗つて生湯を使つた江戸育ち左りこは馬の鼻毛までヒッコ抜く様な目まぐるしい土地で育つた云ふから驚き入つたる型と謂はねばならぬ、實際彼れは江戸で育つたと思へぬ程流暢な素質の持主である、而して抱擁力の廣い點も亦人に優つて居る、これが抑も小林君をして將來好發展を爲さしむる原動力であらう

⊗……彼れは東京人、明治二十二年七月生れ中學を出て、東京高等工業學校に入り明治四十四年其建築科を卒業後直ちに陸軍築城部本部に入り横須賀支部及函館要塞司令部に轉じ大正六年逕信省に入り更に大正九年六月大阪市役所に入り市電技師として今日に至つたのである、

技師

## 一色久光氏

⊗……一色君は工務課詰の古參技師で一方の重鎮である、彼れは愛媛縣松山市の人、明治七年二月出生、過去數十年間に亘つて一切合切を實際上の苦い經驗から切々としして一粒／＼を學習して來たのである、従つて其技術と精細を極め腕も何處へ押し出してても優りこそすれ劣る様な片鱗もないのである、然るに彼れは最初一の技術家たらんより寧ろ頭の人として將た又奇略に富む半面の特長を護り立て、支配級の人物たらんを試みたのであるが浮世は儘にならぬものこれも斷然思ひ切るの外はなかつたのである

⊗……従つて霸氣はあり之れを行ふに事情許さぬのであるから勢ひ其不平不満の持つて行く所を求めねばならぬ、遂に彼れは志を樹て技術に拘泥する様になつたのである、故に人に比して彼れの技は洵に眞に入り身心を打ち込んで居ると噂されて居る宜なり今工務課多數の技師連中でも一色君は嘗て古參云ふ看板ばかりでなく曰く言ひ難しの或點を加へて大ひに畏敬する氣分があるのは畢竟斯くの如き出發點を有し斯くの如き仕打で技に熱中するから自然に湧く讚辭なんであらう。

⊗……彼れの抑も技術家生活に入つたのは明治二十九年で同三十二年迄南豫鐵道株式會社に奉職した事に始まる次いで松山稅務管理局、久萬町稅務署等に勤務し明治三十三年四月大阪市役所に轉じ三十七年技手に任じ電鐵部に務めて以來今日に至る二十年間孜々として技を磨き功績を台らぬのである技師に累進したのは大正九年三月で今後大ひに君を待つ仕事が多いのだ



運轉手を拜命し、爾來監督に昇進し監督より監督長而して監督係長主事として今日に至りたるもので有る。

◆……趣味としては讀書、園藝、音樂、寫眞等にて暇さへあれば只書を手にし新しき智識を得やうと勉めて居る、亦時に依りては中央公會堂等にて音樂會の開催された時等間々彼れが耳を澄ませ傾聴して居る姿を見受ける事が度々有る。

### 消費組合擴張員 (其三)

結婚したのは三十一歳の時であつた。

性格並思想の傾向は大體叙上の様な次第であるが彼は労働組合運動も、今の儘で進めば行き詰まるであらうと觀察するので一時此處の消費組合運動を助けて居る。

資本家及び官憲は共に労働者が歎聲をあけて就業するに俄然居直つてビシク絞めつけるので要するに労働者が現在の組合運動を繰り返して獲る處は疲勞と困憊とより無いのではないか云ふ疑問が頭を支配して居るのである。『組合は修養の方法としては他にあるが飯が食へないのに徐ろに修養でもあるまい』と云つて彼は組合運動の効果を疑ひ出したのである然し社會主義に走る考へもなく優しく消費組合運動に留つて居るのである。實は喫はない。酒は少々飲む。

## 主 計 課 (市電)

主計課は主計係及物品係から成る

主計係は豫算の調製、管理に關する事項、使用料、賃貸料其他收入に關する事項を掌る

物品係は物品の購買並に工事請負に關する事項、物品の出納、賃借、保管並に處分に關する事項、不動産の處分に關する事項を掌る

### 労働調査

#### 護謨會社職工 (其一) 二十八歳 家族六人

○護謨會社は浦江にあり四百五十人からの人を使用して居る大會社である。彼は其處に通つて居る。浦江聖天様の通りは三年以來非常な發達で夜見世が出るので夜はかなり人出が多いが患下田二段以下の者が共が「タンタラバー」ミかに陣取つて活動して居たミ云ふが其れ程の強猛な不良團體の活動する地方ミは受け取れない。

彼は大阪人である。北區堂島中二丁目に生れた。彼の父は色々な處に勤めて居た。八年前此處に移つて彼等が一人前になる様になつてからは身體も感弱であり何處にも勤めない彼の長兄が大連で親類筋のある商館に勤いてよい收入があるので生活は安定せられて居る。彼は鷺洲町大仁の關西商工學校商業本科を卒業した。夜學で日中は○護謨會



## 第十二節 水道部

水道部には庶務課、工務課、擴張課、調度課の各課がある

### 庶務課

庶務課は庶務係、給水係から成る

庶務係は部員の進退、賞罰、給與其他身分に關する事項、公印の監守及部内の取締に關する事項、文書の審査及議案の作成に關する事項、文書の收受、發送、編纂及保存に關する事項、計及報告に關する事項、豫算の編成及管理に關する事項、其他の課、係の主管に屬せざる事項を掌る

給水係は水道使用料及給水装置修繕料の計算に關する事項、給水工事費の計算及徵集に關する事項、水道使用者の取締に關する事項、市外給水に關する事項を掌る

### 工務課

工務課は技術係、工事係、淨水係から成る

技術係は工事の調査及設計に關する事項、量水器鐵管、給水工事の検査及量水器の修繕する事項を掌る

工事係は水管の維持及修繕に關する事項、給水工事及修繕に關する事項、量水器取付に關する事項、水管の改良、増設工事の施行に關する事項を掌る

淨水係は水源地及域内貯水池の維持作業に關する事項、唧筒運轉及修繕に關する事項を掌る

### 擴張課

擴張課は監査係、水源係、水管係から成る

監査係は水道擴張工事の審査に關する事項、水道擴張工事費計算に關する事項を掌る

水源係は水源地設置、設計及施工に關する事項、セメント試験に關する事項を掌る

水管係は水管敷設の設計及施工に關する事項、鐵管検査に關する事項を掌る

### 調度課

調度課は契約係、倉庫係から成る

契約係は工事其他の請負、物品の購入、賣却、職工人夫の供給、保險等の契約に關する事項、入札保證金、契約保證金、違約金其他契約の結果に依る収入金に關する事項、工事其他の請負及物品調達等の代金支出に關する事項を掌る

倉庫係は物品の出納、保管、運搬及處分に關する事項、物品の貸借に關する事項、印紙、切手類の出納、保管に關する事項を掌る

### 下水道改良課

下水道改良課は計理係、調査係、工事係から成る



計理係は下水道豫算の調製及管理に關する事項、下水道の統計及報告に關する事項、下水道用品の出納保管に關する事項を掌る。

調査係は下水道改良工事の調査及設計に關する事項を掌る。  
工事係は下水道改良工事に關する事項を掌る。

### 護 謨 會 社 職 工 (其二)

社に通ひ乍ら通學したものである。護謨會社に通ふ様になつたのは彼の十七の年から既に十年餘になつて居る。今では月收八十圓平均程あり工頭ミ云ふ役で二十名以上の部下を使つて居る。

家族は父母ミ及び妹三人である。母は五十三になるが若い時から古着を賣つて歩く事が好きで内職ミして方々知人の紹介で古着を持つて歩いて居る。彼の收入許りでは不足するこいふわけではなく本人が樂しみにして居るので内職ミしてはよい職である。其外妹達が選信局に出たり裁縫をしたりして皆で家政を助けて居る。

彼の趣味は野球の外に演説を聴きに行く事である。賀川氏の演説等もよいミ云つて賞める。新聞は朝日、雜誌は現代をこつて居る。官業労働者の今度の大會も聴きに行きました。要するに關東方は直接行動に出てよミ云ひ關西方は先普通選舉によつて選舉權を得。議會政治を認めて社會改造の實を擧げるのだミ云つて激論をして居ります。ミ云つて居る。彼自身が演説等をするのではない。修養の參考に迄聴きに行くのみである。音樂にも趣味があつてよく聴きに行く宗教問題や根本的な思想問題は研究して居ない。よい方面を代表した大阪人である。

## 主 事 安川勝太郎氏

◆……龜の甲より年の功ミ謂ふ寧ろ年の功よりは實力を以て論ぜざるべからず、然も年の功あり實力を併有すべくんば敢て間然する所なし、殊に經驗ミ處理ミ頭腦を要すべき活社會の實務は半歩の確實ミ脱兎の迅速ミを併せて行はずんば遂ひに劃計全く結果優良なるを期待すべからざるべし。

◆……安川君は大阪市役所の古參者にして既に十有六年間勤勵する事一日の如し、而して前半生は之れ凡て市水道事業に従事したる精勤者なれば斯道に關する政策ミ經驗ミ打算には最早堂に入り何人ミ雖も其の豊富自在なるに如かざる也、現に水道部庶務課長に任じ市百年の將來に重大關係を有する事業に没頭し銳意貢獻す。

◆……君は八面玲瓏何人に接觸するも更に變節なく其信する所を披瀝して熄まず、巧みに包む所の圭角を隱蔽し乍ら處世の妙諦を捉ふ、一見凡々の相体を顯はして然も異方を保有し事に當つて熱せず、冷やかならず、甚だ要領得たる公吏の好型なり故に内外の信譽を蒐めよく事務に馴れて珍重せらる。

◆……併し乍ら彼れは概ね資性磊にして名利を追はず、行ふ所敢て人の好評ミ迎合ミを需むるものなく享樂の裡に萬端を處理す、謂はゞ小心翼々の實務、放豪の理想、不羈の信念併せて一体ミなり、策劃なくも肯綮に當る所謂常識派の人に屬せり、従つて、俄然擡頭し灑然退嬰するが如き風來の誤り無し、

◆……試みに彼れの過去を聴け、そは一種の葛藤史に屬し時勢に伴行すべく努力したる記述なるべし、君は明治九年三月一



日大阪府下北河内郡甲可村に生れ居村の小學を経て府立農學校農業科を卒業後一時家事に没頭せんせしが時代は寒村の野鶴を以て任ずるには餘りに進展しつゝあり

◆……君則ち三十年より三十四年迄關西法律學校に學び法律經濟の學を修め卒業し茲に始めて辯護士たらん事を熱望し汝々勉強せしが時に利非ず野望を棄て、明治三十七年十二月大阪市書記となり當初より水道部の事務に従ふ爾來十數年功勞顯著なるものあり擢んでられて主事に進む、君繁雜の處世に寸暇を割つて園藝を好む。

### 勞働 調査

紡績會社職工 (其一) 三十四歳 家族三人

女のみ親子三人の彼女達は北表の寄宿に居る、父は和歌山縣日高郡東〇〇村の人であつた、父は聰明な人で無かつたので田畑を無くして一家は東京に出るべく餘儀なくせられた、當時は彼女の妹であるおはなさんは未だ生れては居なかつた、上福島の商賣屋に嫁入つてゐる次女に彼女に父母に伴はれて東京に出た居る事八年にして父は身體が不自由になつて勤めも出來かねる様になつたので大阪に歸つて來た。彼女の夫が萬事を指揮して南傳法町に落ちついて居た。

一昨年夫が無くなるに同時に次女を嫁入らせて末の妹と共に〇〇新續〇〇支店に働いて居る。亡くなつた夫は品川白煉瓦會社に出て居た。月収は妹の分共で三十五圓位になる。其内二圓七十錢の家賃を出さなければならぬ。飯代までは辨當にして居るので會社への支出の必要がない。三十五圓の安月給で一家三人が生活して居るのは奇蹟の様でもある。

## 主 事 田 中 敬 二 氏

◆……默々たる性格を有する君は誘ふあらば滔々として懸河の辯を揮ひ歡談時を知らざる屢々なり、戲談も謂ひ惡口も之れ叩く、叩くも雖も萬事は淡恬として拘泥する所なく嫌味を含むものなし、故に此の素質を抱いて平然途行く彼れは時に却つて諷解を招く事あるも知る人ぞ知る彼れは飽迄透明なるべし。

◆……君は志操誠に高尚にして特有の達觀主義を處世の標榜せなせり、而して其崇拜する山陽の風事を慕ひ之れに倣はん事を庶幾し日夜先哲に私淑し敢て點々なる事情に捉はれざらんを努力しつゝあり、従つて其行動も俗脱の氣味を具し同僚に親慕せらる。

◆……田中君の思潮は概して文化生活に押れんを、爲めに其の好む所も園藝の如き自然の咀嚼を求めて萬象の詐らざる實相に觸れ自ら享樂を誇るあり、又微妙神秘の音律を極愛して眞絃の妙音に俗想を洗はんを、偶々其敵を得んか熟達せる園藝を健闘す。

◆……此の微動なる君は山口縣吉敷郡鑄錢司村の人、故山の名夫れ鑄錢司なるも極めて金品に淡泊にして慾に淡し、明治十一年十一月十日同村の中流に生る、幼時居村の小學に入り中學を了へて將に明治聖代に人物多き同縣人會に德懋され活舞臺に走らんをせしが自ら之れを抑制す。

◆……即ち暮夜の精勵を以てよく各方面の智能を練り明治三十五年に到りて下關市役所に勤め水道事業に盡力し四十年五月



門司市役所水道部に轉じて奉職する事十有餘年同所の發展に功勞頗る多かりしが遂ひに人の推賞する所となり大正九年三月嚙望されて大阪市に來り現に水道部擴張課長たり

紡績會社職工 (其二)

他に何時でも來て寢泊りして居る若い男がある。三十四歳の彼女が二十三四の青年を婚がねに選んだのであらうか、其邊は不明な點が多い。

四疊半、三疊の二間で、三疊の間に一杯になる大きな夜具が敷いてある、夜具は會社の方で貸與するもので棉を安く得られる關係からであらう、普通家には無い様な杉大なものである。彼女の末の妹は美人で丁寧によく話す人である。

彼女は湯上り姿のまゝ、椽に腰掛けて『私の處には女許りですよつて別に悪い事をする様な辻散りものは居りませんけれど』と云ふ様な事をポツ／＼語り『私の前一しよに居たものが神島で勤めてますが』と云つて彼女と關係のあつた一巡査の事迄も説き出すのである、余は巡査ではないから其様な巡査の事は知らない。

主 事 山本音次郎氏

◆……萬難を排して自家の運命を開拓せんとする者は蓋し強毅にして磨まざる勇猛心なくんば非ず、刻苦艱難人を玉にするは要するに自ら之れに耐へ忍び切瑗琢磨を爲すに因る、山本君の如きは畢竟其要諦を滞りなく踏み來つて今日の地歩を占めたる篤行家なり。

◆……彼れは奈良縣南葛城郡忍海村の人、明治十八年二月十五日不如意なる家庭に生る、則ち長するに及びて小學校を卒へ同窓の中學に進むを目標し遺憾乍ら物資の惠與我れに順調を欠ぐを悲みたるが如何せん、心に委せず悲愴の感をのみ之れ抱きて遂ひに家事に従事しつゝありき。

◆……偶々人あり來りて同窓を凌ぐの途は刻苦を以て簡捷を辿るに如かざるを誨ふ、彼れ躍喜して明治三十一年大阪市役所に入り雇を拜命し水道事務に従事し乍ら日夜寸暇を惜みて勉學大ひに勉めたるが一進一退甚だ遅々として自己の素志を貫徹すべくも非ず、且つ夫れ故山の悲報は着りに到るあり。

◆……未だ幼少の彼は其悲報に惱され螢雪の功亦忽ち現はる、事なきに出で、幾度か人知れず熱涙を絞りしものぞ、其の間家庭の事情に動かされて約三ヶ年間奈良縣水道部に轉じたるが之れ亦俗事に馴るゝのみにして當初深く彼の頭腦に刻みし學術方面は所期の如く修得する餘暇すら無き状態なりき。

◆……彼れは奮然三省以て志の軟弱したるを自ら叱咤し再び大阪市役所に復歸の上千辛萬苦を一蹴し關西大專專門部法科に



入り大正三年夏始めて群雲を拭つて霽月を眺め成功の礎を握る事を得たる人なり、斯くて夜間の勉勵は漸く白日の恩恵に浴する事となり大正十年四月主事に進み現に水道部擴張係主任たり。

**労働調査**

紡績會社職工 四十一歳 家族五人

彼の家は〇〇紡績今宮支店の社宅北表の最端にある。

南區の生れであるが理今父の家は天満にあり八百屋を営んで居る、父は六十四、母は六十五である、五人兄弟の長男で家業を繼ぐべき運命を持つて居るが或る時期迄は別に自活の方法を講じて居る次第である、別に専業云つては無く只家庭で手紙等を書く等を少々習つたのみである、三十過ぎる迄は家業の手傳をして居た、攝津紡績に一年半、久保田織工所に三年而して〇〇紡績に入社したもので勤めてから既に六年になる仕事は撚糸の方で其外の雜務をも兼ねて居る、妻君も同じ紡績會社に勤めて居る二人の収入を合せて六十五圓餘になる。

家族は彼等夫婦に娘の三人で其れに親類の同居者が二人居る、階下で、四疊半二間に三疊である、入口の四疊半には床がついて居り南無妙法蓮華經ミ書いた掛圖が掛けてある、佛壇の意味であり、蠟燭がこもつて居る、十六歳の彼の娘が今や夕の禮拜をして居る、

彼は「無學の労働者は座れば直き足が痛くなつてきもならん」云ふ様な事を云ひ、娘に話しを譲つて奥へ逃げ込む閑暇利用云つても閑暇の無い彼であるが休日には寺参りをする、煙草は喫ふが酒は飲まない思想云ふ可き様なものもないが家の中は正しく整頓せられて陽氣な氣分が充ち満ちて居る。

主 事 馬 場 太 熊 氏

市水道部に熱心奉職する馬場君は主事の要位にありて其手腕を振つて居るのだ、君は高知縣高知市の人であるが早くより乃父に従つて大阪に移住し都會生活の裡に小中學を卒へたのである、而して深く覺悟する所あつたまゝ、市に奉職した、時は日露戰役當時で明治三十九年である左なまでに多端なる大阪市政は執行機關たる市吏員一同が全力を擧げて執務を要する時代であつた、君は折柄水道事務所員となつて先づ熱血に逸る市民の上道給付の重大任務に従事したのである。

然も水道事業の幼稚なる當時に於て君は技術者に非ずとも必要なるべき修得は知らざるべからず一切に事務の練達を期し一般の弊風たる公吏根性も謂ふべき利那主義モット平易にすれば月給に相當する義務を盡す様な打算的な陋手段を顧みず切々として何事にも忠勤したものである、未だ若き君の當時は偶々好事者の嘲笑も浴び皮肉家の卑下も受けた、併し君の意中には只管公務以外に何物の印象もない、従つて一路専心敢て忠實至極の途を踏んだのである。

而して君は更に勉學の精神を棄てなかつた、多忙なる一日の業務を去つては傍ら將來の成業を胸に記し法律學の研究に没頭し校庭に學んだのである、則ち明治三十九年關西大學專門部法律科を卒業し茲に第一階梯を造り上げた、君は現任市會議員の岩木、中村兩君等と同學で、同窓親友の間柄である、折を得ずして君のみ辯護士の試験を廢したのであるが其英才は確かに慘々たるものである。

今尙ほ時の同窓生を以て組織する三九會が年二回開催され君此處に遊べば友輩は悉く君の雄飛なく只市吏員に終ら



ん事を痛罵するのだ、之れ君の英才を惜む友情からである。こは知る人ぞ知るであらう、君は然し案外平氣の平左で別段自己の現職を悲まぬのみならず雄飛は易し靜座のみ難い哉と稱へて笑ふのである、君觀世流の謠曲に妙を得太公望を眞似て糸を垂れ以て人生苦を一掃しつゝ、市務に従事して居たが大正十一年五月退いて民間に活動する事となつた。

### 労働調査

電氣器具製造工場職工 (其一) 五十六歳 家族六人

彼の家は茶園町で西野田第五尋常小學校の附近である。故郷は伊賀の上野の三田三云村である。母は彼の十五の時に亡くなり、父は先年此家で亡くなつた。兄妹は彼と妹二人であつて。高等二年迄しか學校は行かなかつた。高等科があつて四年迄行く事になつて居たのであるが高等二年になつた年に伊賀の高等科は他村の生徒を收容する事は止めになつた。其れ故止められた八箇村の村民は俄に高等科を作る事になつたが彼の村は建てる事が出来なかつた様である。當時の事は未だ幼なかつた爲めよくは記憶しては居ない。津市には中學校も出来て居た。高等三年から入學出来る事になつて居たが、彼は家庭の事情が許らなかつたから行く事が出来なかつた。二十五の年迄は家業(農業)の手傳もし花筵の製造を思ひたりして副業の方にも身を入れたが却つて其か悪く失敗して朝鮮に渡らねばならぬ事になつた。京城には彼の伯父が商賣をして居たので其れを助けて二年程した。

大阪に来て妻子を呼びよせ新町で米屋を初めた。四十五年頃御記憶ですか知らん米が二倍程になつた事があります其れで結局非常な失敗をしまして……」云云。其れで大正元年に藤村鐵工所に入つて鐵盤師になつた。

## 技 師 坂 田 時 和 氏

◆……傷ましい廢墟の月を仰いで哀愁蒼りに語る者は情けを知る人である、然し單に情を知るばかりが是であり自然は謂へるものであるまい、其の衝動から引く對感連想は人毎に相違のあるもので先づ以て此の色別から歸納し高低優劣を判断すべきである……」警句を前提に坂田君は下水道改良課長の繁務を處理して一吹の喫煙に氣焔を吐く。

◆……誰か歌つたのにもある、満月を仰いで盲人の妻の泣く夜かなとある、又盲の子を憐んで月の圓い姿を示す爲めに金盃を與へた所がガンと鳴るのが月と思つた話もある、何づれにせよ同じ哀愁にも差別あるものさ……彼れは哲學的觀察に獨歩の見解を有つて居る、而して自己陶治の資料に供する所は技術家に稀れに見るの特長である。

◆……彼れが踏み來つた過去には随分陵夷が多かつた、而して後輩に凌駕されし鬱憤もある、然し獨特の修養を重ねて客觀主義に苦もなく離脱して終ふ、只精勤にして圓曲な方途が進むべき途だを觀念し聽て其の現象を心中に描寫し見苦しい所は敢て再び繰返さざらん事を念じて行く、茲に凡ゆる資材を蒐めて自己陶治を企てるのである。

◆……彼れは幾度か持ち前の疝癖を破裂する様な窮狀に立ち自力信憑の薄弱なるを歎いた、其結果心的安定の絆を謠曲に据ゐたのである、觀世流の名手となつたのも動機はそこにあつた、苦惱や疲勞に満ちた夕べ彼れの庵からは朗かな澄んだ曲符が流れて實にや羽なくては飛ぶ事叶ふ間敷候……」一切を忘れて終ふのである。

◆……坂田は四國人、明治九年九月松山市に生れ中學卒業迄其處に育つた、明治三十一年京都第三高等學校土木工學部を出



て大學に未練なく直ちに民間事業に携はつた、同四十年始めて大阪市技師として赴任し爾來十有餘年間市土木事業に貢献甚だ多く土木部に於ける重鎮である。

### 電氣器具製造工場職工 (其二)

大正三年頃は段々景氣もよくなり、〇〇職工所の方に働いて可なり収入もあつた。妻君が新町橋の袂に天麩羅屋を出すし(今も行つて居る)。其中息子も大きくなつて來たので二人で働く様になり漸時盛り返して來た。長男は今年二十一歳甲種合格で十一月八日に入營する事となつて居るがやはり父と同じ鑑幣師で日に四圓宛働いて居る。彼は昨年十二月から大仁〇〇〇興業に通つて居るが日に二圓宛になるそうなる。

子供は廿一の長男次ぎが十八の娘である。妻君は新町橋で勞働して居るが故に彼女が子供を構つて一人で切り廻して居る。次が尋常六年六の男の兒最後が二つの男の兒である。

二階は六疊に三疊、下は六疊に四疊半である。家賃は十六圓敷金は三十圓出して居る。若い時には亂暴な事をして財産を無くしてしまつたが色々な事業にも失敗したので今では悲觀許りして居る。新聞は大阪毎日を讀む許りで別に趣味ミ云ふものはなく。信心は真宗である。將來も今の〇〇で働く考である。煙草は喫はないが酒は少し飲む。

## 技 師 鈴木義一氏

◆……眉目秀麗の若き工學士……それが下水道改良課に勤務するになれば甚だコントラスが面白くないが事實であるから所詮脚色の餘地が無い、若し眉毛ミ口鬚ミ顔の福やかな型を美男子ミ謂ふならば鈴木君も其一人でなければならぬ、色白な濃き毛を持つた彼れが金縁眼鏡をかけて凜とした嫌味の無い氏は、幽芳か幹彦等の文士連がものする小説の主人公に擬すべき男である。

◆……鈴木君は然し左様な粹氣を持つて居ない、熱中し易い其素質は事務的才能を併有して運びよく天職ミ信じ切つて居るコンパスを終日手離さぬ勤勉家である、寧ろ諧謔に富む批判の如きも其尤も得意な所であるが一日に一度位ひしか聞かれぬ、つまり口数の少ない技術家で頗る要領を得て居る人ミ謂ふべきである。

◆……接すればしたる様な愛嬌を湛わ乍ら凡を知つて居る限りは問ひに應じて句切りよく述べて終ふ……僕の生れ故郷には一ヶ村擧つて鈴木姓を名乗る所がある、平治の亂に敗れた義朝が武運拙なく尾張に横死した、時に故主を慕つて落ち延びた鈴木義勝が餘生を長らへて報復を策した所である其の子孫が播殖したものであらう……は彼れの談片である。

◆……彼れは尾張の人明治二十二年八月愛知縣知多郡河和町の豪家に生れ愛知縣立第三中學卒業後直ちに仙臺第二高等學校二部に入學明治四十四年優秀の成績を以て卒へ大正二年京都帝國大學工科土木科に入り大正五年首尾よく卒業し一時故山に臥龍の姿であつたが招かれて大阪市技師に赴任し爾來土木部下水道改良計畫に従事して居る。



君は學生時代から常に運動怠らず極めて剛健な勇壯の風を尙んで居る、曾つて二高や京大時代には端艇部の第一選手として青鷺の松島に波を蹴り瀬田の河口に勇進した、テニスに於ても其の通り勇敢な名を馳せた、現今は世故に馳れ特記する程のもの無しミ爪を隠すが一杯の緑酒に勇氣つけば却々隅に置けぬ藝當を演ずる。

勞働調査

伸銅所銅管部職工 (其二) 二十九歳 家族四人

和歌山縣日高郡○○村が彼の故郷である、父は五十九歳で十八歳の時に父母に伴はれて大阪に來た。最初は池田で父が○○してゐる砂山を潰す仕事の手傳をしてゐた。砂は米を搗く時に入れるものに精製せられるものであつた。一年程して今の伸銅所に入つたのであるから履歴は極めて單純である。今年で九年になる今は銅管部の伍長で常備一圓九十四錢月收百二十圓餘になる。

學歷は高等二年半途退學でそれから父と共に大阪に出て來たのである。母は亡くなつて今は池田の家には父のみが老後の樂しみに鶏と目白を飼つて暮して居る。

女關は堂々たるもので家の間取りは二階六疊一間、下二疊二間に四疊半云ふ間取で南向きである。敷金としては十圓丈け入れてある。家賃は借りた時は八圓であつたが一昨年一時に十五圓に値上げられた。家族は夫婦に子供二人である。上が五つの女下が四つの男である。妻君は別に内職等はして居ない。



技師

長澤 達氏

一切妄念を去つて仰げば月は清く心健かなり、雜念來りて犯すあらば皎々の明月と雖も遂ひに憂鬱鬱念の侶伴のみ……長澤君は禪學に因つて左様雄辯に語るのである、噫々是れ等しく月なり萬象森羅の背景に因つて異り我念に刻んで是れ違ふ……技師家に似合はぬ立體的の人である、

君は兵庫縣多紀郡大山村の人明治十九年二月を以て生る、幼時より頗る利澄にして郷黨の誇りこされたものである、當時既に村寺の僧がいたく君を愛で君亦荐りに其の訓戒に私淑した結果小學に於ても何處か重々しい兒童で且つ秀才兒となつた、然し秋のサンプルに赤き柿や栗などを失敬する事は腕白時代にして實は竹馬の友に劣らなかつたのである、

殊に其生地附近は光秀が波多野氏を攻撃せし天正時代の遺趾鬼の懸橋云ふのがある、小兒等は古老の言ひ傳ひを其儘木刀竹槍を弄んで陣取り合戦をやる、其の旗頭には必ず長澤君の達坊が必ず参加して居た、それで居て彼れは私かに戦亂の古事を思索する葉りに供したのである、

小學の窓を出で、は可成り將來觀を凝したが故山の風月に別れを告げるは事情が許さぬので丹波篠山鳳鳴義塾に學んで明治四十年之れを卒業し翌四十一年遠く仙臺に赴き高等工業學校に學び四十四年土木科を卒業の上直ちに大阪



市役所の技師に就任した、

☒……爾來下水道改良課勤務となつて豪快な立案緻密周到な計畫を建築して居る、君は雨が降つても暑氣烈しくとも常に五尺一寸の體軀を提けて河川に佇む、而して糸を垂れるのである、又讀書を好み禪書を研究して自ら人格的領域を擴けつゝある、

#### 電氣會社電氣部職工 (其四)

批難されぬ様に立派に育て、吳れたが彼の二十二の冬流行性感胃で亡くなつた。其頃彼はある會社に勤めて居たが彼自身も感冒で二日程床に就いたりしたので随分苦勞した。親族から來て手傳ひをして貰つたけれども費用は全部彼が負擔した。

其後二年大阪高等工業の夜學に通つて電氣科を卒業した。卒業後直に大阪電燈に入社した。以前約一年許り同じ會社に厄介になつた事もあつたが其時は本當の下役で給仕代理の様なものであつた。昨年十二月一日入社した許りであり、日給は僅に一圓六十錢である。

二階は四疊半に三疊で家賃は九圓である。近く聖天の傍らを通る泥川が流れて居るので恐ろしい濕地であるが二階に住む人は其點は關係がない。部屋の内は美しく整頓せられて居り、妻君も髪を近代的の女優鬘に結つて頗る氣持がよい。彼と彼女の二人暮しであるが此二三日遊びに來て居る彼女の妹が居る、今年十六で暢氣な性質で大聲あけて『苦しい、あゝ苦しい』と叫ぶ妹君少し風ひき氣味で寢て居たのであるが頭が痛んだので突然にそう叫んだのである。實は苦しくも



主 事

### 堀口周吉氏

☒……其の居に安んぜざるものは一般に危険である、特殊の部分が向上に志す前提だと肯定して此の意氣なき者を悉く批難するのは血潮湧き立つ無雜作な青年時代であらう、長じては其居に安んじ而して其天分を完ふする、茲に實際の力量を注ぎ十日の批判を俟つて漸進するを處世の骨と謂ふべしである

☒……堀口君は瀟洒な己が體軀に此の肝心な悟りを須らく呑込んで居る、彼れが一雇員から叩き上げた現在の地置は畢竟此の觀念が齎した賜物と見るべきであらう、憂き辛さ口惜しき閃き何づれば人一倍に彼れの眼前に展開し其腦裡に泌み込んだ事もある、然し人は共存ですよ……と彼れは嬌めて居る、

☒……極めて微温的な謙讓主義な彼れは論敵もなければ暗闘の主人公もならない其の反對に人の鼻息を窺つて妄辯以て自我の利を計る様な危険も犯さぬ、一切の雜念を洗つて我が使命を日夜懸命に努力して少くも市の爲めに貢獻の多量ならん事に熱中するのみである、

☒……彼れは純正の血統を誇る大阪人で明治十七年五月市内に生れた、苦學奮闘遂ひに私立東雲學校及び高等簿記學校等を卒業し明治四十一年市吏員となり大正十年四月主事に進んだ、彼れの好むのは謠曲と園藝である、下水道改良課に執務の寸暇にも鞍馬天狗の口ずさみを聞く、





主 事

## 竹下東四郎氏

☒……深雪降る裏日本の土地は人間の肌が上品だと言ふ、一寸生理學上の説明を傾聴するにき、目が細かい、色素が淨化されるさあるが左様竹下君には一向此の推理が當て筈ならぬ、彼れの色は男性的に勇壯であり雪國の人に似ない敏活さを標榜して居る、然し其言の葉には流石にお國訛りは残つて居る、

☒……彼れは石川縣金澤の人、百萬石の知行取るより大阪で三駄酒でない現に市役所主事下水道改良課勤務云ふ肩書を持つて居る如く今は大阪の人である、竹下君の生れは明治十二年の二月雪さちこめた日であるが別段其れ以上詮索する必要ない、彼れは有名な兼六公園附近に棲家がある、

☒……小學校を出づるや乃父に隨つて靜岡縣に棲み靜岡中學校を卒業し直ちに大阪商船會社に社員となつた重に會計商狀等の重要任務を更に遺漏なく務めて着々前途の曙光を建設し之れを俟つたが感ずる所あつて凡ての忠言を排し明治四十二年大阪市吏員となつた、

☒……徹々たる一吏員に成り下つて従前の地位を顧みれば又なく執着多いのが普通である、然し彼れは此の未練を忘るべく圍碁の黑白に心氣を柔いで終つた、而して事務を之れ生命に信じ切つて十有五年間孜々勉勵したのである、君の如きは理想的公吏の型であらう、

## 都 市 計 畫 部

都市計畫部には總務課及技術課がある

### 總 務 課

總務課は庶務係、土地係から成る

庶務係は部員の進退、賞罰、給與其他身分に關する事項、公印の監守及部内の取締に關する事項、文書の審査及議案の作成に關する事項、文書收受、發送、編纂及保存に關する事項、統計及び報告に關する事項、豫算の調製及管理に關する事項、物品の出納及保管に關する事項、其他の課、係の主管に屬せざる事項を掌る、

土地係は土地建物の取得、移轉、處分及整理に關する事項を掌る







主 事

# 岡崎早太郎氏

⊗……藝洲豊田郡乃美村は板邊、天神、鷹巢等の山岳三方に座し所産地にして水源地なり、曾て賴襄先生の郷里に遠からず爲に訪人足を止めし所風光誠に拘すべし、岡崎君は慶應二年師走の二十三日茲に生る、規定の小學に遊ぶ事僅かに三四年にして郷土傳來の篤風に染み先輩に就きて四書五經より入りて山陽先人の著書を攻學し、記臆明晰異常と稱せらる、明治二十年郷黨に推されて陸軍教導團に入團し武人として將來を望みたるも當時漸く制度確立し採用様式變革するものあるに強察し卒業後下士官として一時大阪聯隊に義務期間中勤務せしが退役して漂然北海道に走り道廳吏員となり専ら拓地植民の事務に従事せり、

⊗……此の間日清、日露の兩戰役に從軍して滿洲の野に公奉し勳七等に叙され青色桐葉章を授けらる。歸還後も道廳員たりしが明治四十二年に至り前後二十年間の北海道生活を去りて東京市役所吏員に轉じ全力を擧げて處務を辨じ時の助役田川大吉郎君の矚目を獲其の薰陶に因りて都市問題を修養甚だ勉めたり、居る事僅に一ヶ年同君の推舉に因り横濱市土木課長に榮轉の上埋立工事の計畫に手腕を縦横に發揮し、河川改修、舟運の開鑿等に勉む、其の遺業は同市根岸海面埋立事業横濱會館建設等を最尤とす、

⊗……大正三年名古屋市の招致に應じ市土木課長たり、然も當時募集中なりし横濱市振興策の論文を投じて入選し都

市計畫の爲めに参照せしむ、名古屋に於ては先づ都市計畫の基礎を固め大正七年に至りて猛然市長市會議員を説きて京都大阪同様の市區改正條例準用の恩典を獲取し貢献多かりしも大正八年に及び意合はず奮然辭して閑地に退き新生面を拓かんとせし折大阪市の認むる所となり、主事として現に都市計畫部總務課長の要職にあり、

⊗……君磊々、落落、統率的才に富む、將に公吏型か、

## 電氣會社電氣部職工

(其五)

何も無く起きなほつて笑ひ崩れ「お、ビックリした永代さんが來られたのかと思つた」云つて起上り寢卷の上に羽織を引きかけてバタ／＼と馳け出した段梯子を降りきつたか、きらぬかに又大聲をあげて「姉さん！ コワイ此犬！」云ふ先刻のブルが唸るのである、歸つて來てきて云ふここには「アイツ恐ろしくつて仕方が無い。しかしもう妾にはあまり吠えなくなつた。……あゝ頭が痛い。」一點の邪氣も無く思ふ存分に振舞ふ妹君である。姉さんも妹の無頓着なものには閉口の様子である。

内職はして居ない、近所の裁縫仕事をして居るがそれも断れ／＼で本當の内職と云ふ意味にはなつて居ない。室内裝飾も立派なり、諸道具も整然と置かれてある處から見ても一圓六十銭の日給で生活して居る人とは思はれない。昨年四月の結婚で其後は別に記載すべき程の家族的事項もない。

單純其ものゝ如き人である。労働問題、社會問題と云つて騒ぐ人達の多い世に「退いて自分の職に精を出すのが一番ではありませんかね」云つて資本家の肩を持つても無く、労働者の言分





主 事

# 上田 令吉氏

君は明治四十二年京大出身の法學士なり、岐阜縣不破郡青墓村の人明治十五年七月八日今井氏の三男に生る、幼にして近傍の勝地金生山の活氣は南宮神社の靈氣を呼んで養老の瀧に對峙する幽冥壯大の育成に委ね、長じては不破の關跡に往古を偲ぶ事存り也故に感興深遠なる性格を爲す、居村の小學を出て大垣中學校に進むに従ひ雄然の氣性は忽ち才智異常の發露となり優良績を以て同校を卒業、時に故ありて生家を去り上田家を繼で、

君の研念心は中學を以て満足せざりき、直ちに第六高等學校第一部に入學三十八年九月同校を卒業の上京都大學法科大學に進み四十二年業を終へたり

其後一時故山に蟄居したりしが明治四十三年大阪市電氣鐵道部に入り全然商賈違ひの職務に携はり然も研鑽大ひに勉め斯道専門家を障着せしむ又以て才能を謂ふに足らん、君の電鐵部に在る凡そ十年孜々として熄まず攻究忘らざりしが都市計畫事業擡頭するに及び特に人選を要するの時、君は選拔されて市主事となり現に都市計畫部庶務主任たり之れ將に大正八年六月以降す、

君や經歷頗る曲折あり其の得意とする法規を描き電氣學の業に隨ふは則ち反證なるべし、然れども克己自重の資性は敢て頤く所なく進み當今に入りて黑人に比較し更らに劣るものなし、沸々の不平之れなきに非ざるべし、然も暗

む所の美術、骨董に於て自然の雄姿に接し古今の默契に會通し何等表現せずして止む、其の尤も堂に入るものは尺八にして琴古流の名手なり、月夜蒼空に向つて一曲ものすれば切々の音澄み渡りて人も無く我もなく只其妙韻盡きざるを知らん、

## 電氣會社電氣部職工 (其六)

が悪いと云ふ譯でも無く超越的態度を以つて働く云ふのである。庭球野球等に趣味を持つて居り、自分でも試みもし見物にも出掛ける

美術音樂等に對する趣味は無い旅行散歩等が好きである。將來も技術員として働く考である。  
一、一八)

## 電氣會社電氣部助手 (其一)

彼の家は土佐堀五丁目にある。未だ獨身で彼の兄と共に下宿屋の部屋二三を占めて萬事共同して居る。宮崎縣兒湯郡〇〇町の生れである。彼の故郷は宮崎縣も大隅に近く舊島津藩に屬する。彼の家は郷士であつた。維新後は農を家業として居る。

父は五十七母は五十六で共に丈夫で居る。女一人に男五人の兄妹で彼は四男である。小學校を卒業してから暫く家事の手傳をしてゐたが三番目の兄が大阪に來て居たので十八の年に來阪した。兄の厄介になつて關西商工學校の電氣科を卒業した。高等工業の試験を受け度いと思つたけれ



主 事

鈴木三八氏

⊗……大阪都市計畫部は創設が最近なるの故を以て所屬吏員も亦精選したのである、或は經驗に實力に才氣に比較的特長のある人物を網羅したのであるが、主事に至つては更に一層嚴重な人選を試みた。謂はれて居る、其部内に正七位勳六等の鈴木君が居る以上君は何等の特長なくてはならぬ筈である、君は一見好々爺の如く沈黙の士に似て居る、併し乍らお爺でもなければ默念居士でも無い、其顔面に漂ふ神經を見よ、其面上に彩色された色素を觀よ共に瞥見の豫想を裏切る何者か計られるであらう、

⊗……君は明治十年生れの徳島縣人である、未だ好々爺と美辭を以て爺にして終ふ事は餘りに殘酷である、而して又辯は其好む所である、駄辯を弄し無いからとて默念居士など形容するは皮相の見に過ぎないのだ、則ち君は外觀相に内面事實を著しく異にして居る男である、それも其筈だ、君は壯年四十代には稀れに見る太ッ腹を持つて居る、普通大抵の男ならば忽ち沸然として色を爲すの事象に遭遇するとも敢て何等の痛痒を感ぜぬ、只渡り行く殘月の杜鵑が啼き去る位にしか考へ無い、チツミ耐へて心中の小波を均らして終ふのだ、

⊗……則ち内面に捲き起した感情を外觀に表示せぬ人である、モット解釋すると何をクヨク川端柳の意氣組みで理性の勝つた男である、而して一面には斷定的の想構に富んだ質があるから一度口を開けば滔々理義に適した辯説をなし

、毫も後へは引かぬ健兒である、減多に辯を弄さぬ半面には口を切つたら最後何處までも自己の信する所を述べ盡さずんば已まぬ態の強固さである、

⊗……従つて君は都市計畫部に於ても主として主務省との折衝役を引き受けて法理上の疑義手續上の不備や指令其他交渉に促進等に萬事を囑望されて職責を盡して居るのだ、君の豐饒な新智識は直接外國の事物を究めなくとも平常各方面の著書に身を入れて居る爲めに行きこして通ぜざるなく深甚なものである、

⊗……殊に君は法政大學出身後直ちに官吏生活に入り徳島縣屬を振り出しに全國到る所の府縣に轉じ内地の實地を見て居るのみならず會て内務屬任官中は専ら市町村郡府縣行政事務を擔當して詳細に經濟狀態や行政運用の妙を知悉し且つ夫れ主務省内部の關係に明るので大阪市政を誘導するには甚だ必要な人物であり利便を伴ふ立場にあるのだ、

⊗……既に此間の消息に通じた横須賀市では君が未だ内務屬在任中市助役に引き入れんとして骨を折つた然し君は斷然遮絶したのである、然して性來好む自治行政に携はる爲め職務を勵んで内務省の選を蒙り宮崎縣理事官となり勸業課長を経て地方課長をも勤めたのだ、大阪市が同君を得た事は將來に於て頗る利便を得たものであり適材適所の趣きがある、

電氣會社電氣部助手 (其二)

ども學資が積かないので大正五年大阪電燈會社に入社した。關西商工は第七種と云ふ事になつて居る。其後年々試験を受けて今年は第二種の試験に及第した。第二種は高等工業早稻田理工科卒業程度之處である。第一種は最高學府なる帝大工科其者と云ふ事になつて居る。第二種の試験は



主 事

## 武 森 武 市 氏

⊗……曾て大阪市電氣鐵道部用地係長主事として既に名あり彼れは三重縣の産、明治十八年三月鈴鹿郡加太村に呱呱の聲を擧げ明治三十七年關西大學法科卒業後年月を重ねて今日の榮名を贏ち得たる人、彼れは少時郷黨間に於て其の前途を囑望されし程の人物にて學才に於て等吏を凌ぐのみならず亦事務の才に長じ人に接して圓轉滑脫、奇策縱橫、殊に智略に富み統卒者としての德器を充分に有す、資性磊落にして而も綿密周到決斷力に富み然して宛然古武士の風格を有す現代には珍らしき面白い男である、

⊗……彼れは亦常に事難かしき禪學を講じ以てそれを最も得意とす其の禪學たるや或は華嚴或は法華或は耶蘇と何でもムレで片ツ端より講じ來り講じ去る、既に一種の仙骨を帯びて浮世を外にし天晴れ大仙人を氣取る事度々あり面白き男である、時には立板に水を流すが如き諤々の論辯を以て禪學を説く、曰く盡天盡地赤裸々として世に人在るのみ長沙禪師は既に云つた『盡十方界是れ沙門の眠、盡十方界是れ沙門家常の語、盡十方界是れ沙門の全身、盡十方界是れ自己の光明、盡十方界一人として是れ自己にあらすといふ事なし』云ふ事は即ちそれである、三界唯一心人在つて境あるを見ず等と禪講滔滔として盡きない事が在る、

⊗……彼れは明治三十七年學業成つて關西大學法科を卒業するや同三十九年大阪市政府所に採用され臨時用地係りを擔

任され爾來十有餘年同所に在つて十年一日の如く勤勉努むる所在り大阪市電氣鐵道部用地係長主事の要務に榮進し今日に至つた人で要するに將來尙益々發展すべき人にして僅か一用地係長に何時迄も熾り居る人にあらざる事は萬人の等しく認むる所である

⊗……君は大正十一年四月特に選拔されて都市計畫部用地係主任に轉じた

### 電氣會社電氣部助手 (其三)

困難であつた豫備試験、本試験、口頭試験の三段に分れて居る。其中口頭試験は東京迄出て行つて受けるのである。然し口頭の方は主として實際問題であるから彼の様實際の問題に日常接して居る者に取つては少しも恐ろしくはなかつた。大電に勤めてから既に七年になる。助手であり現在の日給は二圓六十錢である月収は百圓内外になる。他の助手達は三圓以上の日給であるのに彼のみが此様に少ないのは彼が未だ獨身者だからである。

兄は近所の指物屋に勤めて居る。職工學校を出たのみで働いて居るので今では彼の方が出世した様な形である。六疊一間附きで二十五圓云ふ事になつて居る兄は下の廣い間を借りて細工の方を實地について研究して居る。此家は其構造が昔風の家で光線の採り方が悪く材木は度外れて太い便利は便利でも吹けば飛ぶ様な近頃建つ家と比べて見れば何處か取柄がある様にも思はれる。油繪が三つ四つ掛けてある。彼は繪が好きで繪の展覽會と聞けば必ず見に行く其時に氣に入つたものを買つて來たものである。其他刷り物も悉く立派なもののみである。彼自身が描いたミ



主 事

照 林 良 雄 氏

⊗……早大學士陸軍主計少尉正八位照林朝臣良雄君と觸れて廻つても文化的に目醒めた現今ではキネマや松竹の活動寫眞を廣告する位しか人は買つて呉れないのである、然るに只單に市役所に於ける照林だけで優にアノ人かアノ君か成程さうなづかれる強味を有し反響を興へるから不思議ではないか、實際君の名は何等の修飾語を冠せずして自ら持て囃され少しも枕詞や修辭を添付すれば却つて不可解なるのだ、事程左様に眞價で押し通して居るのである、所謂實力主義者流に屬する快漢で櫟ぐつたい様な外装に腐心する薄ッペラ者とは天性に於て異つて居る、

⊗……君は極めて卒直な素質を帯びて居るだけに策も無く屈託も無い男である、従つて思ふ様其強い意志を根城として精々事に磨る事が出来るのだ、曾つて至難至繁極まり無き幾多の激務に従事し乍ら長嘆したもの無いのは畢竟チリ々的の根氣を備へて居るのが原因ではあるが併し乍ら主として君の持つて生れた素質が樂天的に且つ慰藉的に君自身を勵ますに因るものであらう、加之君は好んで軍事教育を受け規約の下に律せられ苦難に對する肉彈的旋回運動を起すべき最後の覺悟を會得したる後天的享性も手傳つて居るから現在も將來も君の特長は孜孜勵み腕を枕にしつゝ樂を其裡に見出す所にあるのである、

⊗……人の性や其好む所に於て著はるは古哲の言である故に君を更に原人的に素朴なるを立證するには又好む所

を探ればよい、則ち君が尤も欲するものは言ひ知らぬ味のありと稱する雨の日の書寢である、此の點は陽日に照らされつゝ一睡を事とした彼の古聖プラトー以上であるから益々野趣がある、更に君は無趣味なりと云ひ乍ら且つ夫れ乘馬弓撃劍、遠足にかけては敢て人後に落ち無いで愛好するのであるから先づ以て男性的に地味な方面を我が行く途として居るのだ、而も言鮮く表情濃厚で無い、一夕の交談に花やかな瞬間を作るなどはとても君が企て及ぶ域でないがブツキラ棒な所に稚氣満々たりだ、

⊗……君は生れ乍らの大阪人で城南清水谷に明治十七年四月生、中學を出てから東京に遊び四十年早稻田大學政治經濟科を卒業後直ちに一年志願兵となり陸軍三等主計となつた、超えて四十二年九月大阪市に奉職財務課勤務後衛生課作業係主任を経て市立刀根山療養所事務長に轉じ大正十一年二月現職の都市計畫部主事となつたのである、自身でも謂ふ通り全く學校から兵役、兵役から市役所の徑路であるから實社會に没交渉で市役所に勉め市役所に死する覺悟が宇眉の裡に發見される、

技 術 課

技術課は工務係、調査係から成る、

工務係は工事設計に關する事項、工事施行に關する事項、他の部又は課に於て施行する都市計畫工事の監査に關する事項を掌る

調査係は測量及調査に關する事項、計畫に關する事項を掌る、





技 師

## 花井又太郎氏

☒……正七位花井技師と謂へば如何にも官僚式になるが當の花井君は思ひ切つて平民的な技術家である、而して大阪市都市計畫部に於ても新進氣鋭の頭目とされて居る、彼れは生氣潑潑たる顔面に今三十代の血氣を湛え乍ら堅實な手腕を磨いて行く、そこに着實にして剛健な君特有の素質を凝なして居るのだ、恐らく長舌揃ひの若手技術家中君の如く寡黙で又要領を得る人は先づ少からう、

☒……理論は如何でもよい、誰れの口からも歸結を合理的になし得るものだ……と謂つた調子で君は清談を避けんとする只實際に當つては進んで難問題に打ち込んで然も平然處理して終ふ、若し人あつて推賞すれば然らず、泰然自若たるは腰抜けた結果のみ……とて顧み無い、名利に淡き事は君の性格の一端であらう、凡てを振り切つて同僚の功にする即ち茲に扇然として敬意と人望とを蒐めるのである、

☒……それでも奇略縦横な秘の括つた半面を備へて居る、唐竹を割つた様な淡白さは得意となつて活躍した學生時代の運動好から來た賜物であるならばキリツと引き締めてある訓練は實驗哲學として處世上會得したものである、君は小肥りな單軀を提げて随分學生當時運動家で鳴らしたものだ、庭球、柔道、擊劍、野球凡そ行き當りバツたりせしめた試中短艇の雄壯にして男性的な所を好んだのである、

☒……彼れは偶々盡心盡力而して天命を俟つの要諦を極めて以來益々淡泊な氣象となつた、であるから今日市技師となつて奉職しつゝ、既に異常な高風を具備するのだ、抱擁力を有する一面からは種多な折衝が襲來するとも協調すべき妙徳を植わて居る、熱烈と迄は行かなくとも相當執着したり反撥したりする、それが多くは適度に行はれるので今や廳中の好評の的となつて居るのだ、

☒……尙實地の經歷では朝鮮總督府に奉職する事に及び新領土の根本土木方針を樹立するに參與し徹底の抱負を茲に試練したのである、従つて兎角天狗の多い植民地に重要視された丈け須らく貫録重い、而して如才なさがある、即ち調和する位は茶飯事に過ぎ無い、最近漸く圓熟しつゝあるので深く君の將來は期待される、従つて鋭敏な君も大いに自重して居るご謂ふ、

☒……君は豊川稻荷の附近愛知縣寶飯郡赤坂町の人、明治十九年七月出生、東京商工中學卒業後第一高等學校を経て大正二年東京帝國大學工科大学土木工學科を出た工學士で直ちに朝鮮總督府技師に赴任し居る事五ヶ年同九年三月大阪市技師となつた人である、

### 電氣會社電氣部助手 (其四)

云ふ水彩畫の靜物は物自體を畫面に叩きつけた云ふ様な強味は無く何處か美化に苦心したと云ふ様な跡が見えて居る。それで『此繪等と云ふものは天才が無ければ出來るものではないからね』と云つて居る。彼の藝術は美化の藝術の域を出て居ない。此思想は直ちに彼の社會觀について同様の觀察を下す事が出来る。





技 師

## 武居高四郎氏

君は未だ春秋二十九回の若者にして京大出身の工學士也、明治二十六年八月二日岡山縣御津郡一宮村大字一宮に生る、豪農を家庭とする君は安泰なる擁護と抱擁の下に小學より岡山中學を経て岡山第六高等學校に學び大正三年卒業するに及びて京都に遊び京大土木工學科を大正六年七月卒業せり、二十五歳にして既に活社會に放置され異才と敬遠されて世相に對したる君は早くも早熟を否定し專攻學の試練を避けて茲に奮然學究的態度を把持する事となり、將來の趨向を明察し敢て都市計畫研究の抱負を志し乍ら歐米に留學を決したり、則ち米國ハーヴァート大學、英國リバプール大學等に入學研鑽を遂げ尙佛、獨、白、蘭、瑞西、伊太利等の各地を遍歴して其の實況に就き微細となく苟くも都市事業を攻究したる後大正九年十一月歸朝せり、偶々大阪市の氣運漸く都市計畫事業に傾きたるあり、君擢せられて市の技師となり、現に都市計畫部技術課調査係主任として深き造詣を實現せんす、

君の過去は恰も單調なり、然も大勢の趨く所を道破察知するに妙を得机上の所謂勇者たり、蘊蓄を傾倒し深遠零細の明快なる經綸を行ふは現在以降に在るは論を俟たず雖も君の如き研究的觀念の躍如する青年は蓋し貢獻愈々多くなるあらん、宜なる哉直木博士股肱の士として立案確的の事業調査を爲し現に一步千金の功蹟を献じつゝあり、

好む所は讀書と稱するも政治哲學を推すべく府市間の惡感を打破すべし爲し都市計畫研究會の創設を企圖したる所將に無言の立證也、

君資性慎重にして線香花火的の行爲を嫌ふ事蛇蝎よりも甚だし、そは鹿兒島縣人特有の底力を唯一の信念とし着資漸進を尊ぶに基因するが如し、故に君の眞價を完全に衆知せしめ又は自ら大成を爲すは勿論今後の十年に於て實現せらるゝもの、幸にして清濁併せて抱擁する覺悟を得ば君の爲めに甚だ慶す

君は性格の然らしむる所趣好に現はる、即ち引く迄待たん釣魚かな、自ら嘯いて朝夕糸を垂れ寸暇を得ば其設計に係る指物を作る、

## ○ 土 木 部

土木部には庶務課、技術課、下水改良課、市廳舎建築係がある

### 庶 務 課

庶務課は庶務係、地理係から成る

庶務係は部員の進退、賞罰、給與其他身分に關する事項、公印の監守及部内の取締に關する事項、文書の審査及議案の作成に關する事項、文書の收受、發送、編纂及保管に關する事項、統計及報告に關する事項、豫算の調製及管理に關する事項、物品の出納並保管に關する事項、其他他の課、係の主管に屬せざる事項を掌る

地理係は土地の取得、處分並管理に關する事項、道路、橋梁、溝渠、河川、堤防の使用に關する事項、公園並公園地内の建物使用に關する事項、測量に關する事項、水利組合に關する事項、其他一般地理並土木行政に關



する事項を掌る

### 技 術 課

技術課は道路係、橋梁係から成る

道路係は道路の設計及工事に關する事項、道路の維持及修繕に關する事項、路傍燈の維持及修繕に關する事項、溝渠、共同物揚場の設計及工事に關する事項、溝渠、共同物揚場、下水道の維持及修繕に關する事項、抽水所の管理に關する事項を掌る

橋梁係は橋梁の設計及工事に關する事項、橋梁の維持及修繕に關する事項、樋管の設計及工事並維持修繕に關する事項、渡船に關する事項、橋上燈の維持及修繕に關する事項を掌る

### 市 廳 舍 建 築 係

市廳舍建築係は市廳舍建築設計及工事に關する事項を掌る

### 河 川 課

從來港灣部所屬の河川課は大正十一年四月一日より土木所管となる



技 師

## 川 浪 知 熊 氏

君は大阪市都市計畫部内の少壯三幅對の一人也其の造詣する所誠に多く殊に實踐技術を深く藏すが故に立案確的詳細を極め都市計畫事業に貢献する頗る大なるものあり、敢て工學士の肩書に依つて空虛を誇るに非ず、少壯を以て謂ふに非ず、君を推稱せんとするは一に其の優秀なる技術と明敏なる腦漿と而して調和力に富むを以て也

君は明治二十三年十二月二十九日鹿兒島縣大島郡龜津村に生れ居村の小學を出て四十三年には鹿兒島縣立第二中學校を卒業次いで熊本第五高等學校に入り二部甲類を大正二年に卒へ大正六年京都帝國大學工科大学土木科を了へ茲に工學士の稱號を獲たり同年十月八方を斷つて大阪市役所に勤務せり

始め土木課に屬し其の専攻したる學殖を傾けて市土木事業刷新の爲めに渾身の努力を實行せしが偶々都市計畫事業の大勢は急速施設を必要とするに至り、其の前提として市區改正の計畫あるに遭遇し君擲んでられて改正部員となり、諸計畫の樞機に參し建築實施大ひに勉めて遽かに男振りを上ぐ

次いで内務省都市計畫大阪地方委員會設置せらるゝや、八年二月即ち之れが所屬員に擧げられ直木博士に隨つて地域決定の調査に力關し或は地方委員の爲めに計畫事業の宣傳を試みる等着々として『川浪俺さん』の異名を放射し壯年技師の面目を發揮するに至れり





主 事

## 鍵山武雄氏

⊗物部川の水はいつに變らず海に注いで居る、河岸に移り行く春秋何百年繰り返すも近く水は遂に山から海に流れるのである、鍵山君が慈母の胸に抱かれ乍ら螢の宵を其處に樂んだあの時はもう既に四十幾星霜の昔譚りとなつた、歴史に縁り深いこの川の由緒ある説明を聞いたのも思へば朦朧な過去と變つて終つた、この高知縣香美郡を繞る流水は今も尙滾々として盡きぬが果して片地村の腕白であつた武雄の今半白の初老に變つた事を記憶するや否や、

⊗……實に人生は夢の間に若老位置を轉ずるものである、長し信ずれば短く樂しむ笑へば苦酸立ちまじりに到るではないか、一度志を樹て、郷關を出たのも最早三十年の古い夢幻に化した……君の默想こゝに達すれば笑ひに紛らしつゝ斯う語るのである、而して記憶の確かな其頭腦から走馬燈の様な懷舊談が屢々漏れる、哲學的思索に富む言句は概ね人の肺腑を射る快談となるのである

⊗……行きて土木部庶務課を訪へ、彼れは壯重な而して大柄な軀幹を課長席に据わて乃木型顔面に笑を湛へ乍ら諄々として語るであらう……人の生は死に隨いて消滅する、若し永生を欲すれば神佛に虚偽の歎願を試みる暇に少しでも我等の職分に忠ならんとすればよいに何んの事だい、自ら援けざる偶然の裡に大した結實を求めて居る……ねね君さ來る

⊗……彼れの信念は蓋し玉碎にあつて精力主義にある、故に實踐する所も亦些の間欠を始さない、假りに大欠伸を吐

いて勤直の中断を行ふ事あるも實は事務の一端に充分な努力を拂つた後ちの少憩で腹案成り立案意を得た時折りに過ぎない、従つて萬人の轍に倣つて倦怠の色を認めぬのが抑も君の性癖を知らぬ評言となるのである

⊗……君の性格は温厚にして不拔の劍を呑む所謂體相自在の變通を併有して居るのである、勿論多年の經驗も原因して居るが併し乍ら水晶の様に研え切つた智識に因つて磨き上げたもので簡單に謂へば圖抜けて頭がよいのに歸着する、彼れは明治九年五月生れ世に謂ふ五月生れの戸丈に謬りなく六尺近くの大男ではないが可成り大きい人である

⊗……郷里の中學を去り大阪に來つて関西大學を卒業したのは明治三十七年で判檢事受験に應ずる爲め小學教員、遞信局吏員等に食道を求め努力苦心を凝したのも其時代であつた、超えて三十九年大阪市に就職し前後十四ヶ年餘土木部の事務に従つて居る、其は殆ど名手、淨瑠璃は堂に入つたものである

### 電氣會社電氣部助手 (其五)

勞働者の學問の無い點、無作法で愨張つて居る點等につきては口を極めて悪口を云ふ彼の理想は純粹や粗朴ではない。雄大さか堂々と立派さか云ふ事である。極端なる差別的觀念を以て優劣敗の原理を「神よ地上に優劣敗の理を與へ給ひし事を謝す」と云ふ様な意味で大いに感謝して居るらしい。二種の試験に及第した事等も彼の差別的な見解が最も手傳つて居る。

二十五は云へど三十前後に見へる。基督教並に日蓮宗を研究して居る。物の裏迄見貫く様な彼の性質に惚れて「己の方に來ないか、己の方に」云つて互に彼を引張り合つて居る。日蓮宗は皇室中心主義であるのに對して基督教は「天の神が唯一の我等の禮拜す可きもの」云つて居る。





主 事

## 村尾 静明氏

⊗……村尾君は社會部事業課長の要位にある現代的新進の士である、比較的難關を唱へらるゝ市社會事業當面の擔當者は努力の割合に兎や角の批評を浴せられるので所謂社會的の報酬する所甚だ輕微極まる點がある、従つて世事に馴れぬ輩が此處に勤むる時には須臾にして人面白くもないと謂つた様な感じが忽ち湧いて最早我慢が出来か難る事になるのだ、若し夫れ村尾君を以て氣鋭一點張りの士とするならば此の立場にあり乍ら坦々乎して處して行く様を何んぞ解くか、恐らく解き兼ねるであらう

⊗……殊に君たる者曾ては洋劍を提けて群集を叱咤し不法者の拘束、犯罪人の捜査等司法行政兩様の警察事務に従事した警務官であつた、其職務上より來る一種の社會觀と二重人格とが之れありとするならば一朝劍を棄て丸腰の公吏になつてよく此難位に耐けて行かれると想定し得るだらうか、概ね斯る過去を有つ人は斷じて楚々たる處世を凝し得ぬ所である然るに而も君は破顔一笑常に批判の矢面に立ち己れを制御しつゝよく努力と献身とを遂げて行くのである、其考想や洵に機宜に適し其處務や稀れに見る簡捷家だ

⊗……君は舊鳥取池田藩士の息で明治十六年十二月生れ本年不惑の齡にある人である、明治三十七年當時在阪中を好機とし雪螢の功を積んで關西法律學校正科を卒業し翌年二月大阪府警部を拜命警務課、衛生課等に勤務し同四十三年抜

擢されて東京警察官練習所に入り四十四年修業後再び府に勤め時の大塚知事に知遇されて官房秘書となり大久保知事時代まで歴任した、大正四年に至り玉造警察署長に轉じ同六年警視に進み會根崎署長となり更に難波署長を経て同九年本部消防課長を勤め十年九月退職後大阪市主事の現職となつたのである

⊗……君は頗る嚴格な男で大義觀を減し公務私を斥ける體の人である、官吏として重に警官として在官する事將に十有七ヶ年肅々靜々常に上司に従つて勢力を傾け職に殉じて私慾を制し異常な才智を揮つては餘暇に修養之れ積み上げたのである、従つて人一倍克己心に富み何事にも敗けず嫌ひの精神を以て精々努力怠らぬのだ、偶々君が難波署長時代米騒動事件で大阪市全體が動搖する騒ぎである然も君は肝膽を注いで切に部内の警戒を爲し善く統御したものだ

⊗……宜なり君は渾身凡て奉公の念に燃えて居る其好む所の如きも軟文華學の類を排して専ら組織的な法務書籍に置き寸時も之れを割いて勉め勵むのである、茲に於てか尙する君の意志も所詮は斷乎たるものだ、曾て在官當時君は特別大演習大阪府記録其他を編纂し尙指紋法要義等を著述し大ひに斯界の指導を致したのである、今や君市に入り着々として社會事業に染手し私かに貢獻の途を選んで居る

⊗……近來メツキリ男振を上げた君は特に選拔されて土木部庶務課長に榮轉し主として土木行政の衝に當る事となつた、

## 電氣會社電氣部助手 (其六)

彼には教理等問題ではない人を殺すに刀を用ひ様がピストルで撃たうが構はぬといふのである。

由つて以て一方に雄視する事が出来るなら問題は無いのである意氣昂り身長も五尺五六寸、體格